地区	統番号	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
756	Ⅱ	Ⅱ-土123-128	土123	土器	皿	8.3	5.6	2.3	行明道か，ロクロ成形，内外面に煤付着	不明	-	19c か	在地か
757	Ⅱ	Ⅱ-土123-125	土123	土器	皿	8.4	6.2	2.1	行明道か，ロクロ成形，口縁部内外面に煤・タール付着	淡灰褐	-	19c か	在地か
758	Ⅱ	Ⅱ-土123-124	土123	土器	皿	8.6	5.8	1.75	行明道か，ロクロ成形，底部に穿孔 2，口縁に煤付着	暗褐	-	不明	在地か
759	Ⅱ	Ⅱ-土123-126	土123	土器	皿	10.4	7.2	3.1	行明道か，ロクロ成形，内外面に煤付着	褐	-	17c 前半か	在地か
760	Ⅱ	Ⅱ-土123-129	土123	土器	皿	10.4	6.6	2.8	行明道か，ロクロ成形，内外面に煤付着	灰褐	-	17c か	在地か
761	Ⅱ	Ⅱ-土123-131	土123	土器	壺か	(12.6)	-	-	口縁～肩部にミガキのち洗顔，肩部に鉛み	暗褐	-	不明	不明
762	Ⅱ	Ⅱ-土123-130	土123	土器	焙烙	(32.2)	(22.6)	5.4	外面一部ミガキ，腰部に穿孔 2，内外面に煤付着	暗褐	-	幕末～	在地か
763	Ⅱ	Ⅱ-土123-132	土123	土器	不明	(8.6)	9.0	5.3	板づくり，外面煤付着	褐～暗灰	-	不明	不明
764	Ⅱ	Ⅱ-土123-110	土123	土製品	人形	-	-	-	大黒天，陶器，鉄絵，中空	灰	透明釉・鉄絵	不明	不明
765	Ⅱ	Ⅱ-土123-111	土123	土製品	人形	-	-	-	入物立像，陶器，前後型合せ，中空，底部に墨書	淡黄灰	透明釉・緑	不明	不明
766	Ⅱ	Ⅱ-土123-114	土123	土製品	動物	2.8	1.4	3.7	犯犬，前後型合せ，中実，底部に墨書	淡褐	-	18c 末	京か
767	Ⅱ	Ⅱ-土123-115	土123	土製品	動物	4.4	-	-	鶴，陶器，手捻り，中実，腹部に透明釉掛	淡灰白	灰釉・赤・黄	不明	不明
768	Ⅱ	Ⅱ-土123-113	土123	土製品	箱庭道具	-	1.6	-	鍋門，焙器，型押成形	暗灰	-	19c 前半	不明
769	Ⅱ	Ⅱ-土123-28	土123	土製品	ミニチュア	(2.5)	(0.8)	1.4	碗，磁器，型押成形	白	透明釉	不明	肥前
770	Ⅱ	Ⅱ-土123-29	土123	土製品	玩具	-	-	-	長 2.25，幅 2.4，厚 0.5，円盤，磁器，転用品	淡灰	染付	近世	肥前
771	Ⅱ	Ⅱ-土123-112	土123	土製品	玩具	-	-	-	長 1.9，幅 2.0，厚 0.6，円盤，陶器，箱庭小転用	淡黄白	鉄釉	17c か	瀬戸・美濃
772	Ⅱ	Ⅱ-土123-133	土123	土製品	不明	-	-	-	長 6.5，幅 4.2，手捻り成形	淡黄灰褐	-	不明	不明
773	Ⅱ	Ⅱ-土124-1	土124	磁器	碗	(8.3)	(4.0)	5.8	外面に蓮弁文，見込み に草花文，登 10 小	白	染付	19c 前半	瀬戸・美濃
774	Ⅱ	Ⅱ-土124-2	土124	陶器	碗	(9.5)	3.3	4.95	端反碗，外面にイッチン白釉・鉄絵で梅花文，縁外～内面に白泥，登 9 小	淡褐	白泥・透明釉・イッチン・鉄絵	19c 初頭	瀬戸
775	Ⅱ	Ⅱ-土124-3	土124	陶器	鍋	(15.5)	(6.7)	7.2	行平鍋，外面に飛龍文，把手上面に鉛釉型押で唐草文，内外面に煤付着	淡褐	鉄釉	幕末～	洗馬か
776	Ⅱ	Ⅱ-土124-4	土124	陶器	灯明受皿	(9.85)	(4.1)	2.5	油孔 1，登 10・11 小	淡黄白	灰釉	19c	瀬戸
777	Ⅱ	Ⅱ-土125-1	土125	磁器	碗	(9.5)	(3.9)	5.2	端反碗，内外面に縦き落しで草花文，登 10 小	白	染付	19c 前半	瀬戸・美濃
778	Ⅱ	Ⅱ-土125-2	土125	土器	焙烙か	(11.5)	(6.7)	4.25	足込みに煤付着	褐	-	幕末～か	在地か
779	Ⅱ	Ⅱ-土142-1	土142	磁器	小杯	(3.9)	-	-	外面に小可子，上絵（赤）で鳥文，内面・口縁に小可子，透明釉	白	柚下彩・上絵	近代	不明
780	Ⅱ	Ⅱ-土142-4	土142	磁器	碗	(7.2)	3.4	6.6	筒形碗，外面に飛龍文，縁内に四方陣文，見込み 1 重圏線内にコンニャク印で五弁花文，透明釉	白	染付	18c 後半	肥前
781	Ⅱ	Ⅱ-土142-5	土142	磁器	碗	11.5	5.4	6.5	広東碗，外面に草花文，縁内に 2 重圏線，見込み 1 重圏線内に鳳文	白	染付	18c 末～19c 前半	肥前
782	Ⅱ	Ⅱ-土142-2	土142	磁器	碗	(9.5)	(4.6)	4.5	端反碗，外面に松文，見込みに鳥文	白	染付	19c 前半～幕末	肥前
783	Ⅱ	Ⅱ-土142-3	土142	磁器	碗	-	(4.0)	-	外面に梁唐草文・短歌唐文，見込み 2 重圏線内に只文か，高台内に銘，登 9 小前	白	染付	19c 初頭	瀬戸
784	Ⅱ	Ⅱ-土142-6	土142	陶器	碗	(6.1)	-	-	登 10・11 小	灰白	灰釉	幕末	美濃
785	Ⅱ	Ⅱ-土142-10	土142	瓦器	碗	(8.0)	3.2	5.9	外面に鳥獣人物・竹文，縁内に 2 重圏線，見込み 1 重圏線内に五弁花文，焙煎焼け，登 10・11 小	灰	染付	19c	美濃
786	Ⅱ	Ⅱ-土142-7	土142	陶器	碗	(10.7)	-	-	外面に鉄絵・兵庫絵で文様	淡灰白	灰釉・鉄絵・兵庫絵	18c 後半～幕末	不明
787	Ⅱ	Ⅱ-土142-11	土142	土器	焙烙	(28.0)	(18.0)	4.7	内耳 1 残存，口縁～内面にミガキ，外面に煤付着	暗褐	-	18c 後半～幕末	在地か
788	Ⅱ	Ⅱ-土142-9	土142	土製品	人形	-	-	4.45	若人，陶器，前後型合せ，中空，底面に墨書「ネヲ」	淡褐白	透明釉・緑・茶	不明	京・信楽か
789	Ⅱ	Ⅱ-土143-3	土143	磁器	碗	(11.15)	-	-	外面に草花文，縁内に四方陣文，見込みに 2 重圏線	白	染付	18c 中葉～幕末	肥前
790	Ⅱ	Ⅱ-土143-2	土143	磁器	碗	(8.7)	(3.4)	5.55	外面に竹間に草花文・○×文，縁内に四方陣文，見込み 2 重圏線内に文様	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
791	Ⅱ	Ⅱ-土143-1	土143	磁器	碗	8.8	3.0	5.4	外面に虹雲文，縁内 2 重圏線，見込み 2 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
792	Ⅱ	Ⅱ-土143-11	土143	磁器	碗	(7.7)	3.7	5.8	筒形碗，外面に松竹文，縁内に四方陣文，見込み 2 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前
793	Ⅱ	Ⅱ-土143-4	土143	磁器	碗	(7.9)	-	-	外面に七福神宝船文，縁内に 2 重圏線	白	染付	18c 末～幕末	肥前
794	Ⅱ	Ⅱ-土143-5	土143	磁器	紅皿	(3.85)	1.8	1.4	型押成形	白	染付	18c ～幕末	肥前
795	Ⅱ	Ⅱ-土143-10	土143	磁器	皿	-	-	2.4	口径短軸 (7.8)，底径短軸 (3.8)，変形皿，糸切底工，外面に手描き文様，内面に型紙摺絵，透明釉	白	染付	18c 前半	肥前
796	Ⅱ	Ⅱ-土143-6	土143	磁器	皿	(15.0)	(10.0)	3.0	外面に文様，内面に草文，蛇の目凹形高台	白	染付	18c 後半～幕末	肥前
797	Ⅱ	Ⅱ-土143-7	土143	磁器	皿	-	9.0	-	外面に文様，内面に草文・輪花文，蛇の目凹形高台	白	染付	18c 後半～幕末	肥前
798	Ⅱ	Ⅱ-土143-8	土143	磁器	皿	(14.6)	(9.0)	4.7	外面に草文，内面に蓮華文，蛇の目凹形高台	白	染付	18c 後半～幕末	肥前
799	Ⅱ	Ⅱ-土143-9	土143	磁器	皿	22.15	13.3	3.3	外面に唐草文，内面に牡丹文，高台内に八弁文丸紋，透明釉	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
800	Ⅱ	Ⅱ-土143-12	土143	磁器	猪口	(8.0)	(6.6)	(6.2)	輪花，外面に竹間に草文，縁内に四方陣文，見込み内に 2 重圏線，蛇の目凹形高台	白	染付	18c 後半	肥前
801	Ⅱ	Ⅱ-土143-21	土143	陶器	小杯	(6.2)	2.7	2.85	-	淡黄灰	灰釉	18c 後半～幕末	美濃
802	Ⅱ	Ⅱ-土143-13	土143	陶器	碗	(6.1)	3.2	3.6	-	淡黄褐	灰釉	18c 後半～19c 初頭か	瀬戸・美濃
803	Ⅱ	Ⅱ-土143-14	土143	陶器	碗	(10.0)	-	-	外面に上絵（緑・黒・赤）で狩文，連弁 c	淡黄白	灰釉・上絵	18c 後半	美濃

版	時期区分	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
804	Ⅱ	Ⅱ-上143-16	上143	陶器	碗	(9.5)	(3.5)	5.3	小杉碗	淡黄白	透明釉	18c 中葉	信楽
805	Ⅱ	Ⅱ-上143-17	上143	陶器	碗	(10.2)	4.0	6.0	小杉碗、外面に鉄絵で若松文	黄白	透明釉	18c 中葉	信楽
806	Ⅱ	Ⅱ-上143-18	上143	陶器	碗	10.5	3.3	6.25	小杉碗、外面に鉄絵で若松文	淡黄白	透明釉	18c 中葉	信楽
807	Ⅱ	Ⅱ-上143-15	上143	陶器	碗	(9.6)	(3.5)	5.9	端反碗、口縁部内外面に反別	淡黄灰	灰釉・灰釉	19c 初頭～幕末	瀬戸・美濃
808	Ⅱ	Ⅱ-上143-19	上143	陶器	碗	9.8	4.6	5.05	せんじ、高台内に墨書「反ヶ」、箱熟、登7小	淡黄褐	灰釉	18c 中葉	瀬戸
809	Ⅱ	Ⅱ-上143-20	上143	陶器	碗	11.1	4.7	7.2	象骨茶碗、鉄釉の ち外面にうのふ釉、象骨釉9、貫付に朝日、登8・9小	淡黄白	鉄釉・うのふ釉	18c 後半～19c 初頭	瀬戸・美濃
810	Ⅱ	Ⅱ-上143-22	上143	陶器	土瓶	8.0	9.0	10.9	鉄釉口、把手に朝み、底部脚に博子状の脚1残存	褐	灰釉	18c 後半～幕末	不明
811	Ⅱ	Ⅱ-上143-25	上143	石器	土瓶	7.2	-	-	把手に切み	灰	鉄釉	18c 後半～幕末	不明
812	Ⅱ	Ⅱ-上143-23	上143	陶器	行平鍋	(19.4)	-	-	内面に鉄釉	赤褐	鉄釉	18c 末～	不明
813	Ⅱ	Ⅱ-上143-26	上143	瓦器	火鉢	(30.6)	-	-	輪積み成形、外面にミガキ、被覆瓦質	黒	-	18c 後半～	在地か
814	Ⅱ	Ⅱ-上143-27	上143	土器	皿	8.95	4.9	2.0	灯明皿か、ロクロ成形、口縁部内外面に煤・タール付着	灰褐	-	不明	在地か
815	Ⅱ	Ⅱ-上143-24	上143	土製品	ミニチュア	(6.4)	-	-	土鍋、陶器	灰	鉄釉	18c 後半～幕末	不明
816	Ⅱ	Ⅱ-上144-1	上144	土製品	人形	-	-	3.95	人物立像、前後型合せ、中央、底面に穴、キリ残存	淡灰白	-	不明	不明
817	Ⅱ	Ⅱ-上153-1	上153	磁器	碗	(9.8)	-	-	端反碗、外面に風鐘、縁内に縫き流しで如意雲文、見込み2重圏線、登10小	白	染付	19c 前半	瀬戸・美濃
818	Ⅱ	Ⅱ-上153-2	上153	陶器	皿	(9.2)	-	-	-	淡褐白	灰釉	18c 後半～幕末	瀬戸・美濃
819	Ⅱ	Ⅱ-上153-3	上153	陶器	灯明受皿	(9.9)	(3.9)	2.15	登8小	淡褐白	鉄釉	18c 後半	美濃
820	Ⅱ	Ⅱ-上160-1	上160	瓦器	燈明	-	23.4	-	硬質瓦質、外面に隔朝型押、脚部にミガキ	淡褐灰	-	18c 後半～	在地か
821	Ⅱ	Ⅱ-上161-1	上161	陶器	仏飯器	-	4.9	-	底面に墨書「釣由□□」	淡黄白	灰釉	19c 前半か	瀬戸・美濃か
822	Ⅱ	Ⅱ-上161-2	上161	陶器	茶入	-	(3.6)	-	-	黒褐	鉄釉	不明	瀬戸・美濃
823	Ⅱ	Ⅱ-上161-3	上161	陶器	壺	(8.5)	-	-	短頸壺、外面に煤付着	淡黄白	鐵釉	18c 後半～幕末	美濃
824	Ⅱ	Ⅱ-上161-4	上161	土器	皿	8.35	6.3	2.33	ロクロ成形	不明	-	19c か	在地か
825	Ⅱ	Ⅱ-上161-5	上161	土器	皿	10.3	6.0	2.05	ロクロ成形	褐	-	19c か	在地か
826	Ⅱ	Ⅱ-上169-1	上169	磁器	碗	(10.9)	4.6	6.0	外面に帆掛け舟文、高台内に1重圏線	白	染付	17c 後半	肥前
827	Ⅱ	Ⅱ-上169-2	上169	青花	皿	-	(7.6)	-	見込み2重圏線内に竹梅文、漆雨文か	淡灰	染付	16c 末～17c 初頭	中国
828	Ⅱ	Ⅱ-上169-3	上169	青磁	皿	-	(12.0)	-	内面にヘラ彫りで蓮文、高台内に鐵釉、波状足	灰	青磁釉・鐵釉	17c 中葉	肥前
829	Ⅱ	Ⅱ-上169-4	上169	磁器	碗	11.3	5.6	6.9	尾長茶碗、外面に船釉のち灰釉掛し掛け、登5小	淡黄灰	船釉・灰釉	17c 末	瀬戸・美濃
830	Ⅱ	Ⅱ-上182-1	上182	磁器	碗	(7.7)	(2.6)	3.2	外面に祇文・洗衣文・蝶文	白	染付	18c 中葉～後半	肥前
831	Ⅱ	Ⅱ-上182-3	上182	土器	皿	9.6	6.4	2.85	灯明皿か、ロクロ成形、口縁に煤付着	黄褐	-	18c か	在地か
832	Ⅱ	Ⅱ-上183-1	上183	陶器	碗	(7.2)	-	-	外面に白尻・鉄絵で文様	茶褐	透明釉・白尻・鉄絵	18c 後半～幕末	瀬戸
833	Ⅱ	Ⅱ-上183-2	上183	陶器	皿	(6.9)	(3.0)	1.85	型皿	灰白	灰釉	19c 前半か	瀬戸
834	Ⅱ	Ⅱ-上183-3	上183	土器	皿	(8.3)	(6.0)	1.75	ロクロ成形	灰褐	-	19c か	在地か
835	Ⅱ	Ⅱ-上184-1	上184	土製品	動物	(10.3)	-	-	鳥、陶器、中空、型押成形か	灰褐	黄	不明	不明
836	Ⅱ	Ⅱ-上185-1	上185	磁器	碗	(9.7)	5.8	2.1	端反碗、外面に寿字文、縁内に2重圏線、見込み1重圏線内に寿字文	白	染付	19c	肥前
837	Ⅱ	Ⅱ-上185-2	上185	陶器	碗	-	-	-	外面に上絵（緑）で唐文、登8・9小	淡黄白	灰釉・上絵	18c 後半～19c 初頭	瀬戸
838	Ⅱ	Ⅱ-上190-1	上190	磁器	碗	(7.7)	2.9	4.0	型紙摺絵、外面に鳥文、縁内に雷格文	白	染付	明治	美濃
839	Ⅱ	Ⅱ-上190-2	上190	土器	皿	(6.5)	2.1	4.45	ロクロ成形	褐	-	19c か	在地か
840	Ⅱ	Ⅱ-上191-1	上191	陶器	碗	(9.4)	-	-	せんじ、登7小	黄褐	灰釉	18c 中葉	瀬戸
841	Ⅱ	Ⅱ-上192-1	上192	石器	碗	(7.3)	(3.1)	5.7	粗型器か、外面に斜格子地に菊花文、縁内に2重圏線か、見込みに五弁花文、花部染付か、連続Ⅳ a	灰	染付	幕末	美濃
842	Ⅱ	Ⅱ-上192-2	上192	磁器	皿	(16.8)	-	-	外面に唐草文、内面に花唐草文	白	染付	17c 末～18c	肥前
843	Ⅱ	Ⅱ-上192-3	上192	土器	皿	(11.0	(7.0)	2.7	ロクロ成形	褐	-	不明	在地か
844	Ⅱ	Ⅱ-上195-1	上195	磁器	碗	(10.1)	(5.2)	7.0	外面に文様	白	染付	17c 末～18c	肥前
845	Ⅱ	Ⅱ-上195-2	上195	磁器	小杯	6.5	3.4	3.0	底面に焼成面弾孔か	褐灰	鉄釉	17c	美濃
846	Ⅱ	Ⅱ-上196-1	上196	磁器	小杯	5.75	2.6	2.45	-	白	透明釉	近世	肥前
847	Ⅱ	Ⅱ-上196-3	上196	磁器	小杯	7.65	2.9	4.9	高台内に銘「2重角に瓢」	白	染付	17c 後半～18c 前半	肥前
848	Ⅱ	Ⅱ-上196-2	上196	磁器	碗	11.0	(5.0)	6.4	外面に虫籠・梅文、高台内1重圏線	白	染付	17c 末～18c 前半	肥前
849	Ⅱ	Ⅱ-上196-4	上196	磁器	皿	14.55	9.7	2.55	外面に草文か、内面に山水文、高台内1重圏線内に銘「1重角に不明字」・ハリ芝文	白	染付	17c 後半～18c 前半	肥前
850	Ⅱ	Ⅱ-上196-5	上196	磁器	皿	(21.65)	(13.2)	3.1	内面に染付・上絵（赤・金・黒）で梅に木瓜文か、漆継痕	白	染付	17c 後半か	肥前
851	Ⅱ	Ⅱ-上196-6	上196	磁器	皿	20.85	14.1	4.45	輪花、外面に花唐草文、内面に孤山水・花唐草文、高台内1重圏線内に銘「2重角に異体字」・ハリ芝麻布	白	染付	17c 後半	肥前
852	Ⅱ	Ⅱ-上196-7	上196	陶器	向付	15.1	5.7	3.85	御深井、本瓦形、ロクロのち型付ち成形、連続Ⅲ a・b	黄白	御深井釉	17c 後半～18c 前半	美濃
853	Ⅱ	Ⅱ-上196-9	上196	陶器	煙管	34.4	9.7	15.8	竹口、雁行16本1単位、内面に目跡（トチ）4	淡黄灰	鉄釉	17c 後半	美濃
854	Ⅱ	Ⅱ-上196-8	上196	陶器	水注	4.6	5.1	7.4	耳付水注、把手2、外面に船釉・内面に鐵釉のち石灰一斜にうのふ釉流し掛け、耳間紐	淡黄褐	船釉・鐵釉・うのふ釉	17c 後半～18c 初頭	美濃
855	Ⅱ	Ⅱ-上196-11	上196	土器	皿	8.6	5.2	2.1	灯明皿か、ロクロ成形、口縁に煤付着	不明	-	不明	在地か
856	Ⅱ	Ⅱ-上196-10	上196	土器	焙烙	29.3	24.0	7.1	内耳2、内外面に煤付着	暗褐	-	18c	在地か
857	Ⅱ	Ⅱ-上197-1	上197	磁器	皿	(14.2)	(7.1)	2.55	輪花、型打成形か、見込み2重圏線内に山水文、高台内に銘「□明」	淡灰	染付	17c 後半（第3四半）	肥前
858	Ⅱ	Ⅱ-上198-1	上198	陶器	碗	(10.8)	-	-	天目茶碗、大窯3後～4前	淡褐白	鉄釉	16c 後半	美濃
859	Ⅱ	Ⅱ-上198-2	上198	陶器	碗	-	5.2	-	黒楽、熱貫施釉陶器、手捏ね成形か、空面施釉	褐～灰	黒釉	16c 末～	京
860	Ⅱ	Ⅱ-上198-3	上198	土器	皿	(9.9)	(6.6)	2.25	灯明皿か、ロクロ成形、口縁打ち欠きか、口縁に煤・タール付着	黒褐	-	18c か	在地か

塩	結晶面	実測番号	遺構	種別	器形	法量 (cm) 口径	底径	器高	技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
861	Ⅱ	Ⅱ-上199-1	上199	陶器	碗	-	4.0	-	天目茶碗，内面に灰釉流し掛け	淡灰白	鉄釉・灰釉	17c	美濃
862	Ⅱ	Ⅱ-上200-1	上200	磁器	碗	(8.5)	(5.7)	7.85	外面に菊花文，縁内に2重圏線，高台に砂付着	淡灰	染付	近世	肥前
863	Ⅱ	Ⅱ-上200-2	上200	土器	皿	8.55	4.25	2.88	灯明皿か，ロクロ成形，内外面に煤付着	褐	-	17c後半～18c か	在地か
864	Ⅱ	Ⅱ-上201-1	上201	磁器	皿	(20.0)	(9.1)	2.7	輪花皿，陽刻，見込み上絵（赤・金・黒）で唐草文・風景か，高台に砂付着	白	透明釉・上絵	17c か	肥前か
865	Ⅱ	Ⅱ-上201-2	上201	陶器	碗	(6.8)	(3.2)	4.3	口縁に溶着痕	淡灰白	鉄釉か	17c 後半か	美濃
866	Ⅱ	Ⅱ-上201-3	上201	陶器	碗	(11.7)	(4.6)	6.85	外面に楼閣山水文，高台内に銘「清水」，京焼風肥前	黄白	透明釉・呉須絵	17c 後半	肥前
867	Ⅱ	Ⅱ-上201-4	上201	陶器	擂鉢	(37.4)	-	-	櫛目 13 本 1 単位	淡黄白	鉄釉	17c 後半	美濃
868	Ⅱ	Ⅱ-上201-6	上201	土器	皿	(9.0)	(6.6)	2.5	灯明皿か，ロクロ成形，口縁に煤付着，底面に墨書「○」	淡灰褐	-	不明	在地か
869	Ⅱ	Ⅱ-上201-7	上201	土器	皿	9.1	5.8	2.3	灯明皿か，ロクロ成形，口縁に煤付着，底面に墨書「○」	褐	-	不明	在地か
870	Ⅱ	Ⅱ-上201-8	上201	土器	皿	9.7	6.2	2.35	灯明皿か，ロクロ成形，内外面に煤・タール付着，底面に墨書「○」	褐	-	不明	在地か
871	Ⅱ	Ⅱ-上201-9	上201	土器	皿	12.45	7.5	2.7	灯明皿か，ロクロ成形，内外面に煤・タール付着	不明	-	不明	在地か
872	Ⅱ	Ⅱ-上201-5	上201	土器	焙烙	(32.0)	(24.2)	7.75	内耳 2，外面に煤付着	暗褐	-	18c	在地か
873	Ⅱ	Ⅱ-上202-2	上202	土器	皿	11.65	6.6	3.6	灯明皿か，ロクロ成形，内外面に煤付着	灰褐	-	16c 末～17c 前半か	在地か
874	Ⅱ	Ⅱ-上202-1	上202	土器	皿	(10.1)	(6.5)	2.85	灯明皿か，ロクロ成形，内外面に煤付着，底面に墨書「鍋」	褐	-	16c 末～17c 前半か	在地か
875	Ⅱ	Ⅱ-上203-1	上203	土器	皿	(11.4)	(5.7)	3.1	灯明皿か，ロクロ成形，内外面に煤付着	褐	-	18c か	在地か
876	Ⅱ	Ⅱ-表状-1	表状遺構	磁器	碗	9.05	3.2	4.87	外面に四方襷文・芯文・雷紋文，縁内に蔓草文，見込み上に手花文，焼継のち漆継痕	白	染付	18c 前半	肥前
877	Ⅱ	Ⅱ-表状-2	表状遺構	陶器	碗	(6.1)	(3.5)	3.85		淡灰白	鉄釉	17c 末～幕末	瀬戸・美濃
878	Ⅱ	Ⅱ-検-1	検出面	磁器	小杯	(5.4)	1.5	2.8	外面に鉄格子・市松文	白	染付	17c 末～幕末	肥前
879	Ⅱ	Ⅱ-検-2	検出面	磁器	仏飯器	(7.0)	3.9	5.8	外面に唐草，内面に青磁釉，見込み 2 重圏線内に梅鉢，蛇の目凸型高台，高台内に銘「2 重枠に鶴亀」	白	染付・青磁釉	18c 後半	肥前
880	Ⅱ	Ⅱ-検-3	検出面	磁器	皿	(10.2)	6.9	2.15	外面に唐草文，内面に青磁釉，見込み 2 重圏線内に梅鉢，蛇の目凸型高台，高台内に銘「2 重枠に鶴亀」	白	染付・青磁釉	18c 後半	肥前
881	Ⅱ	Ⅱ-検-4	検出面	磁器	皿	-	5.35	-	見込み 2 重圏線内に梅文・輪花文，高台に砂付着，漆継痕	白	染付	17c 後半	肥前
882	Ⅱ	Ⅱ-検-5	検出面	磁器	皿	12.9	7.3	3.5	外面に唐草文，内面に蔦・水草文，見込み 2 重圏線内にコンニャク印刷で五弁花文，高台内 1 重圏線内に銘銘れた「入明年製」	白	染付	17c 末～18c	肥前
883	Ⅱ	Ⅱ-検-6	検出面	磁器	皿	-	(11.8)	-	外面に上絵（緑・黒・黄・赤）で唐草文，内面に上絵（緑・黄・黒・黄）で蔦葉・七宝文・四方襷文，高台に砂付着	灰	透明釉・上絵	17c 中葉か	肥前
884	Ⅱ	Ⅱ-検-7	検出面	磁器	御神酒徳利	-	3.9	-	外面に松竹梅文，登 10 小	白	染付	19c 前半	瀬戸・美濃
885	Ⅱ	Ⅱ-検-15	検出面	磁器	カキタテ	-	-	3.9	上面に文様	白	染付	幕末～明治	肥前
886	Ⅱ	Ⅱ-検-8	検出面	磁器	蓋	-	-	2.65	外径 (10.0)，鐘み径 4.2，外面に竹梅文・雷紋文，縁内に四方襷文，天井 2 重圏線内に五弁花文	白	染付	18c	肥前
887	Ⅱ	Ⅱ-検-9	検出面	陶器	皿	(11.4)	5.3	2.65	内面に櫛状（刻目）で枝梅文，漏斗底 c	淡黄褐	灰釉・呉須	18c 後半	美濃
888	Ⅱ	Ⅱ-検-10	検出面	陶器	皿	(13.1)	6.3	4.1	外面に文様，内面に半襷文，見込み 1 重圏線内に五弁花文か，高台内に梅の目，陶彩染付，登 9 小	淡黄褐	染付	19c 初頭	瀬戸
889	Ⅱ	Ⅱ-検-17	検出面	須恵器	擂鉢	(30.3)	-	-	櫛帯に沈線 2	暗紫	-	18c 後半～19c 中葉	堺
890	Ⅱ	Ⅱ-検-18	検出面	陶器	擂鉢	-	-	-	内面に刷目（⑤），漆継痕	赤褐	鉄釉か	18c 後半～幕末	不明
891	Ⅱ	Ⅱ-検-11	検出面	陶器	御猪口	5.5	5.6	2.75	碗状若干 1	灰	灰釉	18c 後半	美濃
892	Ⅱ	Ⅱ-検-12	検出面	陶器	碗	4.5	5.8	7.55	有耳壺，内面無釉，内面に黒色付着物，鉄錆意として使用か	淡黄白	飴釉	18c 前半～中葉	美濃
893	Ⅱ	Ⅱ-検-13	検出面	陶器	灯明受皿	7.1	2.8	1.65	漆継ぎ，登 10・11 小	淡灰白	灰釉	幕末	瀬戸
894	Ⅱ	Ⅱ-検-14	検出面	陶器	合子蓋	-	-	0.75	外径 4.2	淡黄褐	灰釉	17c 末～幕末	美濃
895	Ⅱ	Ⅱ-検-19	検出面	土器	皿	15.0	8.0	2.6	ロクロ成形，底部回転糸切の弓手持ちヘラ削り，内外面に煤付着	灰褐	-	不明	在地か
896	Ⅱ	Ⅱ-検-16	検出面	土製品	人形	-	-	-	幅 2.85，人物立像，胸部，前後撃合せ，中実	淡黄褐	透明釉・黄	不明	不明
897	Ⅲ	Ⅲ-溝 9-1	溝 9	黒色土器A	鉢	(12.6)	-	-	内面ミガキ・黒色処理	淡黄褐	-	9c 前半～中葉	在地か
898	Ⅲ	Ⅲ-土 87-1	土 87	土器	皿	(10.1)	(6.0)	2.65	ロクロ成形，内外面に煤付着	暗黄褐	-	18c か	在地か
899	Ⅲ	Ⅲ-土 112-1	土 112	陶器	皿	(10.1)	(6.0)	2.1	長石釉丸皿，登 2 小	黄白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
900	Ⅲ	Ⅲ-土 112-2	土 112	陶器	皿	(11.0)	6.6	1.85	長石釉丸皿，高台内に目跡 1，登 2 小	黄白	長石釉	17c 前半	瀬戸・美濃
901	Ⅲ	Ⅲ-土 180-1	土 180	陶器	鉢	(22.0)	(13.0)	5.45	灰志野，輪花，見込みに鉄絵・目跡 1，高台内に目跡 1，全面施釉，大窯 4 本	淡黄灰	長石釉	16c 末～17c 初頭	美濃
902	Ⅲ	Ⅲ-検-1	検出面	磁器	碗	(9.7)	-	-	筒形碗，外面に盗掘	白	染付	18c 後半～19c 初頭	肥前か
903	Ⅲ	Ⅲ-検-2	検出面	白磁	皿	(19.0)	(10.6)	3.5	端反，E 群，漆継痕	白	白磁釉	15c 第 4 四半～16c 前半	中国
904	Ⅲ	Ⅲ-検-3	検出面	陶器	碗	(11.6)	-	-	天目茶碗，登 2 後半～3 小	白	鉄釉	17c 中葉	瀬戸・美濃
905	Ⅲ	Ⅲ-検-4	検出面	陶器	碗	(12.0)	-	-	天目茶碗，内外面に灰釉流し掛け，登 1・2 小	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	美濃
906	Ⅲ	Ⅲ-検-5	検出面	陶器	碗	-	5.4	-	内外面に鉄釉・灰釉掛け分け，下品野	淡黄白	鉄釉・灰釉	17c 前半	瀬戸
907	Ⅲ	Ⅲ-検-7	検出面	陶器	皿	9.9	6.3	1.4	内秀皿，大窯 4 後	淡黄白	灰釉	16c 末～17c 初頭	美濃
908	Ⅲ	Ⅲ-検-6	検出面	陶器	皿	(11.0)	-	-	折縁皿，内側面にツギ，大窯 4 前	淡灰褐	灰釉	16c 末	美濃
909	Ⅲ	Ⅲ-検-8	検出面	陶器	鉢	(13.4)	-	-		不明	長石釉	17c 前半	肥前
910	-	表土-3	表土	陶器	壺蓋	5.2	3.5	4.25	底部に孔，登 8・9 小	淡黄白	鉄釉	18c 後半～19c 初頭	瀬戸・美濃
911	-	壁-1	壁	陶器	香合	(3.8)	4.9	1.6	赤織部，外面に白足・鉄絵で間道文	淡褐	長石釉・白足・鉄絵	17c 初頭	美濃

※（ ）内数値は、推定値を表す。

図 69　土居尻 1　土器・陶磁器 (1)

図 70　土居尻 1　土器・陶磁器 (2)

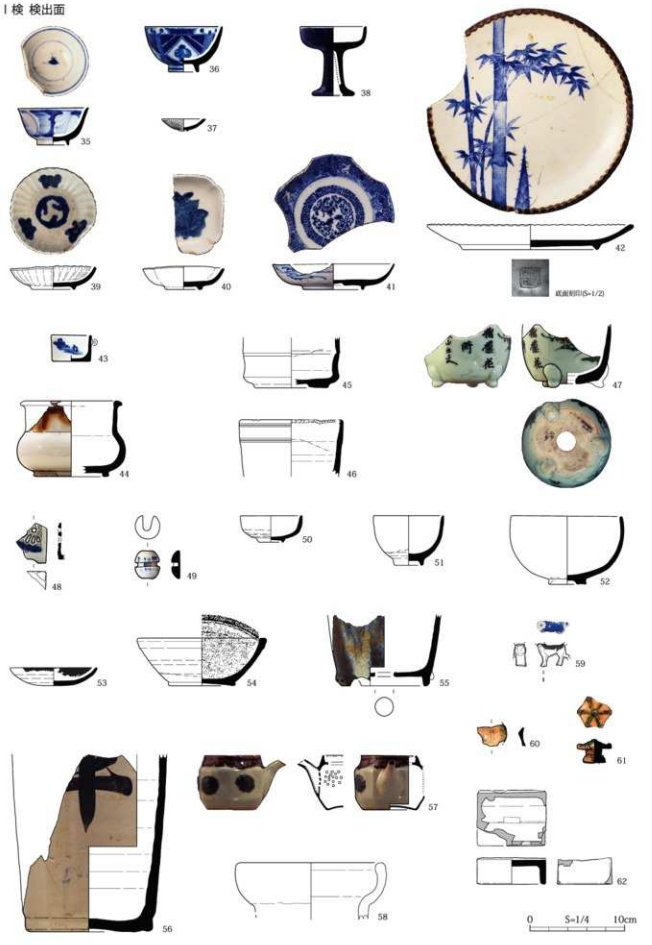


図 71　土居尻 1　土器・陶磁器 (3)

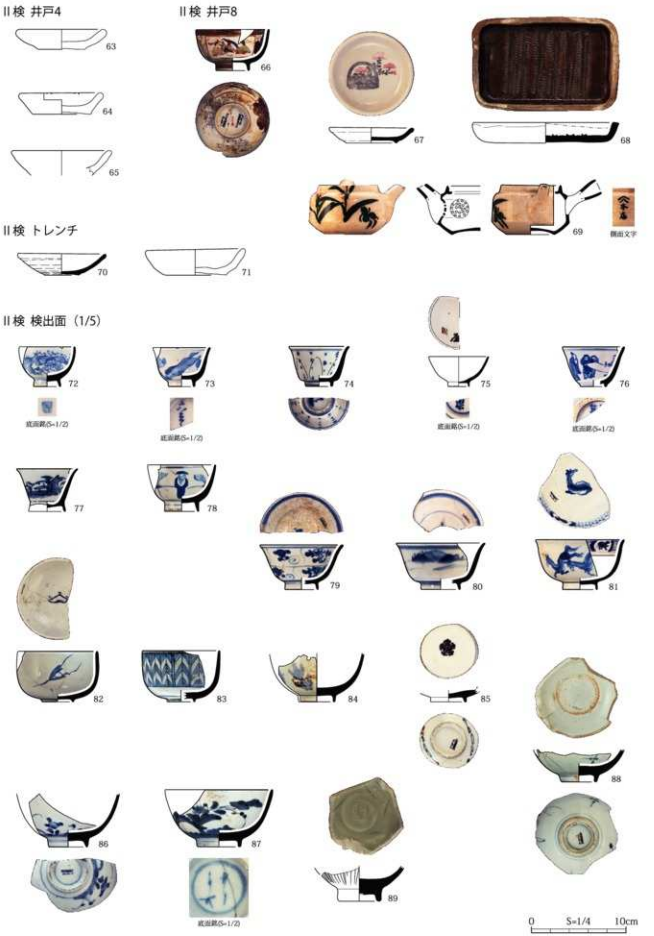


図 72　土居尻 1　土器・陶磁器 (4)

図 73　土居尻 1　土器・陶磁器 (5)

II検 検出面 (3/5)

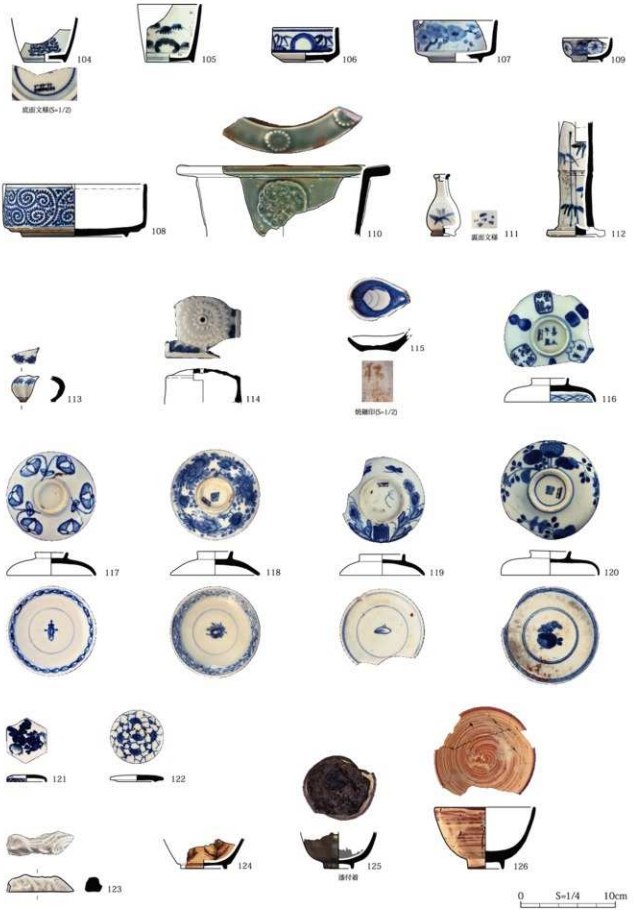


図 74 土居尻 1 土器・陶磁器 (6)

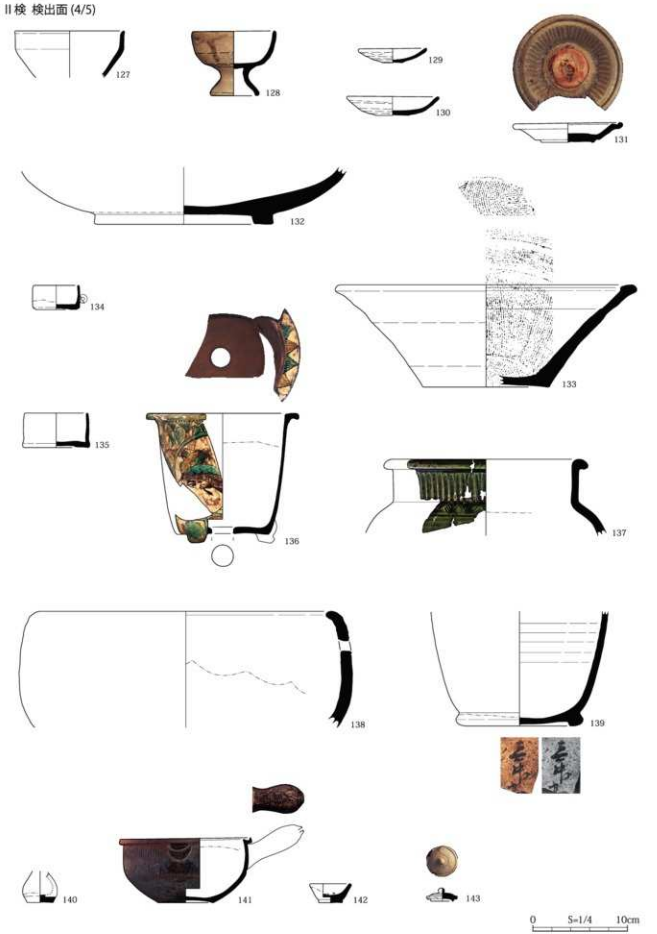


図 75　土居尻 1　土器・陶磁器 (7)

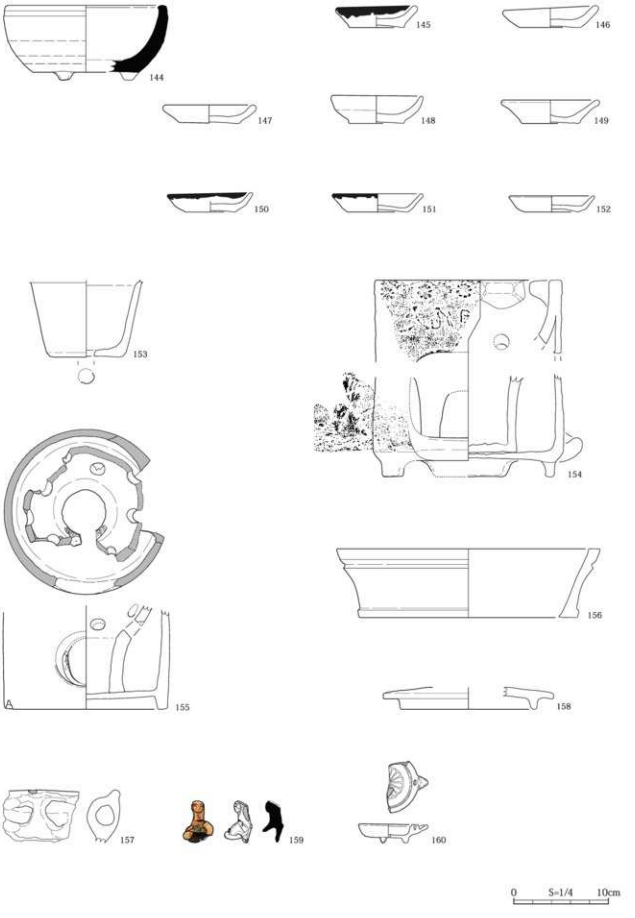


図 76 土居尻 1 土器・陶磁器 (8)

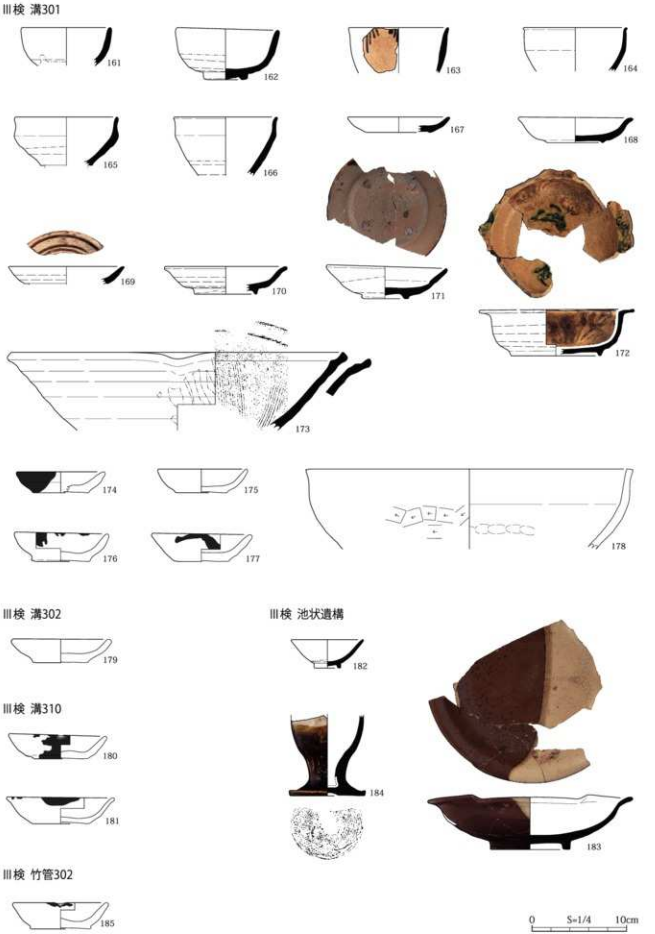


図 77　土居尻 1　土器・陶磁器 (9)

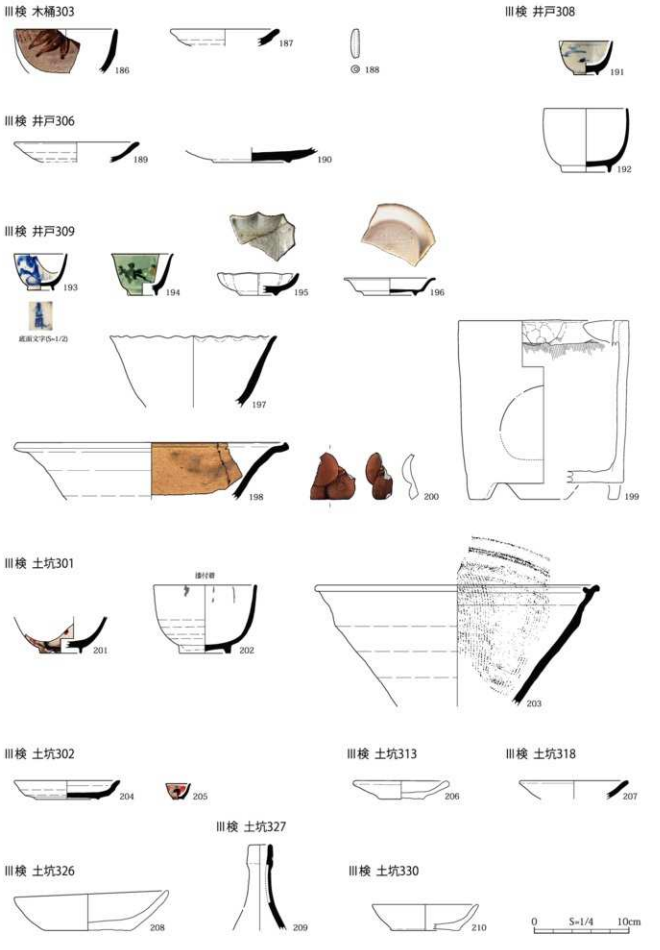


図78　土居尻1　土器・陶磁器(10)

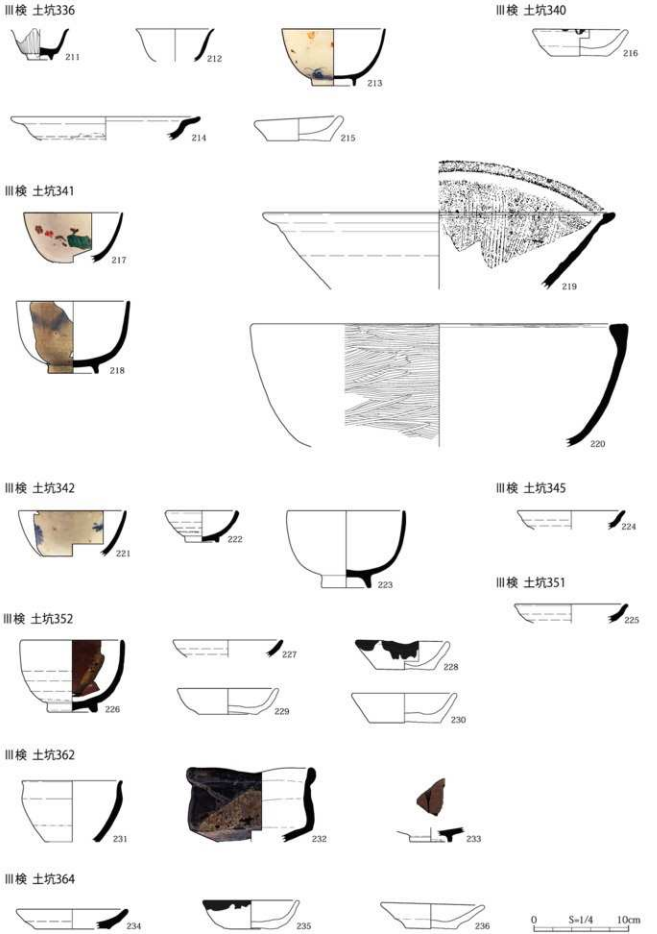


図 79　土居尻 1　土器・陶磁器 (11)

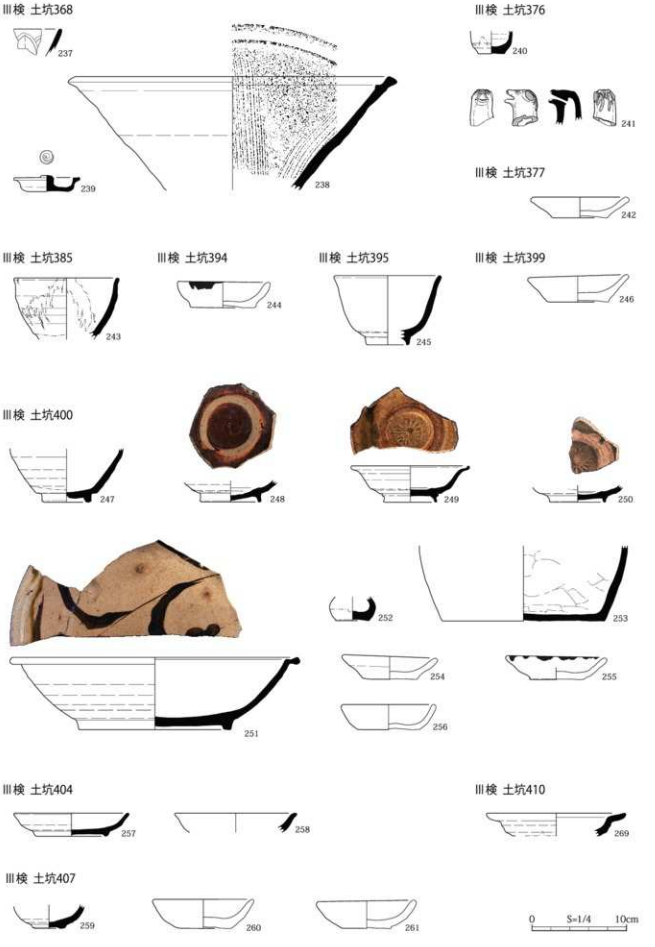


図 80　土居尻 1　土器・陶磁器 (12)

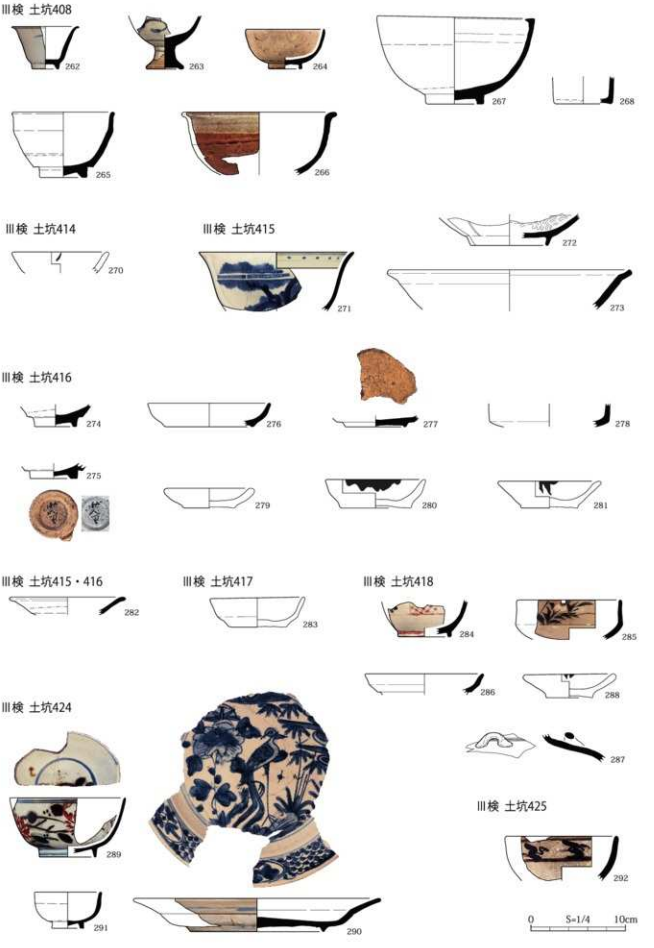
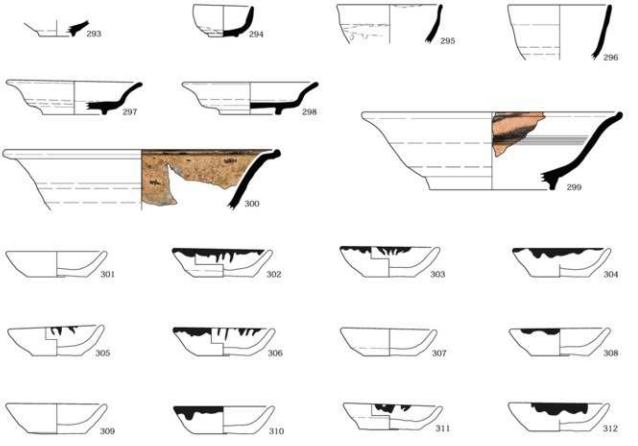


図 81　土居尻 1　土器・陶磁器 (13)

Ⅲ検 土坑430



Ⅲ検 検出面(1/5)

図 82 土居尻 1 土器・陶磁器 (14)

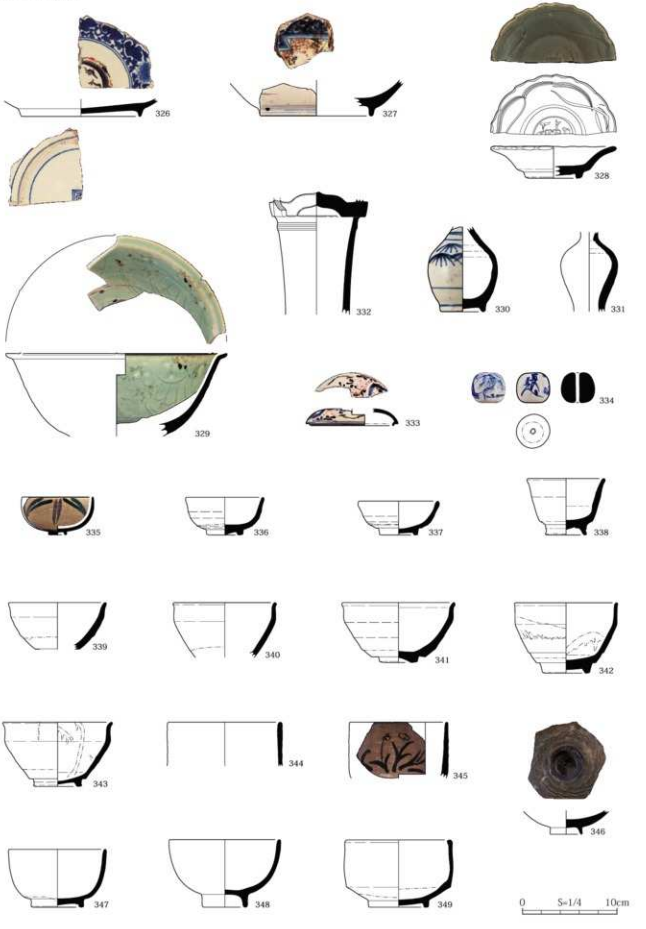


図 83 土居尻 1 土器・陶磁器 (15)

Ⅲ検 検出面(3/5)

図 84 土居尻 1 土器・陶磁器 (16)

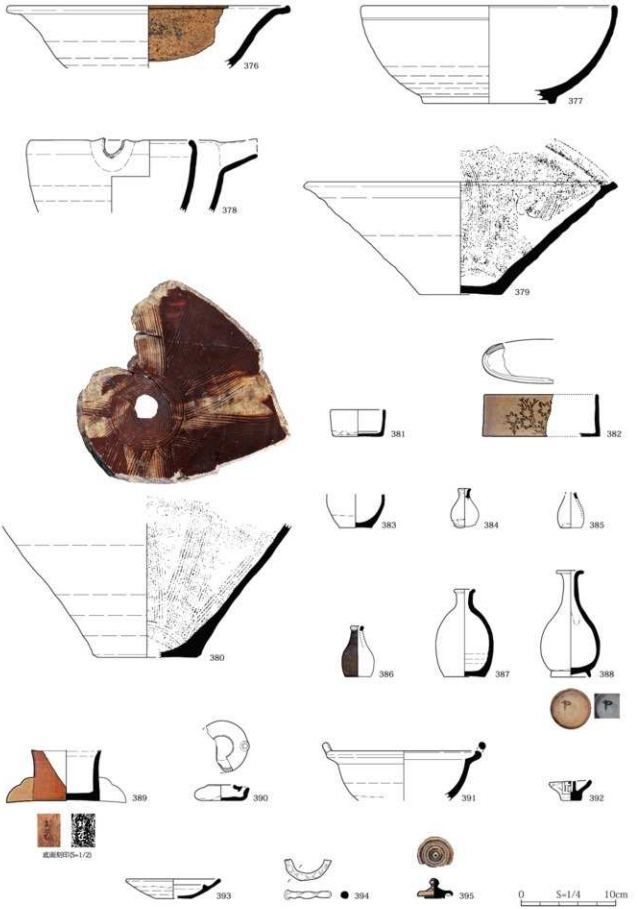


図 85 土居尻 1 土器・陶磁器 (17)

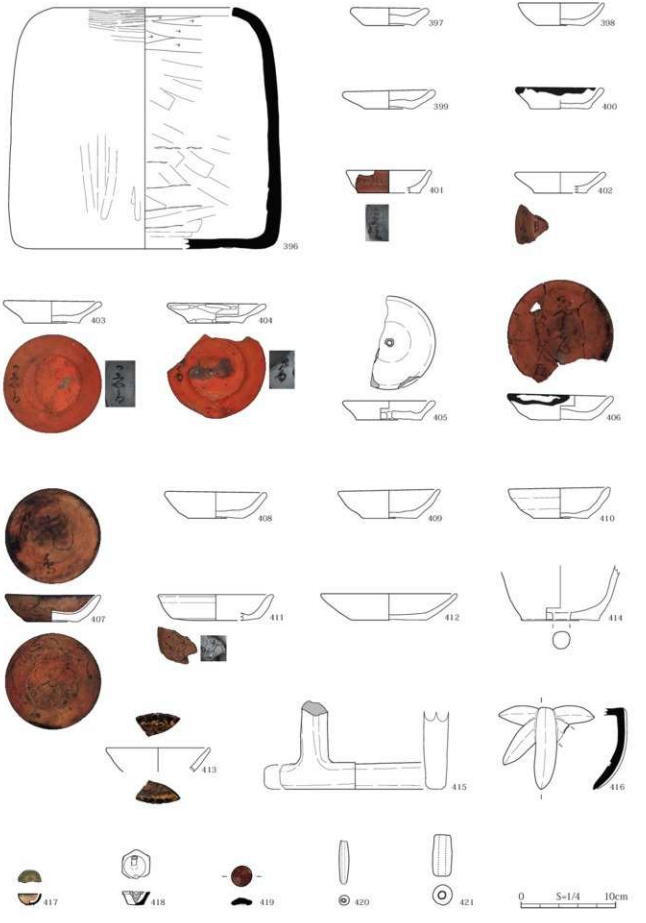


図 86 土居尻 1 土器・陶磁器 (18)

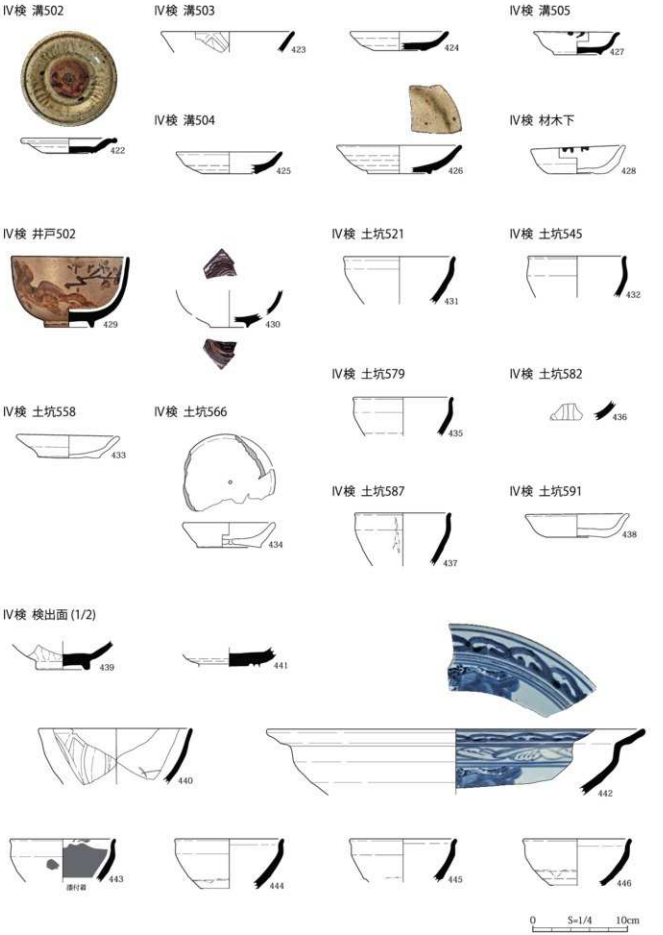


図 87　土居尻 1　土器・陶磁器 (19)

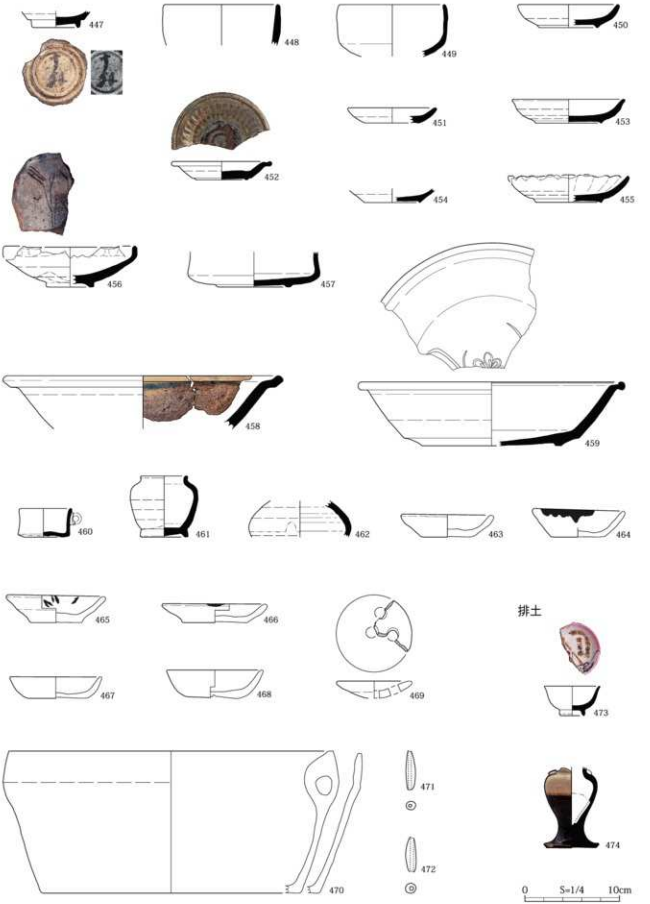


図 88　土居尻 1　土器・陶磁器 (20)

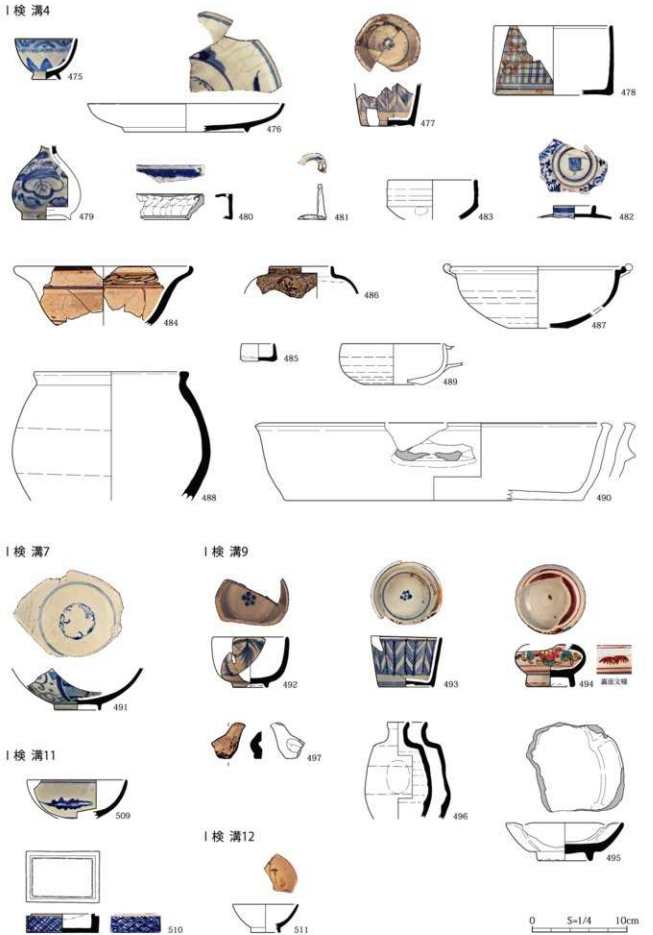


図 89　大名町 3　土器・陶磁器 (1)

図 90　大名町 3　土器・陶磁器 (2)

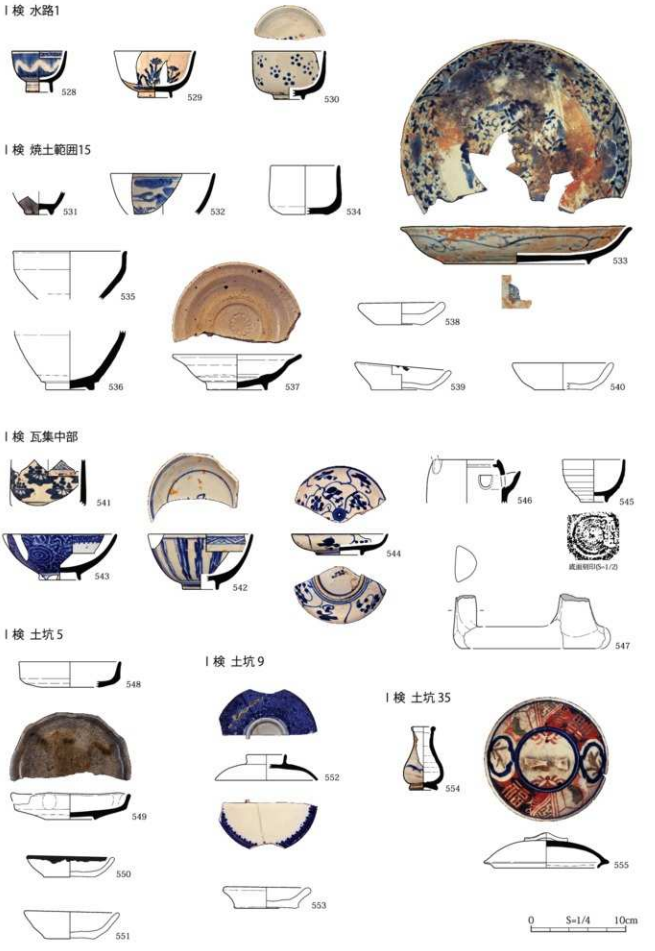


図 91　大名町 3　土器・陶磁器 (3)

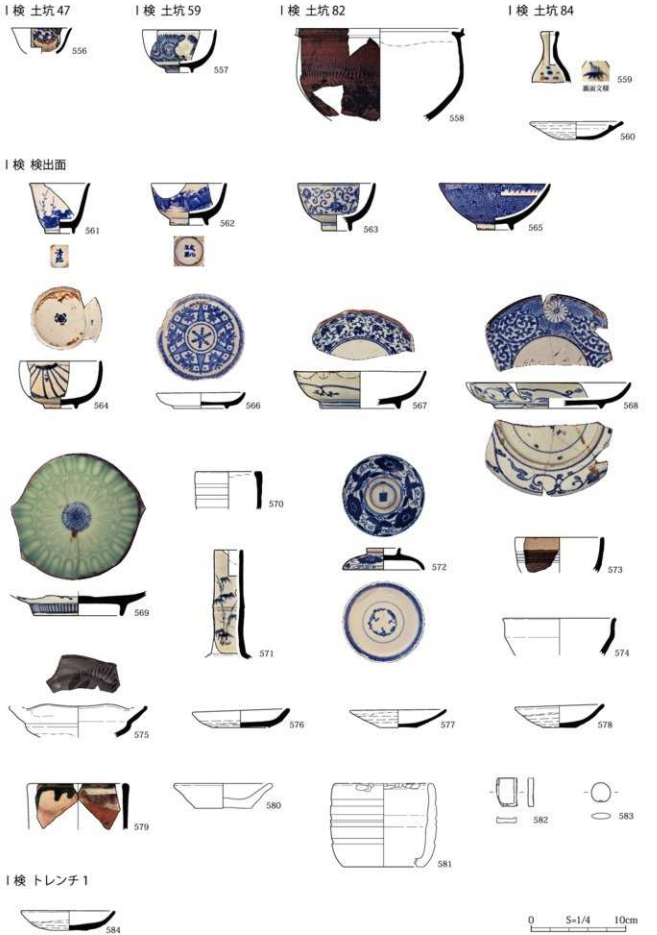


図92 大名町3 土器・陶磁器(4)

図 93　大名町 3　土器・陶磁器 (5)

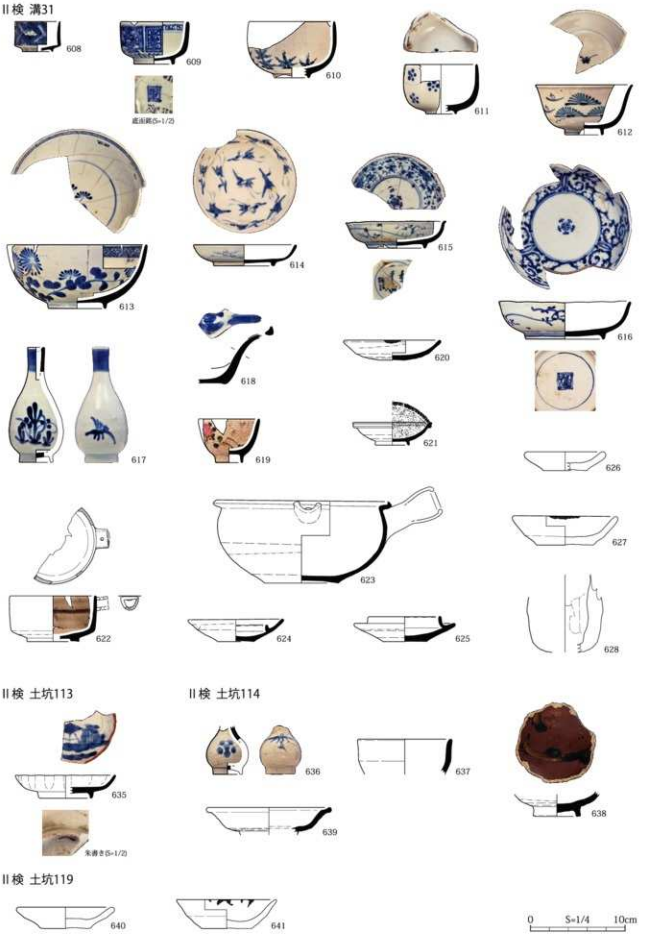


図 94　大名町 3　土器・陶磁器 (6)

図 95　大名町 3　土器・陶磁器 (7)

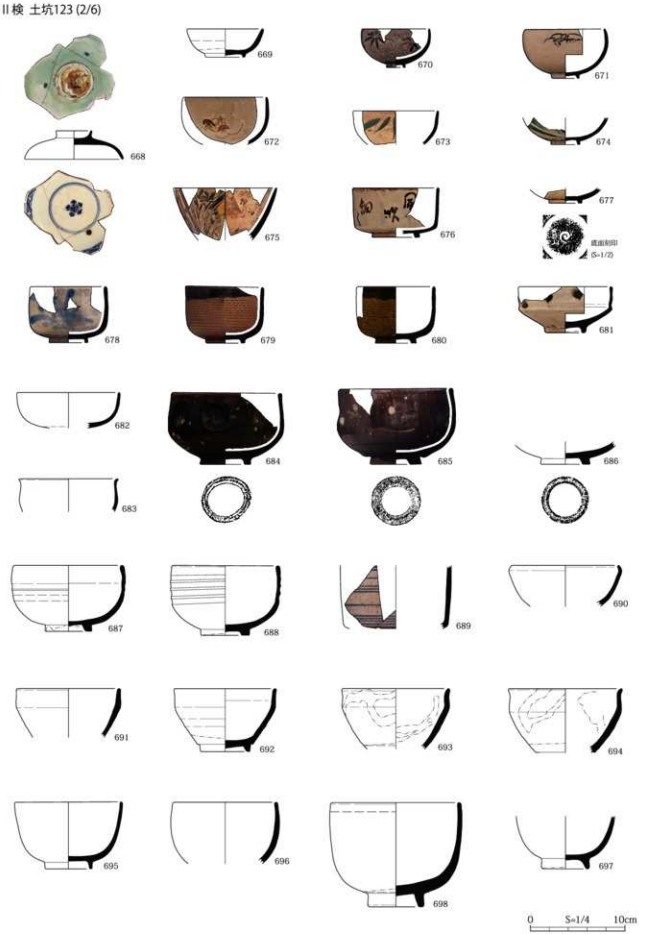


図 96　大名町 3　土器・陶磁器 (8)

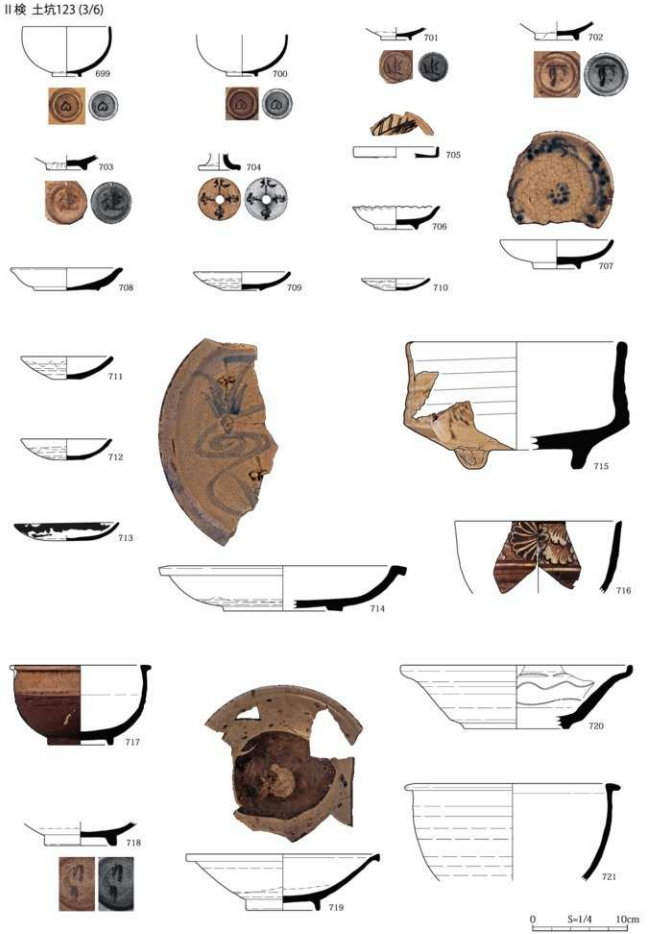


図 97　大名町 3　土器・陶磁器 (9)

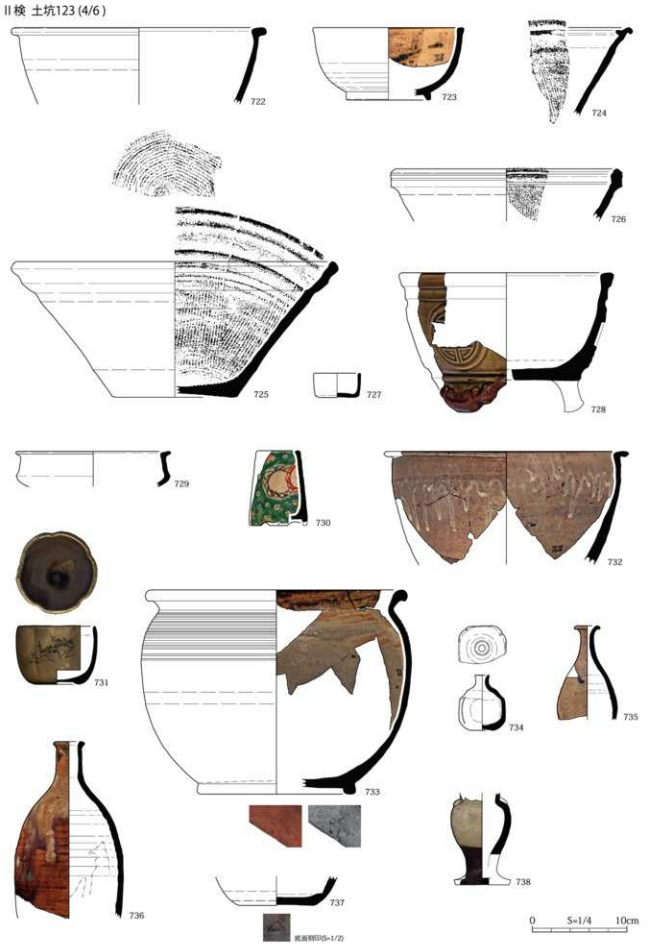


図 98　大名町 3　土器・陶磁器 (10)

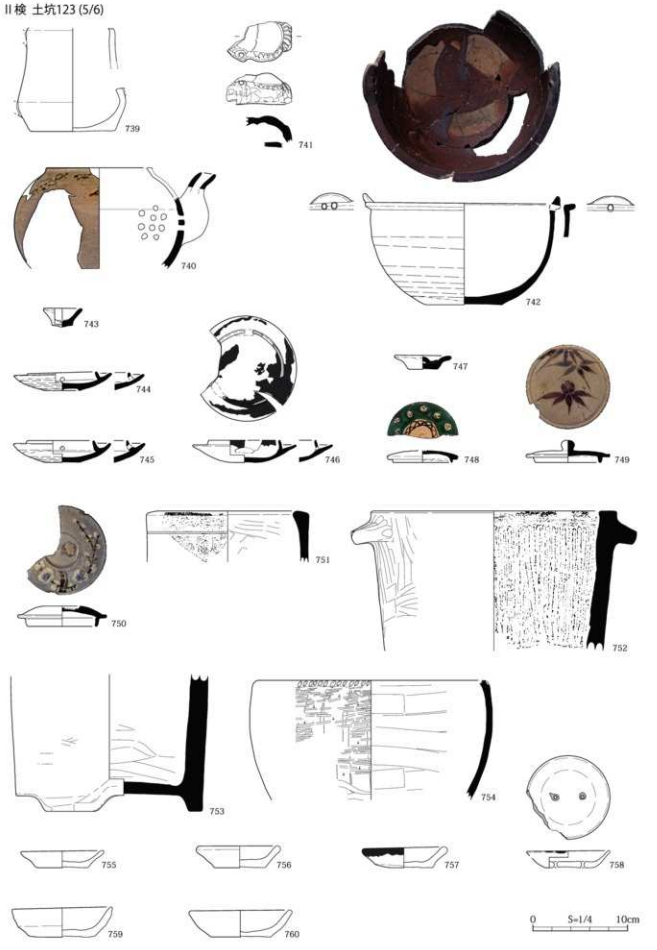


図 99　大名町 3　土器・陶磁器 (11)

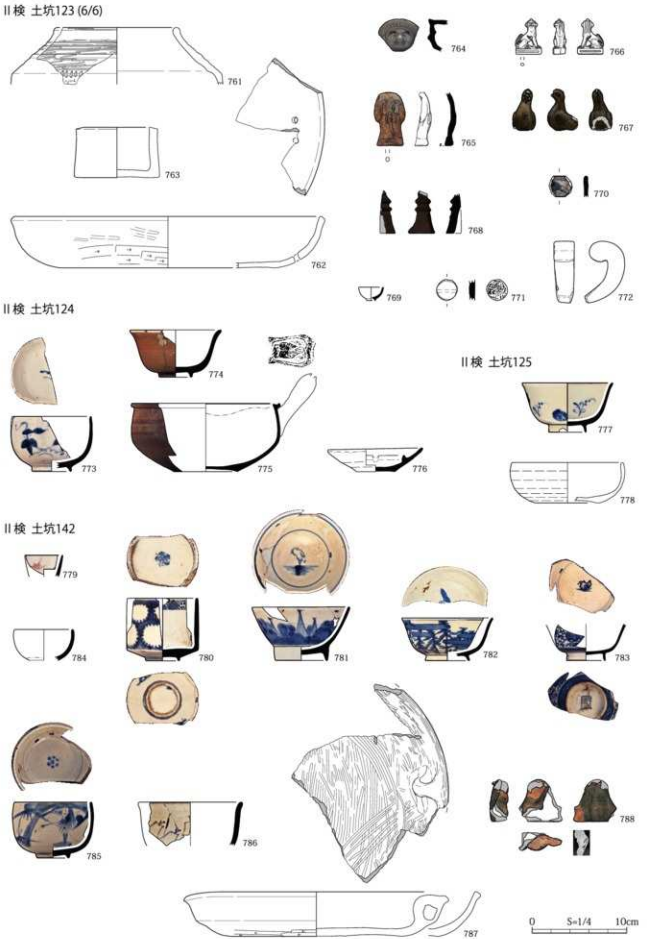


図 100　大名町 3　土器・陶磁器 (12)

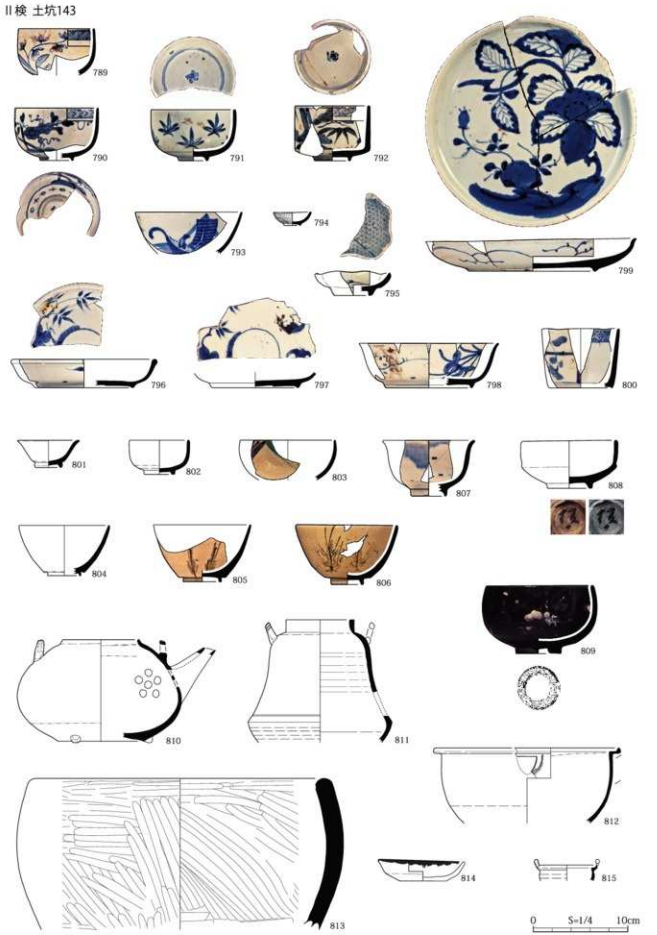


図 101　大名町 3　土器・陶磁器 (13)

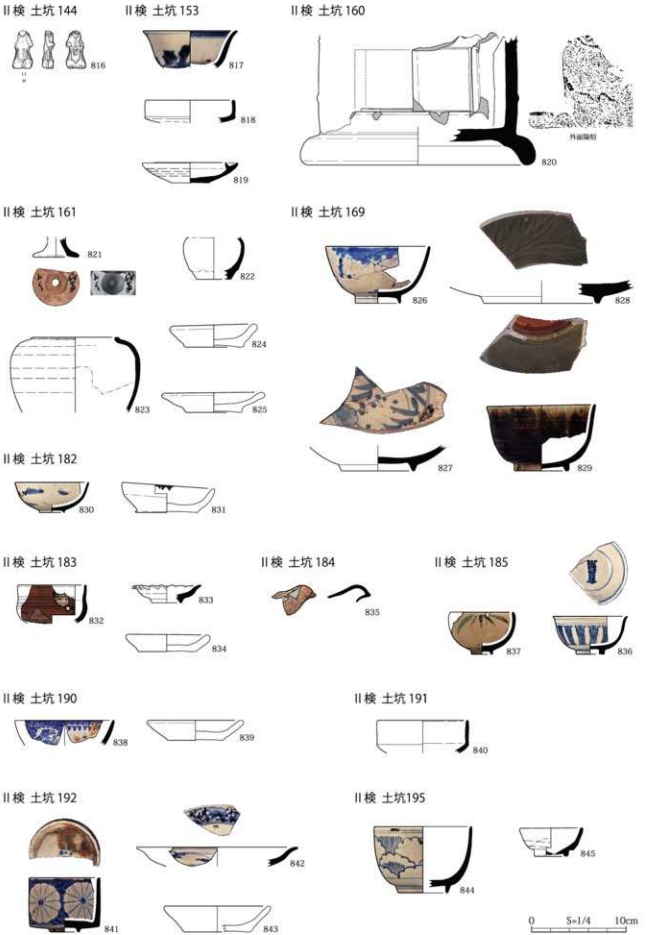


図 102　大名町 3　土器・陶磁器 (14)

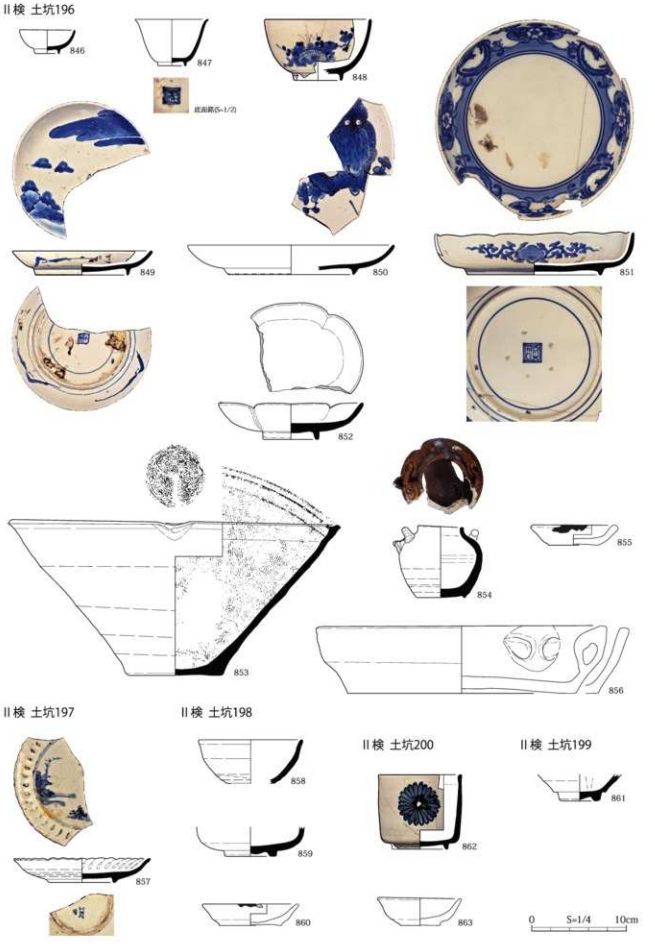


図 103　大名町 3　土器・陶磁器 (15)

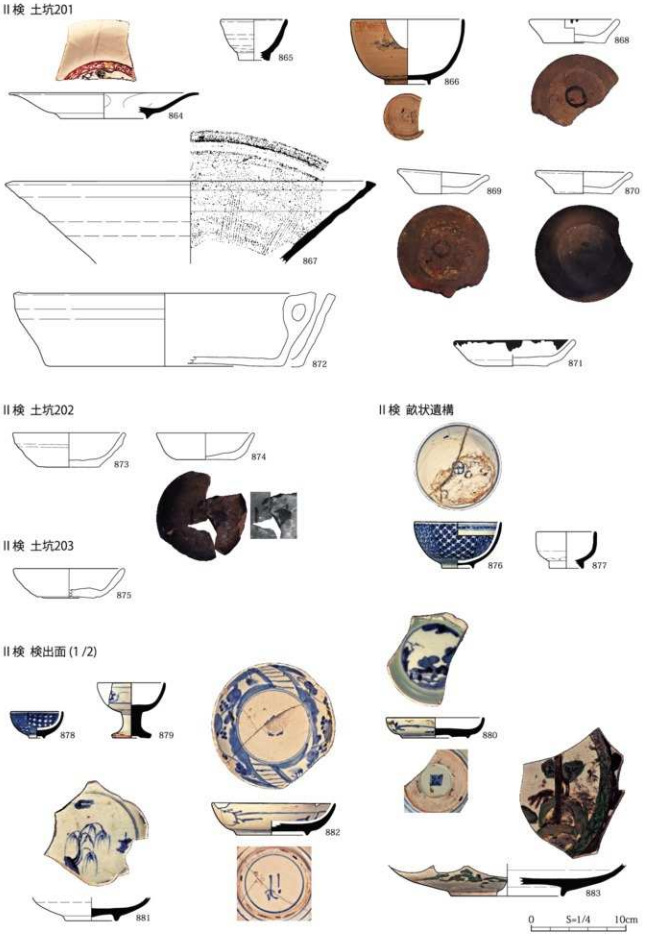


図 104　大名町 3　土器・陶磁器 (16)

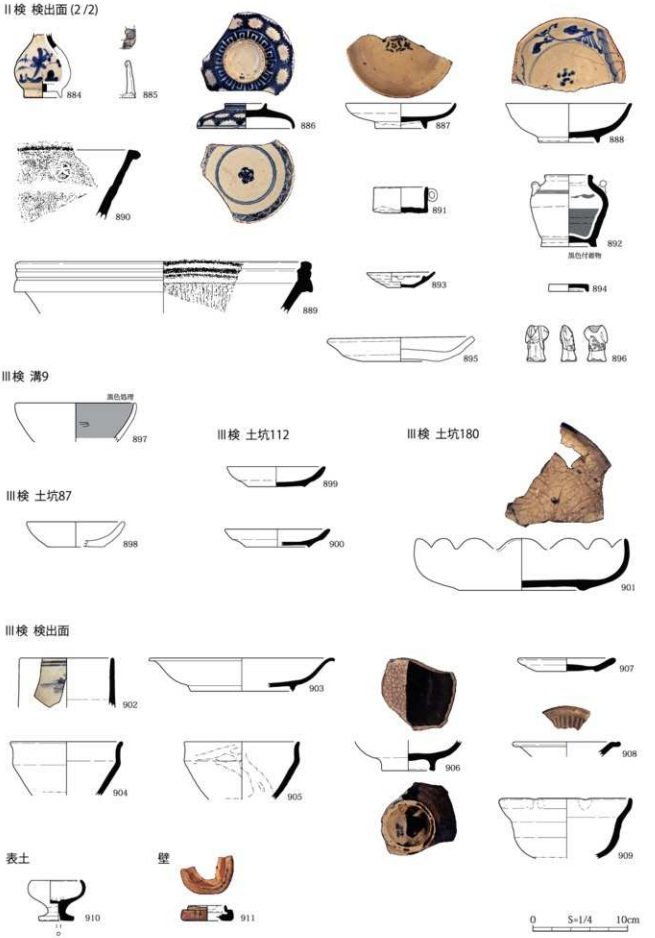


図 105　大名町 3　土器・陶磁器 (17)

第２節　瓦（表８、図 106 ～ 109、写真図版 24）

今回の調査では、大名町３、土居尻１いずれの調査地においても各検出面から瓦が出土している。本節ではこれらのうち、遺構に伴うものや共伴遺物を多く伴うもの、軒文様の残存状況が良好なものを掲載した。器形が概ね把握できる 12 点（３、17、23、24、25、30、34、46、48、52、54、55）を図化したほか、44 点の軒面を拓本で掲載した。いずれも法量は表８に記した。以下、各器種ごとに概要を述べる。

1　軒丸瓦（1 ～ 22）

22 点を掲載した。瓦当面の文様は、五七桐文、離れ六つ星文、立沢瀉文、連珠左巻三つ巴文、連珠右巻三つ巴文の５種が見られる。胴部を伴わないものが大半であったため、胴部の調整による細分は本稿では行わない。五七桐文を有す軒丸瓦は３点掲載した。いずれも土居尻１のⅢ検から出土しており、２種類（７・８が同笵）の瓦当笵が確認できている。離れ六つ星文は藩主戸田氏の家紋で、この文様を有す軒丸瓦は３点掲載した。１は５、12 と比較して一つ一つの珠点が大きく、また瓦当面に雲母粉が顕著にみられる。土居尻１Ⅲ検から出土した５、12 は１度目の戸田氏入封（17 世紀前半）に伴い製作されたもので、土居尻１Ⅰ検から出土した１は２度目の入封（18 世紀以降）に伴い製作された可能性が考えられる。立沢瀉文は藩主水野氏の家紋で、この文様を有す軒丸瓦は７点掲載した。沢瀉文の周囲に連珠文を配すもの（２・９・16・19）と配さないもの（10・18・22）とがあるが、いずれの瓦当面も細部が異なり同笵と言えるものはない。これまでの出土例から立沢瀉文に伴う連珠文の数は 15 ～ 17 のいずれかであると考えられるが、破片から断言することは困難である。今回掲載したなかで珠文の総数が明確なのは唯一 19 で 16 個である。22 の瓦当面裏には刻み十字文が見られる。連珠三つ巴文を有す軒丸瓦は９点掲載した。うち連珠が左巻のもの５点、右巻のもの４点である。巴文の尾部が長く連珠文の多い６、14 は古手のものと考えられる。それ以外のものは笵こそ異なるもののいずれも連珠文の数が 12 個で共通している。

2　丸瓦（23、24）

土居尻１北区から１点、大名町３から１点、残存状況の良好なものを図化した。いずれの凹面も布目圧痕の上から一部にタテナデがなされている。

3　軒平瓦（5 ～ 44）

推定品も含め 20 点を掲載した。瓦当面の文様は、三葉文唐草文、いわゆる東海式三葉文唐草文（以下、東海式）の２種が見られる。三葉文唐草文を有す軒平瓦は 17 点掲載した。今回掲載した三葉文唐草文は細部の形状から５種（①…34、40、41、②…26、28、29、31、38、③…25、27、30、32、33、35、36、④…42、⑤…39）に分類できる。破片資料が多く同笵と判断できるものは 27 と 33 のみである。②と⑤については駿府城から出土した瓦に極めて類似したものが確認されている[注1]。東海式の文様を有す軒平瓦は３点掲載した。同笵のものはないが、文様構成は共通している。

4　軒桟瓦（45 ～ 51）

推定品も含め７点を掲載した。軒丸部と軒平部いずれも残存する４点のうち、丸瓦部に連珠右巻三つ巴文を有し平瓦部に蔦唐草文を有するものを２点、丸瓦部に連珠右巻三つ巴文を有し平瓦部に唐草文を有するものを１点、軒文様を持たないものを１点掲載している。48 は丸瓦部瓦当面が平坦な「石持」であり、製法が近世に近いため近代の中でも比較的古いものとされる[注2]。桟瓦はいずれも江戸後期以降のものだが、なかでも無文の 51 は近代以降の比較的新しいものである。なお 51 は無文だが平瓦部に「庄」の刻印を有す。

5　その他（52 ～ 56）

鬼瓦３点、鳥衾瓦１点、冠振瓦１点の計５点を掲載した。54 は細片だが鬼面の目にあたる。55 は鬼瓦の

上に乗る鳥衾瓦で、城主水野氏の家紋である立沢瀉文を軒面に有す。56は冠振瓦と推測され、51と同笵の「庄」刻印を有す。

〈脚注・参考文献〉

注1　松井一明氏に実見の上、ご指導いただいたもの

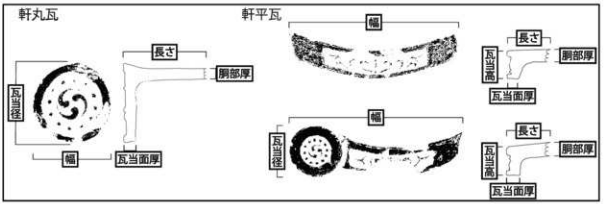
注2　山崎吉弘　2019「近代・現代の瓦とその多様化」『考古学ジャーナル』726

表8　瓦一覧表

No.	地区	検出面	実測番号	出土地点	器形	幅(cm)	長さ(cm)	瓦当高・径(cm)	胴部厚(cm)	瓦当面厚(cm)	重量(g)	軒文様	特徴等
1	土1	Ⅱ	土1-瓦.6	検出面	軒丸	-	-	(13.0)	-	2.25	176	離れ八つ星文	
2	土1	Ⅱ	土1-瓦.8	検出面	軒丸	(14.4)	-	(14.9)	-	2.8	238	立沢瀉文	珠文15～17個か(現存7)
3	土1	Ⅲ	土1-瓦.2	池状遺構	軒丸	14.7	〈15.5〉	14.0	2.2	2.0	1078	連珠右巻三つ巴文	珠文12個、胴部内面調整：タテナデ
4	土1	Ⅲ	土1-瓦.10	溝301	軒丸	(10.1)	-	(15.0)	2.3	(2.0)	350	五七桐文	
5	土1	Ⅲ	土1-瓦.11	溝301	軒丸	-	-	(15.6)	-	(2.6)	148	離れ八つ星文	
6	土1	Ⅲ	土1-瓦.13	土421	軒丸	15.95	-	(16.0)	(2.35)	3.3	514	連珠右巻三つ巴文	珠文22個か(現存15)
7	土1	Ⅲ	土1-瓦.15	検出面	軒丸	17.8	-	17.8	-	2.7	1062	五七桐文	
8	土1	Ⅲ	土1-瓦.16	検出面	軒丸	17.5	-	17.5	-	2.4	1038	五七桐文	
9	土1	Ⅲ	土1-瓦.17	検出面	軒丸	(16.6)	-	(15.6)	-	2.2	350	立沢瀉文	珠文15～17個か(現存6)
10	土1	Ⅲ	土1-瓦.18	検出面	軒丸	(15.2)	〈8.65〉	(14.8)	2.2	(2.4)	650	立沢瀉文	珠文なし
11	土1	Ⅲ	土1-瓦.19	検出面	軒丸	16.95	-	16.95	-	(2.35)	522	連珠右巻三つ巴文	珠文12個
12	土1	Ⅲ	土1-瓦.20	検出面	軒丸	-	-	(14.0)	-	-	116	離れ八つ星文	
13	土1	Ⅲ	土1-瓦.23	トレンチ	軒丸	-	-	-	-	-	202	連珠左巻三つ巴文	珠文12個か(現存4)
14	土1	Ⅳ	土1-瓦.26	検出面	軒丸	15.8	-	(15.8)	-	2.4	550	連珠左巻三つ巴文	珠文24個か(現存18)
15	大3	Ⅰ	大3-瓦.10	瓦集中	軒丸	16.4	-	16.3	-	2.55	874	連珠右巻三つ巴文	珠文12個
16	大3	Ⅰ	大3-瓦.11	瓦集中	軒丸	(16.3)	-	(16.8)	-	3.6	472＋190	立沢瀉文	珠文15～17個か(現存9)、前後分が同一個体あり
17	大3	Ⅱ	大3-瓦.2	土123	軒丸	14.2	〈25.6〉	(13.9)	2.5	-	1792	連珠右巻三つ巴文	珠文12個か(現存7)、胴部内面調整：布目圧痕→タテナデ→横位平滑
18	大3	Ⅱ	大3-瓦.15	土123	軒丸	15.0	-	15.0	-	2.6	704	立沢瀉文	珠文なし
19	大3	Ⅱ	大3-瓦.16	土123	軒丸	16.3	-	(16.0)	-	3.3	692	立沢瀉文	珠文16個(現存14)
20	大3	Ⅱ	大3-瓦.17	土123	軒丸	13.9	〈11.35〉	13.9	(2.0)	2.0	784	連珠右巻三つ巴文	珠文12個、胴部内面調整：タテナデか
21	大3	Ⅱ	大3-瓦.18	土123	軒丸	17.4	-	17.1	-	(2.45)	752	連珠左巻三つ巴文	珠文12個
22	大3	Ⅱ	大3-瓦.29	土123	軒丸	(14.4)	-	(14.1)	-	2.1	460	立沢瀉文	珠文なし、軒面裏に刻み十字文あり
23	土1	Ⅳ	土1-瓦.4	土41	丸	16.4（断面）	34.4	-	2.2	-	2238		内面：布目圧痕→一部タテナデ
24	大3	Ⅱ	大3-瓦.3	土123	丸	〈13.2〉（断面）	〈23.2〉	-	2.2	-	1008		内面：布目圧痕→一部タテナデ
25	土1	Ⅰ	土1-瓦.3	検出面	軒平	〈22.5〉	〈12.3〉	4.6	2.1	2.5	966	三葉文唐草文	
26	土1	Ⅱ	土1-瓦.9	トレンチ	軒平	(30.4)	(14.6)	5.5	2.1	3.1	1188	三葉文唐草文	
27	土1	Ⅲ	土1-瓦.12	土407	軒平	-	〈8.65〉	(4.9)	2.6	-	498	三葉文唐草文	
28	土1	Ⅲ	土1-瓦.14	土424	軒平	-	〈8.55〉	(5.0)	2.3	2.8	324	三葉文唐草文	駿府城出土品と同範可能性あり
29	土1	Ⅲ	土1-瓦.21	検出面	軒平	-	〈10.5〉	(4.8)	1.7	(2.6)	534	三葉文唐草文	
30	土1	Ⅳ	土1-瓦.5	土543	軒平	29.4	〈21.4〉	5.2	2.5	1.95	2080	三葉文唐草文	
31	土1	Ⅳ	土1-瓦.24	土543	軒平	-	-	-	-	2.3	140	三葉文唐草文	
32	土1	Ⅳ	土1-瓦.25	方形石列	軒平	-	-	-	-	(2.8)	172	三葉文唐草文	
33	大3	Ⅰ	大3-瓦.9	焼土15	軒平	-	-	-	-	(2.5)	278	三葉文唐草文	
34	大3	Ⅱ	大3-瓦.4	土123	軒平	(30.3)	〈10.4〉	4.85	2.1	2.1	1190	三葉文唐草文	
35	大3	Ⅱ	大3-瓦.19	土123	軒平	29.55	(18.9)	(5.0)	2.3	(3.1)	2224	三葉文唐草文	
36	大3	Ⅱ	大3-瓦.20	土123	軒平	30.8	〈15.6〉	(5.0)	2.75	(3.2)	2262	三葉文唐草文	
37	大3	Ⅱ	大3-瓦.21	土123	軒平	(29.8)	〈21.65〉	(4.7)	(2.1)	(1.8)	1496	三葉文唐草文（東海式）	
38	大3	Ⅱ	大3-瓦.22	土123	軒平	(26.0)	〈21.1〉	4.9	1.9	2.3	1452	三葉文唐草文	
39	大3	Ⅱ	大3-瓦.23	土123	軒平	(27.2)	〈9.6〉	4.7	2.3	1.9	842	三葉文唐草文	駿府城出土品と同範可能性あり
40	大3	Ⅱ	大3-瓦.24	土123	軒平	(30.0)	〈12.0〉	(5.0)	1.85	(2.0)	560	三葉文唐草文	
41	大3	Ⅱ	大3-瓦.25	土123	軒平	-	〈9.4〉	(4.8)	(2.1)	(2.5)	498	三葉文唐草文	
42	大3	Ⅱ	大3-瓦.26	土123	軒平	(29.4)	〈7.75〉	(5.4)	2.8	(2.9)	662	三葉文唐草文	
43	大3	Ⅱ	大3-瓦.28	土123	軒平	(30.6)	〈5.4〉	(4.9)	1.9	(2.1)	378	三葉文唐草文（東海式）	
44	大3	Ⅰ	大3-瓦.8	焼土15	軒平か	-	〈5.7〉	4.3	2.0	1.85	282	三葉文唐草文（東海式）	
45	土1	Ⅲ	土1-瓦.22	検出面	軒桟	-	-	丸瓦部：8.6 平瓦部：(4.7)	1.7		360	丸瓦部：連珠右巻三つ巴文 平瓦部：唐草文か	丸瓦部珠文12個
46	大3	Ⅰ	大3-瓦.1	瓦集中	軒桟	29.6	〈27.5〉	丸瓦部：9.2 平瓦部：(4.7)	1.8	丸瓦部：2.35 平瓦部：(1.7)	2092	丸瓦部：連珠右巻三つ巴文 平瓦部：鳥獣草文	
47	大3	Ⅰ	大3-瓦.12	瓦集中	軒桟	〈25.85〉	-	丸瓦部：(8.4) 平瓦部：4.5	丸瓦部：2.0 平瓦部：1.9	丸瓦部：2.4 平瓦部：2.25	440	丸瓦部：連珠右巻三巴文平瓦部：鳥獣草文	珠文12個(現存4)
48	大3	Ⅰ	大3-瓦.30	瓦集中	軒桟	〈19.6〉	-	丸瓦部：8.9 平瓦部：(5.6)	1.7	丸瓦部：2.1 平瓦部：(1.7)	622	文様なし	石母軒桟瓦（五色面平田）
49	土1	Ⅰ	土1-瓦.7	検出面	軒桟か	-	-	(5.3)	-	2.2	154	鳥獣草文	
50	大3	Ⅰ	大3-瓦.6	土59	軒桟か	-	-	4.5	-	2.0	72	三葉文唐草文（東海式）	軒面の雲母粉著しい
51	大3	Ⅰ	大3-瓦.13	瓦集中	軒桟か	〈19.7〉	-	5.6	1.7	1.6	448	文様なし	刻印あり「庄」
52	土1	Ⅲ	土1-瓦.1	土407	棟	〈12.5〉	8.6	-	-	1.8	560	鬼	
53	大3	Ⅰ	大3-瓦.7	土84	鬼	〈33.2〉	14.2	-	-	-	2180		
54	大3	Ⅱ	大3-瓦.27	土123	鬼	-	-	-	-	5.9（鬼面）	296	鬼面	
55	大3	Ⅱ	大3-瓦.5	土123	鳥衾	14.6	〈8.1〉	14.9	-	1.3	918	立沢瀉文	
56	大3	Ⅰ	大3-瓦.14	瓦集中	冠振か	-	〈5.25〉	-	-	-	180		刻印あり「庄」

※（ ）内数値は推定値、〈 〉内数値は現存値をそれぞれ表す
※土1は土居尻1、大3は大名町3を表す

凡例図



軒丸瓦

図106 瓦 (1)

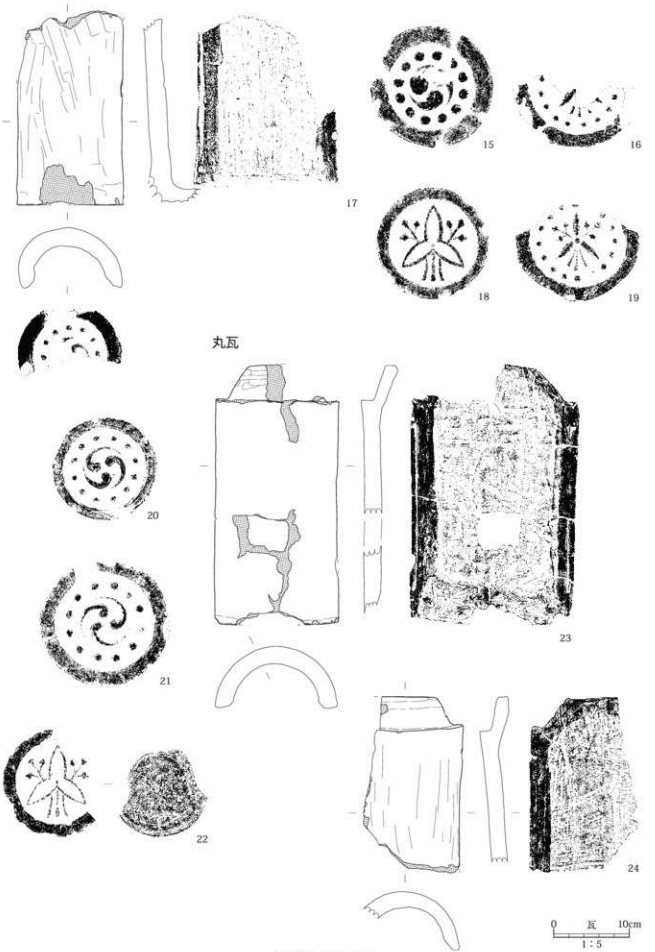


図107 瓦 (2)

軒平瓦

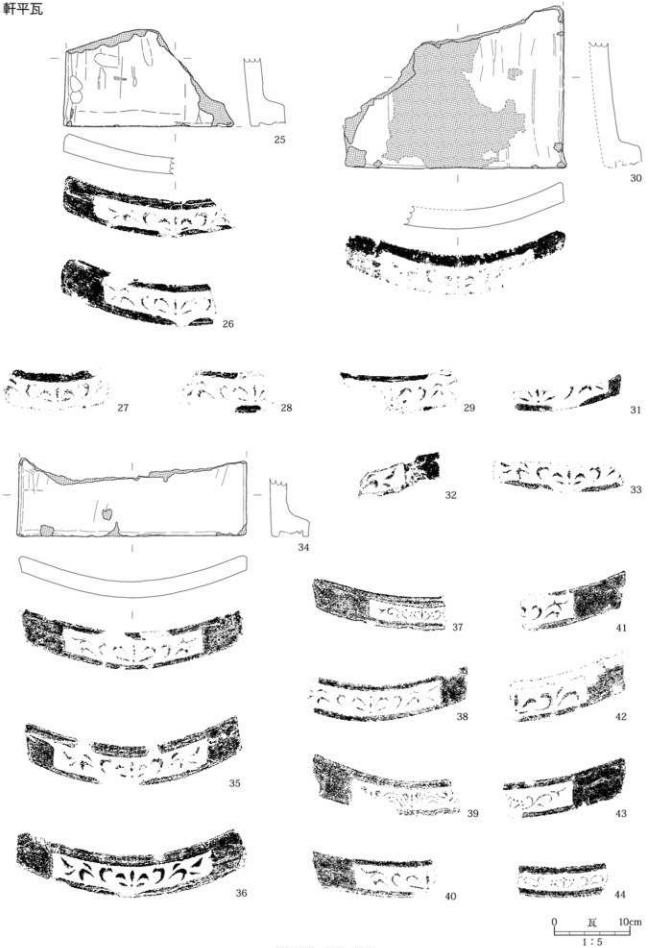
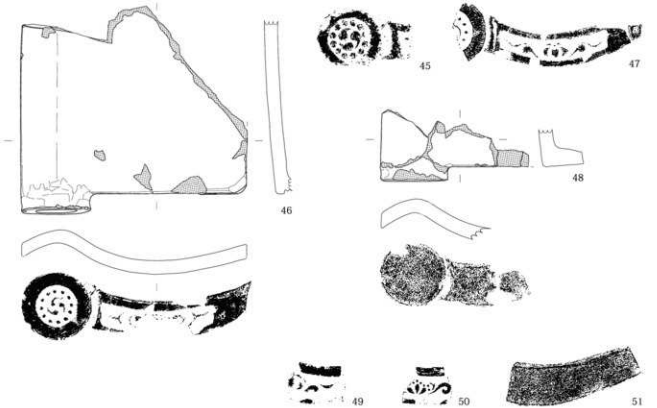


図108 瓦 (3)

軒桟瓦



その他の瓦

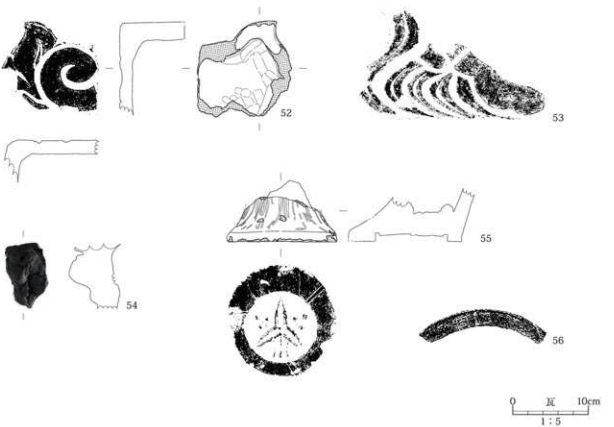


図109 瓦 (4)

第３節　木製品（表９、図 110 ～ 112、写真図版 19・20）

土居尻１出土の木製品については、松本市文化財課調査報告№ 169「長野県松本城三の丸跡 土居尻第１次 緊急発掘調査報告書 ～遺物編２（木器編）～」にて詳細が記されている。よって、ここでは大名町３から出土した木製品のみを取り上げる。

大名町３出土の木製品を分類別にみると、工具 23、農耕土木具 4、紡織具 5、服飾具 59、容器 209、調理加工具 35、食事具 12、調度 6、祭祀具 8、日用品 26、文房具 28、建築部材 17、用途不明品・その他 110 の総数 542 点である。このうち遺存状態の良好な遺物 55 点を図示し、分類別に詳細を述べる。なお、塗漆された木製品や漆工用具については「第４節　漆器・漆工用具」にて報告する。

1　工具

楔（1）　径 4cm 弱の枝を加工した、打割製材用の楔（箭）である。頭部木口は鋸で切断し、表裏を刃物で平行に削いだ後、先端を尖らせる。先端は使用により潰れる。

2　紡織具

紡錘車（2・3）　いずれも紡錘車の紡輪である。中心に軸（紡茎）を差し込むための穿孔をもち、軸は残存しない。２は加工が非常に丁寧で、外縁最大径は 44㎜を測る。穿孔の径は 12㎜と大きく、太い軸と組み合わせて使用されていたことが想定される。表面には同一方向に流れる条痕が複数みられる。３は厚手で、加工は粗雑である。外縁最大径は 53㎜、穿孔径は最大 7㎜を測る。表面には２と同様、条痕が複数みられる。

3　服飾具

連歯下駄（4 ～ 7）　4 は銀杏歯の高下駄である。台部は長円形で、指頭・指腹圧痕が明瞭に残る。後歯左側面には焼印が残る。5 の台部は隅丸方形に近い、幅広の長円形である。眼は方形で、周囲は磨滅する。6 は高下駄で、側面からみると歯は歯元にいくにつれて幅広になる。台部は隅丸方形で、台表には焼印で文様が描かれる。眼は菱形に刳られる。7 は高下駄で、台部は長円形である。こちらも台表に焼印で文様が描かれ、眼は方形、右横緒孔は菱形である。後歯を欠損するが、鉄の角釘で補修した跡がみられる。

刳り下駄（8・9）　小型のため子供用と思われる。台部は長円形で、末広の歯をもつ。9 は眼が大きく不整形で、鼻緒は木釘で留めたようである

差歯下駄（10）　台裏の桟に穿たれたホゾ穴に別材の歯を差し込んだ差歯下駄である。ホゾ穴は台表まで突き抜けるため、露卯下駄に分類される。台部は長円形で、横断面は船底形である。指頭圧痕が明瞭に残り、台裏前方は使用によって磨り減る。

板草履（11）　11 は眼がなく、畳を留めた 2㎜程度の穿孔が周囲をめぐる。穿孔は２つで１組となり、9 組穿たれる。台部は隅丸方形で、台裏に抉りがなく、横断面は長方形である。

4　容器

桶（12・13）　12 は桶の側板で、二枚残るが直接には連続しない。墨痕から、複数枚の側板にまたがって文字が記されたことがわかる。13 も桶の側板である。中央で縦方向に割れるが、墨で「呉」と記されているのがわかる。

曲物（14・15）　14 は曲物の蓋で、下半を欠損する。墨書より、納豆を入れた容器であったことがわかる。15 は曲物の底板で、側面１か所に木釘が刺さる。中心に「原」の一字のみ記される。元禄３～９年（1690

～ 1696）に描かれた『元禄年間松本並びに家中屋敷図』によると、本調査地内東側は「原介右衛門」という武士の屋敷地であり、曲物の所有を示すために記されたと推測する。

5　調理加工具

箆（16）　両端に向かって薄く削り出した箆で、特に箆部は表面を薄く削いで整形する。柄は丁寧に面取りをし、横断面は楕円形を呈する。

狭ヒ（17・18）　17 は小型の狭ヒで、箆部先端は鋭く尖らせる。柄の先端は圭頭状で、横断面は方形を呈する。18 の箆部は緩やかな弧を描き、丁寧に削り出す。柄は丸棒状である。

6　食事具

匙（19）　左半部を欠損し、柄は付け根のみ残存する。椀部の裏面は何度も面取りするが、内面はやや粗く刳り抜く。

7　祭祀具

形代（20）　20 は人形である。角材を面取りした立体人形で、顔の輪郭はV字状に切り欠くことで胴との境を示す。鼻は墨書、目と口は削りを入れた溝を墨でなぞって表現する。横断面は蒲鉾状で、頭部・下端部の木口は扁平である。

斎串状木製品（21・22）　下半部を下方に向けて薄く成形する。下端を尖らせており、斎串に似た形状を呈するが、用途は不明である。

羽子板状木製品（23）　23 は一手切りの縁取りをもつ。羽子の打痕はみられない。祭祀用か。

8　日用品

栓（24 ～ 26）　24 は握り部を円筒状に削り出し、栓部は先端に向かって細くなる。先端より 2㎝程度差し込んで使われたようで、圧痕が強く残る。25 は握り部と栓部との境界がなく、先端に向かって緩やかに細くなる。26 は木口が扁平でなく、頭部は山形、先端は半球状である。全体に細長い。

9　文房具

木簡（27 ～ 40）　27 は右辺及び最下端部を欠損する。下部は刃物によって斜め方向に切断されており、二次的な加工の可能性がある。墨書は肉眼でも観察可能であるが、三文字目以降は欠損により判読不能である。28 は追柾目の板材で、表面に三行、裏面に二行、仮名交じりの墨書が記される。29 は下端を尖らせ、表面に一行、裏面に二行の墨痕が認められるが判読不能である。30 は指物の側板か。墨痕は判然とせず判読不能である。31 は下端を尖らせる。裏面の墨痕は不鮮明で判読不能である。32 は下部右側を一部小口を残して斜め方向に切断する。33 は下端を尖らせる。表面に記される「池田宿」は、松本城下と越後の糸魚川を結ぶ千国街道に置かれた宿場である。中世以前に成立した宿場町であり、盛んな物資輸送の往来により商業の町としても栄えていた。「池田」という地名は、現北安曇郡池田町にて室町時代初期よりみられる。34 は柾目の板材で、全体に墨痕が残るが、文字であるかは判然としない。35 は上端切断、下端を切り折りによって整形される。36 は下端を尖らせるが、僅かに欠損する。37 は下端を尖らせる。裏面一行目に記される「神林村」は、現松本市神林にあった村である。38 は上端を圭頭状に加工した、笹塔婆の形状を呈する木簡である。「島内村」は 1875 年からみられる地名であり、1954 年には松本市に編入されることから、木簡の使用・廃棄は近代以降となる。39 は下端を細くする。40 は中央に径 2㎜程の穿孔をもつ。表面に梵

字のような字が二文字確認できるが、判読不能である。

付札（41 ～ 43） 41 は左半を欠損する付札である。上方に釘孔または紐などを通すための穿孔が穿たれていた痕が残る。欠損のため全ての文字を捉えることはできないが、表面に「松本本願寺」の字が焼印にて記される。かつて本調査地にあった、本願寺松本別院に関わるものであったか。42 は上下両端を半円形に加工した長円形の付札で、全周囲を削りにより丁寧に整形する。上端に径 10㎜の穿孔をもつ。43 は上端に径 2㎜の穿孔をもち、下端は尖らせる。上部に「井桁」の紋が記されるが、本調査地の北隣に屋敷を構えていた板橋氏が「井桁」の家紋を使用していたことが松本城下の絵図にて確認できるほか、「板」の文字が確認できることから、板橋氏に関わる付札であると考えられる。ほかに、次節の図 No.37 の漆椀の高台見付にも同様に井桁紋が漆絵によって描かれる。

荷札（44 ～ 53） 44・45 ～ 47 はいずれも「納方」と記されることから、物品の納入に関わる荷札と考えられる。下に続く人名は、納方役人の名か。44 は下端を欠損する。同一遺構からは「池田宿」の記載のある木簡 33 が出土している。45 は下端を尖らせる。永高を用いた銭納入の荷札か。46 は上端左側及び下端を欠損する。表裏両面に二行の墨書が認められ、表面に日付・人名が記されるが、裏面一行目は欠損により判読不能である。47 は完形だが、中央で折れる。下端を尖らせる。裏面の「下新」は現松本市新村にみられる地名である。48 は上端に径 2㎜の穿孔及び左右に切り込みをもつ。上端左側を欠損するが、恐らく四隅すべてを切り落とす隅切り加工がされていたと思われる。裏面に記される「松平丹波」は、松本藩主であった戸田家が歴代名乗っていた名である。戸田家による松本藩の統治は元和 3 年～寛永 10 年（1617 ～ 1633）と享保 11 年～明治元年（1726 ～ 1868）の二期に分かれるが、共伴する陶磁器から後者の時期に使用された荷札であると考えられる。49 は下端を尖らせる。表裏両面、横方向に表面調整のための工具痕が多数みられる。表面の「狐鳥村」は旧安曇郡にあった村で、下に銭の金額、裏面には人名が記される。50 は上端に径 3㎜の穿孔をもつ。下端両側を欠損するため裏面下部の墨書を一部欠くが、表裏面共に同じ内容であることから、「衛門」と続くと推測する。二名の人名が記されるが、松本城下の絵図によると「板橋大蔵」は前述したように本調査地の北隣に屋敷があり、「鮎貝十郎左衛門」は調査地内東側に居住していた武士であったことがわかる。51 は下端を尖らせる。表裏両面、横方向に表面調整のための工具痕が多数みられる。52 は上端の左右に切り込みを入れ、下端は尖らせるが、わずかに欠損する。「注文」とあるが、下に続く墨書は不鮮明であり判読不能である。物品調達の荷札か。53 は上端の左右に切り込みを入れた方形の荷札であるが、墨書は判読不能である。

10　用途不明品

不明（54・55） 54 は砥石台か。方形の窪みは擂で例られており、砥石を嵌め込んだか。下部は先端に向けて細く加工される。裏面はやや丸みを帯び安定しない。55 はみかん割りの杭を転用したものか。下端部は被熱するが、これは杭として使用する際に腐食するのを防ぐために敢えて炭化させたものと考えられる。一面には鋸で菱格子文様が挽かれる。格子文様には子孫繁栄や無病息災といった子供の成長を願う厄除けや祭祀的な意味が込められる場合があるが、用途は不明である。

表 9　木製品一覧表

図No.	ID	出土		種別			手法		寸法 (cm)			破損状況	備考／墨書釈文
		面	遺構	分類	器種	細分	材	本取	長／口径	幅／底径	厚／高		
41	I -12	I	溝 16	用途不明品	不明	-	板材	追柾目	8.80	(3.30)	0.60	不明	「松本本願寺」の焼印、左半欠損
27	I -19	I	瓦集中部	文房具	木簡	-	板材	柾目	(13.00)	(6.60)	0.70	不明	「一同□」
17	II -21	II	溝 7	調理加工具	挽匙	-	板材	柾目	16.40	0.90	0.30	完形	筒部先端敲利に加工、下端二方向より矢ぶす
37	II -32	II	溝 15	文房具	札	-	板材	柾目	16.90	3.40	1.00	完形	・「一魁ヶ谷門　」／・「　神林村　義□」
42	II -50	II	土 52	文房具	荷札	-	板材	柾目	17.10	4.50	0.40	完形	「　」「□□」
28	II -52	II	土 52	用途不明品	板状製品	-	板材	追柾目	32.50	(12.00)	0.70	不明	・「由□[　　]ノ　□淵村□□ノ　[　　]」 ・「　め　山十ノ者ノ　行先　」
39	II -61	II	土 98	文房具	木簡	-	板材	柾目	16.20	34.00	0.40	完形	・「鈴原□村征兵衛」／・「概盡□五屋□□」
44	II -73	II	土 123	文房具	札	-	板材	追柾目	(18.70)	2.20	0.55	ほぼ完形	「納方無　儀右衛門／　池田御村中下　傳兵衛」
29	II -77	II	土 123	文房具	木簡	-	板材	柾目	(16.80)	2.70	0.35	完形	墨書判読不能
48	II -79	II	土 123	文房具	札	-	板材	柾目	13.50	2.60	0.70	完形	・「＜＜柾口[　　]門□」 ・「＜＜松平丹波様□村□□七」
45	II -81	II	土 123	文房具	荷札	-	板材	柾目	18.80	2.80	0.50	完形	・「納方飯田定[　　]衛」／・「永四百拾」
46	II -82	II	土 123	文房具	荷札	-	板材	柾目	(14.10)	4.00	0.45	不明	・「十月十一ノ　納方樋口住兵衛 ・「　□ノ　古之二行　重□」
1	II -83	II	土 123	工具	楔	-	棒材（芯持ち）	削り出し	12.30	3.70	2.10	完形	上端切断、下端２方向から矢ぶす
24	II -95	II	土 123	日用品	栓	-	棒材	削り出し	上部径 3.1 下部径 1.5～1.6	-	6.20	完形	下端より 2.3cm内側に穿み
30	II -112	II	土 123	文房具	木簡	-	板材	柾目	(16.70)	3.20	0.50	不明	表面「矢に松」の焼印、裏面墨書、指物の側板を転用した力
31	II -113	II	土 123	文房具	木簡	-	板材	柾目	15.10	2.70	0.65	完形	・「丁里殿[　　]」／・「□　　」
32	II -114	II	土 123	文房具	木簡	-	板材	追柾目	13.10	2.30	0.90	完形	・「逆番勾得　」／・「[　　]」
47	II -115	II	土 123	文房具	荷札	-	板材	柾目	17.90	2.90	0.70	完形	・「納方飯田　」／・「下新代宮人」
49	II -116	II	土 123	文房具	荷札	-	板材	柾目	18.30	2.90	0.80	完形	・「狐島村□四百五文」／・「鵜瀬兵衛門」
8	II -126	II	土 123	服飾具	朝ひ下駄	-	角材	四方柾	17.10	7.40	3.10	完形	断面台形
10	II -129	II	土 123	服飾具	露卸下駄	-	角材	二方柾	21.10	9.10	5.60	前側一部欠損	銀方衝、台部断面台形、指跡・指腹圧痕、穿孔 4 か所衝：板材柾目
11	II -130	II	土 123	服飾具	無垢下駄（草履下駄）	-	板材	柾目	22.80	8.40	1.40	完形	四緯に穿孔 18 か所（φ２～3mm）
33	II -153	II	土 123	文房具	荷札	-	板材	柾目	20.80	2.50	0.45	完形	・「池田殿□番黒」／・「　右帰□□　」
2	II -174	II	土 123	結縄具	結縄車（紡輪）	-	板材	柾目	4.20	-	0.60	完形	中心に穿孔（φ 12mm）
26	II -176	II	土 123	日用品	栓	-	棒材	削り出し	上部径 2.6 下部径 1.8	-	10.20	完形	上端生頭状、下端木口切り落とし
9	II -194	II	土 125	服飾具	無垢下駄（草履下駄）	-	角材	四方柾	16.40	6.40	2.90	ほぼ完形	下地処理なし、黒漆塗かに残、鼻日残、草履部分塗かに残、かかと部に銭釘残
34	II -216	II	土 143	用途不明品	板状製品	-	板材	追柾目	15.70	7.90	2.30	ほぼ完形	墨書判読不能
35	II -224	II	土 143	文房具	木簡	-	板材	柾目	16.90	2.70	0.55	完形	「白」
50	II -225	II	土 143	文房具	付札	-	板材	柾目	24.30	3.20	0.65	ほぼ完形	・「＜板橋大蔵方●結目上部左□[欠]衝門」 ・「＜板橋大蔵方●結目十部左□[欠]×」
36	II -233	II	土 143	文房具	木簡	-	板材	柾目	(15.50)	3.70	0.55	ほぼ完形	「松穴」
43	II -234	II	土 143	文房具	札	-	板材	柾目	(19.60)	2.60	0.65	ほぼ完形	「＝板」
3	II -236	II	土 143	結縄具	結縄車	-	板材	柾目	最大 5.3	-	0.80	完形	中心に穿孔（φ 6mm）
12	II -270	II	土 143	容器	桶（側板）	結物	板材	柾目	不明	不明	23.60	不明	「□　/　□」
13	II -271	II	土 143	容器	桶（側板）	結物	板材	柾目	(25.30)	5.90	0.70	不明	蓋
51	II -272	II	土 143	文房具	札	-	板材	柾目	15.80	2.90	0.75	完形	・「分荘三面出　ノ」／・「十月十二日　調」
25	II -290	II	土 143	日用品	栓	-	棒材	削り出し	上部 2.9 下部 2.2	-	4.60	完形	下部に刃物痕
38	II -337	II	土 196	文房具	札	-	板材	柾目	(16.00)	3.00	0.75	不明	・「嶋内御面次郎中」／・「島内村二越之米」
52	II -339	II	土 196	文房具	札	-	板材	柾目	(17.60)	4.10	0.40	不明	・＜　藤十郎」／・＜注文[　　]□□
14	II -340	II	土 196	容器	蓋板	-	板材	柾目	13.00	-	0.50	1/2 残	「　小豆」　納豆
53	II -368	II	土 196	文房具	木簡	-	板材	柾目	16.00	3.30	0.40	完形	「＜[　　]」
40	II -380	II	土 197	用途不明品	不明	-	板材	柾目	18.00	(7.70)	0.60	不明	墨書判読不能
54	II -389	II	土 200	用途不明品	斑石付	-	板材	二方柾	34.50	4.10	2.10	完形	長方形の穿み（145 × 26mm、深さ 12mm）
16	II -394	II	土 200	用途不明品	箆	-	板材	柾目	17.00	1.70	0.60	完形	先端薄く加工
21	II -415	II	土 201	祭祀具	斉串状木製品	-	板材	柾目	26.50	2.20	0.80	完形	先端薄く尖らせる
55	II -417	II	土 201	用途不明品	不明	-	角材	二方柾	(31.70)	4.80	3.30	不明	表面に斜格子の刻印、一端炭化
15	II -424	II	土 201	容器	底板	曲物	板材	柾目	13.00	-	6.50	完形	「廻」
4	II -433	II	土 201	服飾具	連歯下駄	-	角材	二方柾	(22.00)	(10.40)	7.80	ほぼ完形	指跡・指腹圧痕、後側側面に焼印、銀方衝
6	II -454	II	土 203	服飾具	連歯下駄	-	角材	二方柾	17.80	9.10	7.20	前側欠損	台表に模様（焼印）、銀方衝、台に歯み
7	II -455	II	土 203	服飾具	連歯下駄	-	角材	二方柾	19.20	8.50	6.80	後側欠損	台表に模様（焼印）、銀方衝、前壺方形、後側に銭釘残
19	II -465	II	土 203	食事具	匙	-	板材	板目	(8.50)	(2.90)	1.40	不明	加工痕明瞭、椀部平分欠損
23	II -468	II	土 203	祭祀具	羽子板状木製品	-	板材	柾目	(27.90)	1.04	0.50	不明	一面に刃物痕
20	II -470	II	土 203	祭祀具	人形	-	角材	二方柾	16.00	1.90	2.00	完形	墨書で顔を表現、目・口は刃物で削る
22	III -7	III	土 105	祭祀具	斉串状木製品	-	板材	追柾目	28.00	2.20	1.00	完形	一端を薄く尖らす
18	III -13	III	土 127	調理加工具	挽匙	-	板材	柾目	25.60	2.60	0.90	ほぼ完形	加工痕多
5	III -16	III	検出面	服飾具	連歯下駄	-	角材	二方柾	21.50	11.30	3.80	完形	指跡・指腹圧痕、鼻緒孔方形

市（ ）内数値は、残存値を表す。

図 110　木製品　(1)

図 111　木製品 (2)

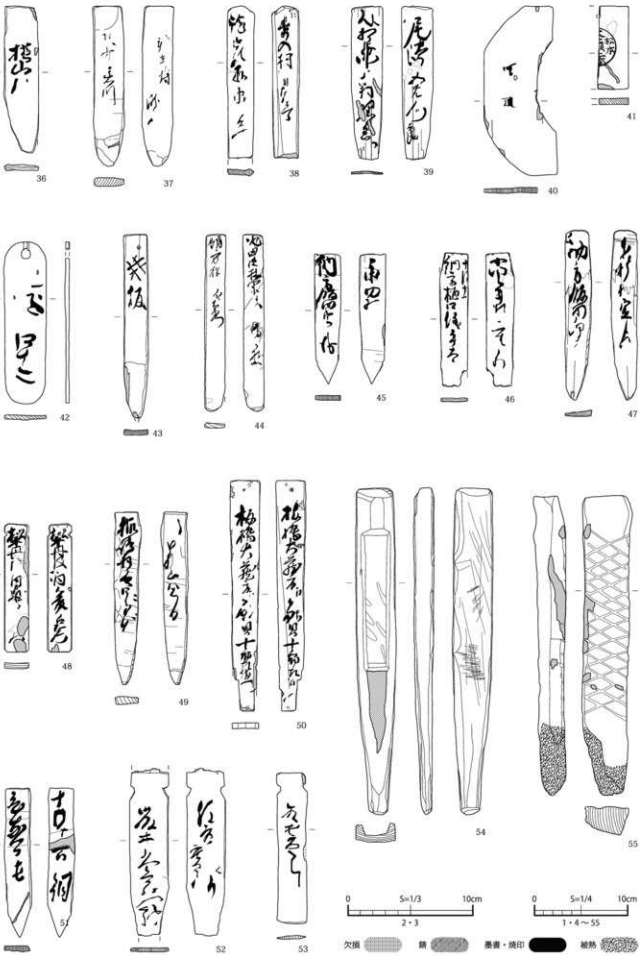

36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
0
5=1/3
10cm
2・3
0
5=1/4
10cm
1・4～55
欠損
錆
墨書・焼印
被熱

図 112　木製品 (3)

第 4 節　漆器・漆工用具（表 10、図 113 ～ 115、写真図版 19）

土居尻 1 出土の漆器については、松本市文化財課調査報告№ 169「長野県松本城三の丸跡 土居尻第 1 次緊急発掘調査報告書 ～遺物編 2（木器編）～」にて詳細が記されている。よって、ここでは大名町 3 から出土した漆器・漆工具のみを取り上げる。

大名町 3 では、漆器が 166 点、漆工用具が 17 点出土している。器種別内訳は、椀 72、椀蓋 39、皿 2、鉢 1、合子 1、箱 6、櫃 3、膳 3、折敷 1、湯桶 2、円板 9、めんぱ 1、箸 7、下駄 2、横櫛 3、枕 2、その他・用途不明品 12、漆液容器 15、刷毛 2 点である。このうち 127 点を図 113 ～ 115 に掲載している。遺物の詳細については、表 10 を参照されたい。

表 10　漆器・漆工用具一覧表

図版	ID	出土面	遺構	器種	分類	器種	部分	材	木取	下地	漆法（上塗）	加飾	法量（単位：cm）口/口径	底/底径	厚/高	破損状況	備考
1	B-1	第 7	溝群	容器	椀	椀高優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	塗立	漆絵	13.80	高台付根 7.4	6.40	1/2 残	外面胴部に赤色漆で漆絵
4	B-4	第 7	溝群	容器	椀	優丸	椀本体	不明	漆	縦黒	呂色	×	不明	不明	(3.40)	欠か	型平
2	B-5	第 7	溝群	容器	椀	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	塗立	漆絵	(13.10)	不明	(5.00)	1/2 残	外面胴部に赤色漆・黄色漆で漆文様の漆絵
5	B-6	第 7	溝群	容器	椀	皿	椀本体	不明	不明	漆	縦朱	呂色	×	不明	不明	(4.50)	欠か	型平、側面に凸部（かつら）を彫らず
3	B-17	第 7	溝群	容器	椀	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色	×	(8.60)	不明	(3.50)	2/3 残	型平
7	B-23	第 8	溝群	容器	椀	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	塗立	×	(14.40)	高台付根 7.2	(6.10)	1 箇高台欠損	大型
8	B-24	第 9	溝群	容器	椀	椀高優丸	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	塗立	×	(14.40)	7.70	(8.10)	1 箇欠損	高台の口クロ目残り、高台裏中央まで挽く
6	B-25	第 9	遺工用具	漆液容器（椀）	不明	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	×	不明	不明	不明	不明	欠か	型平、蓋蝶との嵌め込あり、生漆の漆液容器か
9	B-27	第 10	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	○	塗立か	漆絵	(11.0)	(5.0)	(3.20)	ほぼ完形	内面黒漆塗、外面黒漆塗、外面に赤色漆で帽花文様の漆絵
10	B-30	第 10	溝群	容器	椀	不明	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	塗立か	×	(13.4)	不明	(2.90)	欠か	型平
11	B-31	第 10	溝群	容器	椀	優丸	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	塗立	×	(11.0)	6.6 ～ 7.1	(4.10)	1 箇欠損	内面に口クロ目、粗雑
12	B-35	第 31	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	縦取	呂色	×	不明	不明	不明	(1.90)	欠か	型平
13	B-36	第 31	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	縦取	呂色	×	(10.60)	5.60	(3.50)	1/3 残	型平
14	B-38	第 31	溝群	容器	椀	不明	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	塗立か	漆絵	不明	不明	(2.90)	1/3 残	外面胴部に赤色漆で帽附文様の漆絵
15	B-41	第 31	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	×	(10.8)	(5.6)	3.80	2/3 残	型平
16	B-42	第 31	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	縦取	呂色	×	不明	不明	不明	(2.10)	1/3 残	型平な木地
17	B-43	第 31	溝群	容器	椀蓋	平	椀本体	轆目取	不明	縦黒	呂色	×	13.40	5.50	2.50	2/3 残	型平、高台付根にチギミ
18	B-53	第 52	溝群	容器	椀	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色か	蒔	11.60	8.00	3.50	ほぼ完形	高台付近に赤色漆で蒔「イ」、高台付近に鉄釘刺さる、浅型
19	B-58	第 85	溝群	容器	椀	不明	不明	不明	不明	縦朱	呂色か	漆絵	不明	不明	(2.80)	欠か	外面に黒漆で漆絵（文様は色が薄か）
20	B-60	第 89	溝群	容器	椀	椀高優丸	椀本体	轆目取	縦取	○	塗立	×	(14.3)	(6.5)	8.80	ほぼ完形	内面黒漆塗、外面黒漆塗、高台裏に刻み
21	B-67	第 119	溝群	容器	椀	優丸	椀本体	轆目取	縦取	○	塗立か	×	不明	不明	(5.00)	1/3 残	内面黒漆塗、外面黒漆塗
22	B-69	第 119	遺工用具	漆液容器（椀）	優丸	椀本体	轆目取	縦取	縦朱	不明	漆絵	(11.80)	(5.90)	(4.40)	1/2 残	外面胴部に黒漆で帽附文様の漆絵、生漆または透漆の漆液容器
23	B-71	第 123	溝群	容器	椀	椀高優	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	塗立か	×	不明	不明	(5.40)	欠か	
24	B-75	第 123	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	漆絵	(11.40)	5.50	(4.10)	1 箇欠損	型平、外面胴部に赤色漆で「柳り地」（柳葉片地に似る）紋の漆絵 3 単位
32	B-80	第 123	溝群	容器	椀	平	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	蒔	12.40	6.80	5.20	1 箇欠損	側面に 2 段の平明匠、側面に凸部（かつら）を彫らず、高台付近に黄色漆で蒔（松葉か）
34	B-102	第 123	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	不明	漆絵	不明	不明	(2.80)	欠か	外面胴～側部に黄色漆で「丸に鬼三つ柏」紋の漆絵
33	B-103	第 123	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	呂色か	×	<11.2>	不明	不明	(1.70)	欠か	
37	B-131	第 123	溝群	容器	椀	不明	椀本体	轆目取	縦取	○	不明	蒔	不明	(8.00)	(3.40)	高台残	内面平り不明、高台裏黒漆塗、高台付近に赤色漆で「月形に一」の蒔
31	B-132	第 123	溝群	容器	椀	椀高優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	塗立	×	(14.30)	7.80	(7.40)	ほぼ完形	高台中央まで挽く
35	B-133	第 123	溝群	容器	椀	不明	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	塗立	漆絵	不明	不明	(3.10)	欠か	外面胴部に黄色漆で梅花文様の漆絵
36	B-134	第 123	溝群	容器	椀	不明	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	塗立	蒔	不明	不明	(1.50)	不明	高台付近に赤色漆で蒔（文字）
27	B-135	第 123	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色	×	11.00	5.60	3.40	ほぼ完形	
24	B-136	第 123	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色	漆絵	(10.40)	5.10	(2.20)	1/2 残	外面胴～側部～高台付近に黄色漆で「丸に大鼓重」紋の漆絵
28	B-137	第 123	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色	漆絵	10.00	5.10	2.70	1/2 残	外面胴～側部～高台付近に黄色漆または鶯黒漆で唐草文様の漆絵
25	B-138	第 123	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色	漆絵	(9.80)	5.20	(1.70)	1/3 残	外面胴部～側面に鶯黒漆で梅附文様の漆絵、高台付近にチギミ
26	B-160	第 123	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色	蒔絵	10.30	5.60	3.30	ほぼ完形	1 枚目～高台裏黒漆塗、側～側面～高台付近に蒔絵で「丸に五本竹蒔」紋の蒔絵 4 単位
30	B-172	第 123	溝群	容器	椀		椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色	×	<10.4>	(5.20)	(1.90)	ほぼ完形	
49	B-214	第 143	溝群	容器	椀	平	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色か	×	(12.70)	6.80	(3.90)	2/3 残	
55	B-215	第 143	溝群	容器	椀蓋	平	椀本体	轆目取	縦取	呂色	×	不明	不明	(1.50)	欠か		
56	B-218	第 143	遺工用具	漆液容器（椀）	優丸	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	塗立か	×	不明	不明	(2.50)	欠か	生漆または透漆の漆液容器	
50	B-219	第 143	溝群	容器	椀	平	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	×	(12.00)	(6.90)	(4.30)	1/2 残	
38	B-220	第 143	溝群	容器	椀蓋	優丸	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	×	(11.7)	高台付根 5.8	(2.90)	1 箇・高台欠損	
57	B-221	第 143	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	×	不明	不明	(4.70)	1/2 残	
51	B-223	第 143	溝群	容器	椀	平	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	蒔	(12.50)	6.60	(4.90)	1 箇・底部一部欠損	高台付近に「北方」の蒔
54	B-226	第 143	溝群	容器	皿	他	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	蒔	(10.40)	5.40	(1.70)	ほぼ完形	高台付近に梅鶴に似た技法で蒔（赤色漆）
46	B-227	第 143	鉄釘加工具（椀）	優高優	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	×	(12.6)	(5.40)	(6.50)	1 箇・底部一部欠損	底部に φ 28mm の穿孔、側板を鼠斗に転用
44	B-228	第 143	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色	×	11.80	4.40	2.70	1 箇欠損	
39	B-229	第 143	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	縦取	呂色	呂色	蒔	10.30	5.40	3.10	ほぼ完形	高台付近に赤色漆で「・・・」の蒔
40	B-230	第 143	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	縦取	呂色	呂色	蒔	11.60	5.50	3.60	2/3 残	高台付近に赤色漆で「・・」の蒔
52	B-231	第 143	溝群	容器	椀	平	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	不明	×	(12.60)	高台付根 6.2	(5.20)	2/3 残	
41	B-241	第 143	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	不明	縦黒	呂色	×	(11.8)	高台付根 5.6	(4.00)	2/3 残	
42	B-242	第 143	溝群	容器	椀蓋	優	椀本体	轆目取	縦取	黒内朱	呂色	蒔	10.20	5.40	3.00	ほぼ完形	高台付近に赤色漆で「・・」の蒔
48	B-273	第 143	溝群	容器	椀	平	椀本体	轆目取	縦取	縦黒	呂色	蒔	(16.20)	7.00	(2.40)	不明	高台付近に赤色漆で「梅」の蒔

図版	ID	出土		種別			手法			施工段階				寸法(cm)			現状	備考
版		面	遺構	分類	詳細	部分	材	本数	下地	準備	上塗	加飾	色/口径	幅/底径	厚/高			
58	274	2	143	容器	椀	腰高圏	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	墨立	×	不明	不明	(5.00)	不明		
47	275	1	143	容器	椀	腰高圏	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	墨立	×	(12.80)	高台付根 6.0	(6.60)	1/2 残		
59	276	1	143	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	黒内朱	墨立	×	不明	不明	(3.20)	不明	
45	277	1	143	容器	椀蓋	平	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	黒内朱	墨立	×	11.70	4.80	2.40	2/3 残	底面に φ 6mm の穿孔
53	287	1	143	容器	椀	碗	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	墨立	×	(10.10)	高台付根 5.4	(6.70)	1/2 残		
63	288	1	143	容器	椀蓋	縁	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	黒	(11.000)	5.80	(3.20)	不明		高台付付に赤色塗で「・・」の線
64	306	1	169	漆工用具	漆液容器（椀）	縁	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	黒内朱	黒	漆絵	(14.0)	不明	(3.60)	不明	外面胴部に赤色塗で「雪輪」紋の漆絵、黒漆塗の漆液容器
60	307	1	169	容器	椀蓋	縁丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	黒	漆絵	(12.6)	(4.90)	(3.80)	不明	外面胴一周部に赤色塗で「丸に三ツ巴」紋の漆絵三巴 ⊙
63	309	1	169	容器	椀	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	黒	漆絵	(12.10)	6.60	(5.00)	不明	外面胴部に赤色塗で漆絵
66	310	1	169	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	黒内朱	黒	(11.30)	(6.00)	(1.90)	不明		
68	311	1	169	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	黒内朱	×	不明	不明	(1.60)	不明		
69	312	1	169	漆工用具	漆液容器（椀）	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	黒内朱	黒色	漆絵	不明	(2.00)	不明	外面胴部に鹿朱漆で漆絵	
61	317	1	169	容器	椀蓋	縁丸	椀木地	轆目挽	刷毛	総朱	墨立	×	(11.20)	(5.90)	(3.00)	不明	内外面赤色漆塗、高台貼黒漆塗	
65	318	1	169	容器	椀	腰高圏	椀木地	轆目挽	刷毛	総朱	墨立	×	(12.7)	(5.70)	(6.00)	不明		
62	319	1	169	容器	椀蓋	縁丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	×	(10.0)	(4.90)	(2.00)	不明		
70	328	1	169	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	黒	漆絵	不明	不明	不明	外面胴一周部に赤色塗で「丸に梅鉢紋」紋の漆絵	
67	329	1	169	容器	椀	縁丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	墨立	×	不明	不明	(4.70)	不明	
71	333	1	195	容器	椀蓋	縁丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	黒	×	11.30	(6.20)	(2.80)	不明	
79	335	1	196	容器	椀	碗	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	黒内朱	黒	漆絵	11.00	(5.20)	(6.90)	ほぼ完形	外面胴部に赤色塗で「雪輪」紋の漆絵
77	338	1	196	漆工用具	漆液容器（椀）	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	総朱	墨立	銀	(13.7)	(6.80)	8.80	ほぼ完形	高台付付に黒漆で「丸」の線、黒漆の漆液容器	
81	341	2	196	漆工用具	漆液容器（椀）	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	○	墨立	×	不明	不明	(3.20)	不明	内外面鹿朱漆塗、黒漆の漆液容器	
78	342	2	196	容器	椀	平	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	黒内朱	黒	漆絵	13.30	(5.80)	5.50	不明	外面胴部に赤色塗で「雪輪」紋の漆絵
75	343	2	196	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	(12.1)	(5.80)	(3.40)	不明		
76	344	2	196	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	×	(12.0)	高台付根 (7.0)	(4.80)	不明		
72	345	2	196	容器	椀蓋	縁丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	黒	漆絵	(10.1)	5.20	(2.20)	不明	外面胴部に鹿朱漆または黄色漆で漆絵（文様不明）
80	354	2	196	容器	椀	縁丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	不明	不明	(4.00)	不明		
74	355	2	196	容器	椀蓋	縁	椀木地	轆目挽	刷毛/ヘラ	○	黒色	×	(11.9)	(5.6)	3.90	1/2 残	内外面鹿朱漆塗、梁甲	
73	356	2	196	容器	椀蓋	縁丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒色	漆絵	(11.00)	5.00	(2.70)	不明	外面胴部に鹿朱漆で漆絵	
82	376	2	197	容器	椀	縁丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	銀	(12.90)	6.10	(5.00)	不明	外面胴部に黄色塗で漆絵（文様不明）	
83	377	2	197	容器	椀	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	銀	(10.60)	(5.10)	(5.40)	1/2 残	外面胴部に黄色塗で「丸に二ツ葵紋」紋に似る漆絵	
84	378	2	197	漆工用具	漆液容器（椀）	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	銀	(14.10)	7.70	(81.90)	不明	外面胴一周部に赤色塗で植物文様の漆絵、胴部に φ 9mm の穿孔、黒漆の漆液容器、Ⅱ-385 と同一製品。	
85	381	2	197	容器	椀（行ずに転用）	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	不明	不明	(4.60)	不明	内面一部剥ぎ、穿孔2か所（φ 3mm）、2か所（φ 2mm）、内子に転用	
86	387	2	199	漆工用具	漆液容器（椀）	不明	椀木地	轆目挽	○	総朱	墨立か	銀	不明	不明	(2.00)	不明	内外面赤色漆塗、口唇部黒漆塗、外面胴部に黒漆で植物文様の漆絵、黒漆の漆液容器	
87	398	1	200	容器	椀	平	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒内朱	黒	漆絵	13.00	6.40	5.20	ほぼ完形	
93	400	1	201	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	銀紅	(11.0)	5.60	(4.40)	ほぼ完形	外面胴部に銀朱絵・針箆で「丸に梅」、高台貼に銀朱絵	
101	401	1	201	容器	椀	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	○	墨立	銀	(12.30)	(5.80)	(8.30)	ほぼ完形	内面赤色漆塗、外面鹿朱漆塗、外面胴部に黄色漆と白漆で「丸に亀甲花菱」紋の漆絵 3 単位	
102	402	1	201	容器	椀	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	(13.00)	(7.40)	(6.00)	不明		
88	403	1	201	容器	椀蓋	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒色	漆	9.70	4.80	3.20	ほぼ完形	外面胴一周部に赤色塗で植物文様の漆絵・針箆	
103	404	1	201	容器	椀	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	(12.40)	(7.20)	(6.60)	1/2 残	内面一部剥ぎ	
91	405	1	201	容器	椀蓋	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	銀	不明	不明	(1.70)	不明	外面胴部に赤色塗で漆絵（文様不明）	
92	406	1	201	容器	椀蓋	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒色	漆絵	不明	不明	不明	不明	外面胴部に赤色塗で文様の漆絵	
98	407	2	201	漆工用具	漆液容器（椀）	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	12.60	(7.30)	(4.90)	高台欠損	生漆または漆塗の漆液容器	
100	408	1	201	漆工用具	漆液容器（椀）	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	(15.10)	(5.90)	(5.70)	口縁・高台欠損	生漆・黒漆の漆液容器	
90	411	1	201	容器	椀蓋	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	(11.4)	不明	(2.50)	不明		
99	418	1	201	漆工用具	漆液容器（椀）	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	(14.0)	不明	(4.50)	不明	生漆または黒漆の漆液容器	
94	422	1	201	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒色	漆絵	(11.0)	(5.40)	(4.90)	高台欠損	外面胴一周部に赤色塗で植物文様の漆絵	
95	423	1	201	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	不明	不明	不明	不明	(4.00)	1.10	不明	割台か	
104	435	1	201	容器	椀	平	椀木地	轆目挽	刷毛	黒色	黒色	漆絵	(11.80)	6.50	(3.90)	高台欠損	外面胴部に黄色塗で「丸に亀甲巴丸」の漆絵	
96	436	1	201	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	○	黒色	×	(10.3)	(6.50)	(2.30)	1/2 残	内面黒漆塗、外面黒漆塗	
97	437	2	201	漆工用具	漆液容器（椀）	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	不明	不明	(4.60)	1/2 残	黒漆用の漆液容器	
89	438	1	201	容器	椀蓋	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	○	墨立	×	不明	不明	(3.60)	不明	内面黒漆塗、外面黒漆塗	
106	445	1	202	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	○	墨立	×	不明	不明	(2.70)	不明	内面黒漆塗、外面黒漆塗	
107	446	1	202	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒色	×	不明	不明	(4.70)	1/2 残		
105	447	1	202	容器	椀	他	椀木地	轆目挽	刷毛	○	墨立	銀	(14.30)	(7.40)	(4.70)	ほぼ完形	内面鹿朱漆塗、外面胴部に赤色塗で漆絵（文様不明）	
113	453	1	203	容器	椀蓋	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	総朱	黒色	×	不明	不明	(1.60)	不明		
114	458	1	203	漆工用具	漆液容器（椀）	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	総朱	黒色	×	(11.50)	(6.70)	(3.80)	不明	生漆の漆液容器	
111	460	1	203	容器	椀	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	総朱	黒色	銀	(8.60)	7.30	(3.20)	不明	内外面赤色漆塗、高台貼黒漆塗、高台付付に黒漆で銀、梁甲、板来塗に似る	
110	461	1	203	容器	椀	腰高圏丸	椀木地	轆目挽	刷毛	○	墨立	×	(13.70)	(7.30)	(6.10)	不明	内面黒漆塗、外面黒漆塗、内面高台ロクロ目飾い	
112	464	1	203	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	○	墨立	×	(8.60)	(8.20)	(3.10)	不明	内面黒漆塗、外面黒漆塗、内面高台ロクロ目飾い、内面一部剥ぎ	
109	471	1	203	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	墨立	銀	(13.60)	7.30	(5.60)	口縁欠損	内面・外面胴部に赤色塗で漆絵	
108	476	1	203	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	黒色	銀	10.30	5.40	(6.00)	口縁欠損	高台付付に「万」の線	
115	478	1	横出面	容器	椀蓋	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	銀	(9.60)	不明	(2.40)	不明	外面胴一周部に黄色塗で植物文様の漆絵	
117	479	1	横出面	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨色	×	不明	不明	(2.60)	不明		
116	480	1	横出面	容器	椀蓋	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	墨色	×	不明	不明	(2.30)	不明		
119	487	1	立堂	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	不明	不明	(2.50)	不明		
118	488	1	立堂	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	×	不明	不明	(3.60)	不明		
123	図-1	面 4	56	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	漆	総朱	黒色	×	不明	不明	(2.90)	不明	梁甲、板来塗に似る	
120	図-4	面 1	68	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨色	×	(11.00)	6.20	(3.40)	0		
125	図-11	面 1	172	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒色	黒色	銀	(12.00)	(5.80)	(4.20)	2/3 残	内面赤色塗で漆絵（和歌か）	
124	図-15	面	横出面	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	銀	(14.00)	不明	(3.40)	1/2 残	内面赤色塗で漆絵（和歌か）	
121	図-19	面	調整区（水路）	容器	椀	腰丸	椀木地	轆目挽	刷毛	黒内朱	墨立	銀	(11.40)	(6.20)	(5.40)	1/2 残	外面胴部に赤色塗・黄色塗で「梅」紋の漆絵・針箆	
122	図-22	面	重機撹拌中	容器	椀	不明	椀木地	轆目挽	刷毛	総黒	墨立	×	(9.30)	6.40	(2.10)	1/2 残		
126	図-118	面	1	漆工用具	刷毛	-	板材	足目	-	-	-	-	(14.40)	9.80	1.00	ほぼ完形	毛欠損、周囲付着、柄に φ 3mm の穿孔、沢下地形の刷毛	
127	図-334	面	1	漆工用具	刷毛	-	板材	足目	-	-	-	-	13.90	(8.70)	1.00	2/3 残	柄に穿孔（φ 6mm）	

※（ ）内数値は現存値、〈 〉内数値は復元値をそれぞれ表す。

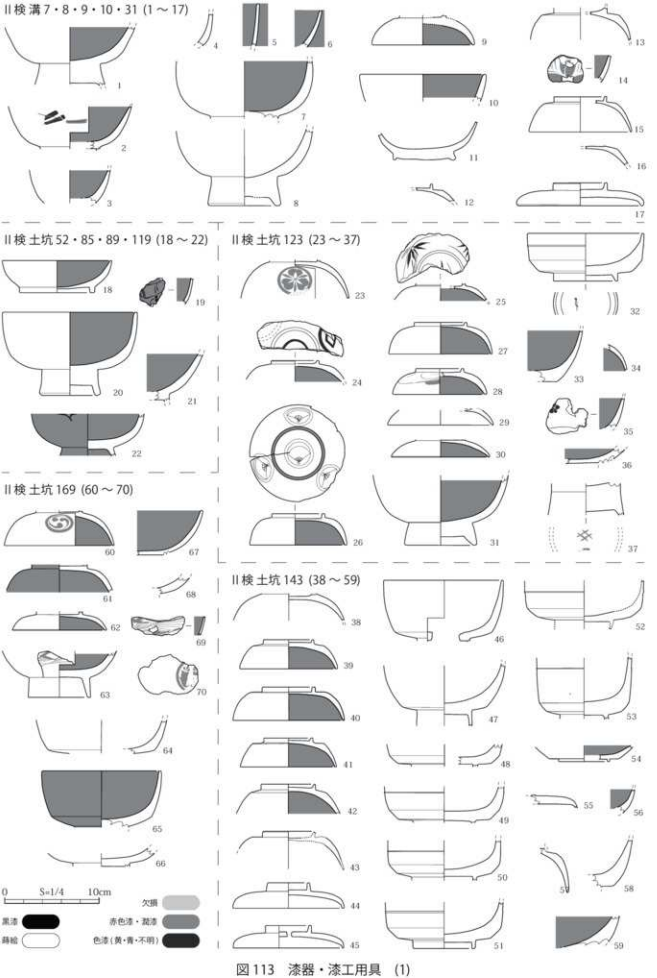


図113　漆器・漆工用具　(1)

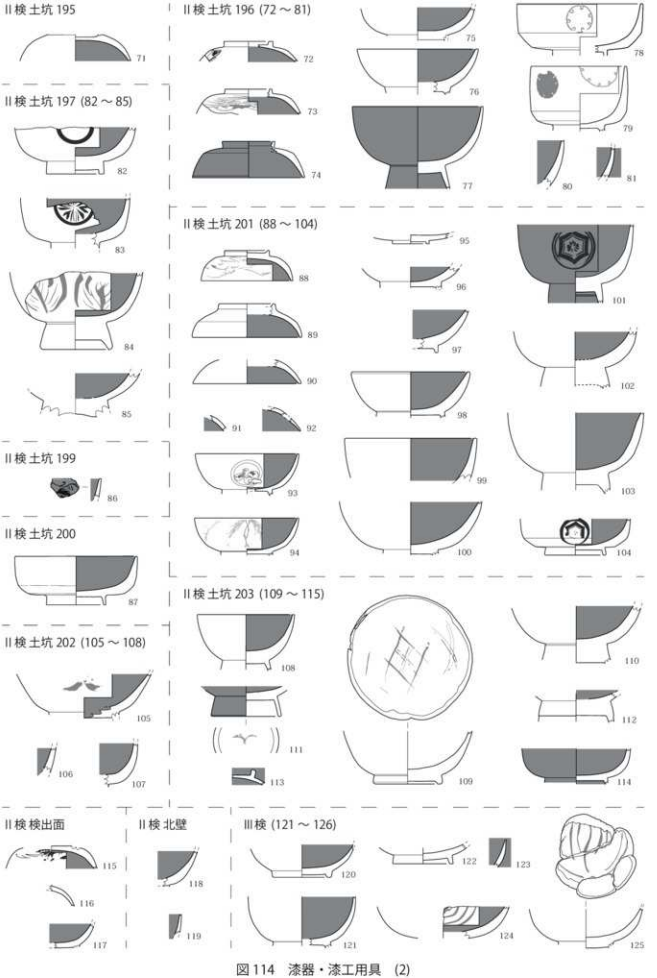


図 114　漆器・漆工用具　(2)

漆工用刷毛

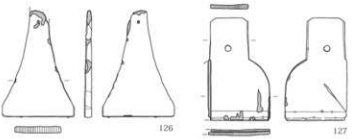


図 115　漆器・漆工用具 (3)

第 5 節　石製品（表 11、図 116 ～ 118、写真図版 21）

土居尻 1 では計 134 点、大名町 3 は計 99 点の石器・石製品が出土し、その合計は 233 点である。このうち中～近世に帰属すると考えられる石製品を中心に 30 点を図示、概要を述べる。それら以外は表 11 を参照されたい。なお、縄文石器 36 点については紙面の都合上割愛した。

1　土居尻 1 出土石製品

硯（1 ～ 12）　遺存状態が比較的良いものについては、いずれも内外面平面形が長方形を呈し、側面がほぼ垂直に立ち上がる。1・4・12 は、裏面に陰刻が認められ、それぞれ「山崎茂」、「中坂天？硯」、「甲州雨畑」と読める。2 は、海・陸部に墨が残存している。3 は、両面に海・陸部を有する。10 は、幅 3.01cm の細型長方形を呈する。

砥石（13 ～ 20）　直方体（14・15・17・19・20）と扁平（13・16・18）の 2 種類が認められる。15 と 17 は、表面にゴザ目が確認できるため、幕府御用達の上州砥沢産である可能性がある。過去の調査でも複数点出土があり、砥沢産砥石を扱う砥石問屋が城下町存在していたことがこれまでの調査と古絵図から確認している。

鋳型（21）「コ」の字の金属製品の鋳型と考えられる。

石臼（22）　8 分角で 11 ～ 12 溝の臼面を有する上臼である。また、供給口と芯が同じで、菱形に装飾されていることから茶臼であると判断される。

2　大名町 3 出土石製品

硯（23・24）　23 の裏面は、3cm 程の肩を残し 0.4cm 程の凹みが認められる。また、凹み部に陰刻があり「アキコ」や「(ア？) キ」、「ケサキ？」と読める。24 は、海・陸部に墨が残存している。

温石（25）　孔部が認められるため温石と判断した。

砥石（26 ～ 30）　26 ～ 28 は、いずれも直方体を呈している。そのうち 26 は砥沢産砥石の特徴であるゴザ目を有する。30 は、右側面の端部断面が亀頭状を呈しており特異な形状であるが、表面の刃物痕から砥石としてあつかった。特殊な道具を研いだ可能性がある。

この他、写真のみ提示した石灰華と呼ばれるものが両調査で 1 点ずつ出土している。これは温泉地の湧き出し口に沈殿する炭酸カルシウムの結晶である。信州大学の大塚勉教授の指導を受け、白骨温泉（松本市奈川）で産出された可能性が高いことがわかった。この石灰華が丘状に大きくなったものが、特別天然記念物「白骨温泉の墳湯丘と球状石灰石」として指定を受けている。

表 11　石製品一覧表

ID	実測No.	器種	区	検出面	遺構	石材	長/口径(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
土師尻 I												
121		石斧		I	建 1	滑石	(2.01)	0.64	0.56	1.4	長軸に欠損	平面：長方形、断面：楕円形、両端部を欠損
1	13	硯石		I	建 6	頁岩	(12.78)	6.78	1.24	(143.2)	1/4 欠	平面：長方形、断面：長方形、硯面 4、仕上硯、線条研磨痕あり
116		石板		I	石列 A	粘板岩	(3.44)	(5.50)	0.32	9.1	3/4 以上欠	
2		火打石		I	検出面	石英	3.13	2.75	2.08	15.8	完形	1 側縁使用か
3		石斧		I	検出面	滑石か	(2.97)	0.61	0.56	(1.9)	1/4 欠	修尻、断面はや楕円
117		火打石か		I	検出面	チャート	6.82	3.89	2.56	51.4	完形	1 縁辺微細剥離あり
118		不明		I	検出面	頁岩	(6.20)	(3.22)	(0.89)	21.8	3/4 以上欠	ノミ痕の可能性のある痕跡あり、硯石か
4		硯石		II	検出面	頁岩	5.75	4.27	1.24	58.8	完形	直方体、硯面 2、中硯、線条研磨痕あり
5	22	石白(茶臼)		II	検出面	閃緑斑岩	(21.44)	(11.06)	11.77	(4619.0)	2/3 欠	茶臼の上臼、溝 8 分画か、軸孔（φ 2.25cm、両面穿孔）、挽き木打込孔側面 2、上面と側面を研磨、推定径 22.00cm
6		硯か		II	検出面	粘板岩	(5.26)	(5.19)	(0.78)	(23.6)	3/4 以上欠	硯の一部か、ID7 と同一個体か
7		硯か		II	検出面	粘板岩	(4.33)	5.28	(0.69)	(19.1)	3/4 以上欠	硯の一部か、ID6 と同一個体か
8		硯石		II	検出面	頁岩	(9.79)	6.62	1.49	(136.4)	1/4 欠	平面：不整方形、断面：長方形か、硯面 1、中硯
9	14	硯石		II	検出面	安山岩	11.82	3.82	1.83	157.1	完形	直方体、硯面 6、中硯
10		硯石		II	検出面	頁岩	(8.10)	(4.78)	(0.58)	(21.7)	3/4 以上欠	硯面 4、仕上硯、線条研磨痕あり
11		硯石		II	検出面	頁岩	(8.81)	9.17	4.06	(372.0)	1/2 欠	平面：不整方形か、断面：不整長方形、硯面 1、中硯、3 片に分離、ID43 と同一か
12		硯石		II	検出面	頁岩	(8.60)	(6.25)	(1.19)	(41.9)	1/2 欠	平面：三角形、硯面 1 か、中硯
13	1	硯		II	検出面	粘板岩	12.17	7.51	1.88	(367.0)	1/4 以上欠	平面：長方形、断面：長方形、裏面に刻字「山崎茂」
14		硯石		II	検出面	頁岩	(11.39)	(4.92)	(0.79)	(60.4)	2/3 欠	直方体か、硯面 2、仕上硯、線条研磨痕あり、2 片に分離
15		硯石		II	検出面	頁岩	(5.44)	(3.58)	(0.69)	(15.2)	3/4 以上欠	硯面 2、中硯
16		硯石		II	検出面	頁岩	(3.59)	(2.68)	(0.96)	(10.1)	3/4 以上欠	直本体の角の部分、硯面 2、加工面 1、中硯
17		硯石		II	検出面	頁岩	(3.44)	(2.61)	0.30	(4.9)	1/2 欠	平面：長方形、断面：板状、溝状研磨痕 2
18		硯石		II	検出面	凝灰岩	(4.76)	(3.34)	(1.12)	(17.5)	2/3 欠	硯面 2、中硯
19		硯石か		II	検出面	頁岩	(5.98)	(5.51)	(0.68)	(19.9)	3/4 以上欠	ID12 と同種の石材
20		硯石か		II	検出面	頁岩	(6.25)	(2.73)	(0.65)	(12.9)	3/4 以上欠	ID12 と同種の石材
21		石板		II	検出面	粘板岩	(6.61)	(2.91)	0.30	(10.7)	3/4 欠	両面研磨
22		石板		II	検出面	粘板岩	(5.39)	(4.09)	0.23	(8.0)	3/4 欠	両面研磨
24	15	硯石		II	検出面	安山岩	15.11	4.39	2.94	368.0	完形	直方体、硯面 2、未使用の整形面 4、中硯、線条研磨痕あり、タシ目あり、硯沢痕か
25		硯石		II	検出面	砂岩	12.57	5.06	4.58	574.0	完形	直方体、硯面 4、荒硯
26		碁石		II	検出面	粘板岩	2.03	1.89	0.47	3.1	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石
28		硯石		II	検出面	頁岩	(8.93)	4.47	1.96	(95.0)	2/3 欠	直方体か、硯面 1 か、中硯
29	2	硯		II	検出面	粘板岩	(13.05)	6.20	1.91	(296.8)	1/4 以上欠	平面：長方形、断面：長方形、陸部の一部に黒付着
30	16	硯石		II	検出面	粘板岩	(9.08)	5.32	(1.37)	(99.0)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形、裏側か
31		硯石		II	検出面	頁岩	(5.84)	(5.41)	(0.68)	(29.3)	3/4 以上欠	硯面痕跡でさず、割れた硯石の一部か
32		碁石		III	建物跡	粘板岩	2.14	1.83	0.53	3.1	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平な楕円形、黒石
33		碁石		III	溝 301	粘板岩	2.68	1.80	0.44	3.0	完形	平面：楕円形、断面：扁平、黒石
35		硯石		III	溝	頁岩	(4.35)	4.38	0.81	(20.6)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形、硯面 4、仕上硯
36	3	硯		III	北東集石列	頁岩か	(10.60)	8.00	1.42	(208.4)	1/4 欠	平面：長方形か、断面：長方形、陸部の一部に黒付着、溝状研磨痕（切り折りの跡か）
119		硯石		III	柱 306	頁岩	(4.75)	3.12	(0.92)	18.5	長軸に欠損	平面：長方形、断面：長方形、硯面 2、小仕整形、仕上硯
122		硯石		III	柱 301	安山岩	9.63	2.29	2.20	66.7	完形	直方体、硯面 4、円筒状に内湾する硯面 1(幅 2.60cm、深さ 0.75cm)、中硯、ノミ痕あり、木製の硯石台（2 分割：木製品隔番号 320）の溝中に設置された状態で出土
37		碁石		III	土 345	チャート	2.16	2.05	0.87	5.5	完形	平面：円形、断面：楕円形、黒石
39		硯石		III	土 416	粘板岩	(6.59)	2.09	(0.84)	(18.9)	1/3 欠	平面：隅丸長方形か、断面：長方形、硯面 2、中硯
40		硯石か		III	土 425	頁岩	7.92	4.60	2.19	96.8	完形	平面：不整長方形か、断面：長方形、硯面 1、中硯
41		碁石		III	土 425	粘板岩	2.35	2.28	0.59	4.7	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形、黒石
42		碁石		III	土 425	粘板岩	2.05	1.94	0.37	2.4	完形	平面：不整円形、断面：扁平、黒石
43		硯石		III	土 427	頁岩	10.31	7.78	3.59	316.0	完形	平面：不整方形、断面：不整長方形、硯面 1、中硯、線条研磨痕あり、ID11 と同一か
44		硯石		III	土 430	頁岩	(6.10)	3.84	(0.86)	(23.6)	2/3 欠	平面：長方形か、硯面 2、仕上硯
45		硯石か		III	土 430	砂岩	11.26	5.60	3.87	237.4	完形	割石だが不整形、硯面 2、中硯
46		硯石 or 板		III	土坑	粘板岩	6.84	4.85	0.72	24.3	完形	研磨面 1
47		円盤状製品		III	土坑	安山岩	4.18	4.02	0.80	20.7	完形	平面：円形、断面：長方形、全体を研磨
48		碁石		III	P334	砂岩	2.03	1.81	0.62	3.3	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形、黒石
49		硯石		III	検出面	砂岩	10.96	3.54	2.87	193.0	完形	直方体、硯面 4、中硯
50	17	硯石		III	検出面	安山岩	12.24	4.57	3.03	275.6	完形	直方体、硯面 1、未使用の整形面 5、中硯、タシ目あり
51		硯		III	検出面	粘板岩	(6.31)	5.74	(0.75)	(42.1)	1/2 欠	平面：隅丸長方形か、断面：長方形
52		硯石		III	検出面	砂岩	12.29	3.15	3.65	259.6	完形	平面：不整長方形、断面：方形、硯面 1、荒硯
53		不明石製品		III	検出面	砂岩	(6.79)		(13.34)	(1411.0)	3/4 欠	平面：円形か、外面・内面に工具（ノミ）痕
54		硯石		III	検出面	安山岩	(7.14)	3.97	2.72	(171.6)	1/2 欠	直方体か、硯面 5、中硯、線条研磨痕あり
55		硯石		III	検出面	頁岩	(7.58)	4.19	1.24	(57.7)	1/2 欠	断面：長方形、硯面 3、仕上硯
56		火打石		III	検出面	チャート	5.41	3.62	2.19	40.8	完形	4 側縁使用
58		(円盤状製品)		III	検出面	安山岩か	2.27	2.15	0.71	4.9	完形	平面：不整円形、断面：隅丸長方形、平面中央に穿孔（φ 0.41cm・両面穿孔）
59	21	錘型		III	検出面	不明	8.37	4.21	2.05	140.6	完形	竿引きか水打金の錘型か
60	5	硯		III	検出面	凝灰岩 or 粘板岩	(7.96)	6.07	1.98	(189.7)	1/3 欠	平面：長方形か、断面：長方形
61	6	硯		III	検出面	粘板岩	(6.66)	6.72	(1.37)	(118.5)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形、陸部の一部に黒付着
62	18	硯石		III	検出面	頁岩	8.72	5.51	(1.03)	(88.0)	1/3 欠	平面：長方形、断面：長方形か、硯面 4、仕上硯、割れ部分を漆で張り合わせ補修か
63		碁石		III	検出面	粘板岩	2.23	2.18	0.45	3.7	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形、黒石
64		石臼		III	検出面	安山岩	31.58		10.55	(8303.0)	1/3 欠	粉挽き臼の下臼、溝 6 分画、ID100 と上下組みの可能性
65		(円盤状製品)		III	検出面	砂岩	2.82	2.80	0.79	9.6	完形	平面：円形、断面：長方形
66		碁石		III	検出面	粘板岩	1.99	1.78	0.29	1.6	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石

ID	実測No.	器種	区	検出面	遺構	石材	長/口径(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
67		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.45	1.82	0.49	3.3	完形	平面：楕円形、断面：扁平、黒石
68		礫石		Ⅲ	検出面	砂岩	23.86	5.23	2.56	560.0	完形	平面：扁平な楕円形、断面：隅丸台形、礫面1、被熱
69		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	1.85	1.70	0.51	2.4	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
70		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.45	1.69	0.47	3.2	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平な楕円形、黒石
71		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.16	1.94	0.66	4.0	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
72		碁石		Ⅲ	検出面	頁岩	2.42	2.32	0.57	4.6	完形	平面：不整円形、断面：扁平、白石
73		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.25	2.18	0.56	4.4	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
74		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.39	1.92	0.41	3.0	完形	平面：楕円形、断面：扁平、黒石
75		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	1.94	1.87	0.52	2.7	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
77	7	硯		Ⅲ	検出面	粘板岩	12.44	6.57	(1.31)	(161.5)	1/4欠	平面：長方形、断面：長方形、部分被熱
78	8	硯		Ⅲ	検出面	泥岩	(7.85)	5.96	(1.44)	(75.1)	1/2欠	平面：長方形か、断面：長方形
79	19	礫石		Ⅲ	検出面	凝灰岩	(10.01)	4.78	2.96	(219.4)	1/3欠	平面：長方形か、断面：長方形、礫面4、中礫
80		礫石		Ⅲ	検出面	頁岩	(4.99)	(3.94)	(1.01)	(14.6)	3/4以上欠	礫面1、仕上礫
81		礫石		Ⅲ	検出面	頁岩	14.71	5.44	(1.31)	(148.9)	2/3欠	平面：長方形か、礫面1、中礫
82		礫石		Ⅲ	検出面	頁岩	10.82	(4.05)	(1.02)	(43.7)	2/3欠	礫面2、うち一つは割れたのちに使用した面か、中礫
83		礫石		Ⅲ	検出面	頁岩	(6.50)	(3.07)	(0.66)	(15.7)	3/4以上欠	礫面1、中礫
84		礫石		Ⅲ	検出面	砂岩	8.21	2.07	1.62	44.1	完形	直方体、礫面4、中礫、線条研磨痕あり、手持ち礫石か
85	20	礫石		Ⅲ	検出面	頁岩	13.45	4.44	2.93	(277.5)	1/4以上欠	直方体、礫面6、仕上礫、線条研磨痕あり
86		礫石		Ⅲ	検出面	頁岩	14.46	4.34	1.70	207.8	完形	直方体、礫面3、荒礫
87		碁石		Ⅲ	検出面	チャート	2.26	1.79	0.64	4.1	完形	平面：楕円形、断面：扁平な楕円形、黒石
88		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.34	2.18	0.68	5.3	完形	平面：不整円形、断面：不整楕円形、黒石
89		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.15	2.15	0.53	3.7	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形、黒石
103		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.21	1.96	0.69	4.5	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
104		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.03	1.96	0.64	3.8	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
105		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.74	2.09	0.50	4.4	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平、黒石
106		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.37	2.24	0.55	4.6	完形	平面：不整円形、断面：扁平、黒石
107		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.38	1.71	0.39	2.6	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平、黒石
108		碁石		Ⅲ	検出面	粘板岩	2.24	1.48	0.43	2.2	完形	平面：楕円形、断面：扁平、黒石
112		(不明石製品)		Ⅲ	検出面	粘板岩	3.87	2.90	0.62	11.3	完形	平面：楕円形、断面：扁平、碁石黒石のような質感・加工
113		火打石		Ⅲ	検出面	チャート	4.20	3.36	1.34	15.6	完形	1側縁使用
120	10	硯		Ⅲ	検出面	粘板岩	(10.61)	3.01	1.05	54.2	海部欠損	平面：長方形、断面：長方形、小形、側面に帯のようなものを使なされている。
57	4	硯		Ⅲ	掘土	粘板岩	12.35	4.76	1.48	(133.6)	1/4以下欠	平面：長方形、断面：長方形、被熱、裏面に刻字「中坂千硯」
90		碁石か		Ⅳ	溝 504	ホルンフェルス	2.63	1.93	0.49	3.8	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平、自然石の可能性
91		碁石か		Ⅳ	溝 504	砂岩	2.34	1.80	0.54	3.2	完形	平面：不整楕円形、断面：扁平、自然石の可能性
92		礫石か		Ⅳ	溝 504	砂岩	4.01	2.70	0.55	(12.8)	1/4以下欠	平面：長方形、断面：長方形、礫面2、中礫、手持ち礫石
93		碁石		Ⅳ	土 522	粘板岩	1.92	(1.72)	0.28	(1.6)	1/4以下欠	平面：円形、断面：扁平、黒石
95	9	硯		Ⅳ	土 542	粘板岩	(8.26)	4.18	(0.40)	(51.1)	1/2欠	平面：長方形か、断面：長方形か
96		台石か		Ⅳ	土 545	砂岩	15.27	11.67	3.84	1081.0	完形	平面：不整方形、断面：長方形、1面被熱
97		石炭単		Ⅳ	土 506	炭酸カルシウム	10.43	6.83	5.38	286.9	完形	多孔質、白骨産
98		硯か		Ⅳ	土坑	千枚岩	6.31	3.09	0.28	5.4	完形	整形面1、海部の一部か
99		石臼		Ⅳ	P624	安山岩	(24.04)	(14.89)	(13.68)	(4469.0)	2/3欠	粉挽き臼の下臼、溝6分画か、推定径31.20cm
100		石臼		Ⅳ	集石列 501	安山岩	(25.84)	(13.46)	9.91	(2644.0)	2/3欠	粉挽き臼の上臼、挽き木打込孔上面1、推定径33.00cm
101		礫石		Ⅳ	検出面	砂岩	9.11	7.83	1.40	159.9	完形	平面：不整円形、断面：板状、礫面2、中礫、側面1方所に切り欠き様の加工
102		碁石		Ⅳ	検出面	粘板岩	2.37	2.03	0.61	4.2	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、黒石
109	11	硯		-	掘土	粘板岩	13.47	6.76	2.17	334.0	完形	平面：長方形、断面：長方形、陸部に隆み状の使用痕（長6.63cm・幅3.82cm・深0.26cm）
110		碁石		-	掘土	粘板岩	2.19	2.19	0.35	3.3	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石
111	12	硯		-	掘土	粘板岩	11.94	6.23	1.82	(270.6)	1/4以下欠	平面：長方形、断面：長方形、全面黒色の塗料塗布、裏面に「甲州南堀」の刻字あり
大石町3												
1		礫石		Ⅰ	溝4	頁岩	(4.05)	(2.81)	(0.53)	(5.3)	3/4以上欠	礫面1、仕上礫
2		礫石		Ⅰ	溝9	頁岩	(8.25)	6.99	2.60	(277.3)	1/2欠	直方体か、礫面4、仕上礫、線条研磨痕あり
3		石臼		Ⅰ	溝15	安山岩	(9.02)	(3.27)	(4.31)	(134.4)	3/4以上欠	茶臼の下臼受け痕跡
4		礫石		Ⅰ	土22	頁岩	6.21	5.61	1.91	108.3	完形	平面：不整方形、断面：長方形、礫面3、未使用の整形面4、仕上礫
5		碁石		Ⅰ	土70	砂岩	2.35	1.99	0.64	4.1	完形	平面：楕円形、断面：扁平、白石か
6		石筆		Ⅰ	土86	滑石か	(2.79)	0.64	0.63	(1.5g)	1/2欠	棒状、先端部0.99mは擦状（痕跡状）、断面：円形
7	25	温石か		Ⅰ	焼土35	粘板岩	7.02	(4.11)	(0.71)	(38.0)	3/4以上欠	穿孔1方所（推定φ0.71cm）、被熱
8		石板		Ⅰ	焼土16	黒曜石	2.19	1.29	1.06	2.5	完形	剥離面1
9		碁石		Ⅰ	焼土16	粘板岩	2.13	2.11	0.49	3.3	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石
10		碁石		Ⅰ	焼土16	頁岩	(2.12)	(2.05)	(0.39)	(1.9)	1/2欠	平面：円形か、黒石か
11		火打石		Ⅰ	焼土16	石英	5.31	3.07	1.97	32.7	完形	3側縁使用か
12		礫石か		Ⅰ	炉土3	粘板岩	(3.89)	(2.86)	(0.46)	(7.2)	3/4以上欠	整形面1、礫石または硯の一部か
13		碁石		Ⅰ	検出面	安山岩	15.48	11.96	6.58	1561.0	完形	平面：楕円形、断面：楕円形、凹み1面（長2.41cm・幅1.61cm・深さ0.68cm）
14		石板		Ⅰ	検出面	黒曜石	3.59	2.56	2.21	17.2	完形	剥離面2
15	23	硯		Ⅰ	炉跡	粘板岩	(7.68)	7.53	2.27	(221.2)	1/2欠	平面：長方形か、断面：長方形、裏面に刻字「キアキコ」「ササキ」
16		火打石		Ⅰ	検出面	チャート	2.30	2.23	1.85	11.2	完形	使用部なし
17		石臼		Ⅱ	溝2	安山岩	(27.33)		10.67	5600.0	1/2欠	粉挽き臼の上臼、溝6分画か、破断面に輪孔・挽き木打込孔上面1・側面1残存
18		石筆		Ⅱ	溝3	滑石か	3.48	0.55	0.53	2.1	完形	棒状、断面：楕円形
19		礫石		Ⅱ	溝18	頁岩	(2.04)	(1.64)	(0.45)	(1.2)	3/4以上欠	礫面1、仕上礫
20		礫石		Ⅱ	溝23	安山岩	(4.63)	2.90	2.01	(50.1)	2/3欠	直方体か、礫面4、中礫
21		礫石		Ⅱ	溝31	頁岩	14.06	6.81	5.53	1104.0	完形	直方体、礫面4、中礫
22		碁石		Ⅱ	土53	グリーンタフ	13.36	11.39	5.58	1161.0	完形	平面：楕円形、断面：楕円形、凹み1面（φ4.11cm・深さ0.68cm）

ID	実測No.	器種	区	検出面	遺構	石材	長／口径 [cm]	幅 [cm]	厚 [cm]	重量 [g]	破損状況	備考
23		碁石		Ⅱ	土69	頁岩	2.44	2.03	0.70	4.8	完形	平面：楕円形、断面：不整楕円形、白石か
24		碁石		Ⅱ	土89	粘板岩	2.27	1.95	0.54	3.9	完形	平面：楕円形、断面：扁平な楕円形、黒石
25		碁石か		Ⅱ	土123	砂岩	2.38	2.28	0.61	5.0	完形	平面：円形、断面：長方形、白石か
26		碁石		Ⅱ	土123	粘板岩	2.20	2.19	0.51	3.7	完形	平面：円形、断面：樽状形、黒石
27	26	紡石		Ⅱ	土123	頁岩	16.42	5.50	4.25	820.0	完形	直方体、紡面4、未使用の整形面2、中紡、クシ目あり、紡沢産紡石
28		火打石		Ⅱ	土123	石英	3.66	2.91	2.43	32.8	完形	3側縁使用
29		火打石か		Ⅱ	土123	石英	2.43	1.95	1.31	8.1	完形	使用部なし
30		硯		Ⅱ	土123	粘板岩	(15.56)	7.73	2.36	(366.0)	1/4 欠	平面：長方形、断面：長方形、側面・裏面に墨様の塗料塗布か、2片に分離
31	27	紡石		Ⅱ	土123	安山岩	(11.07)	2.63	2.48	(132.8)	1/4 以下欠	直方体、紡面4、中紡
32	28	紡石		Ⅱ	土123	安山岩	14.03	4.09	2.92	242.7	完形	棍ね直方体、紡面4、中紡
33		紡石		Ⅱ	土123	安山岩	(6.54)	3.41	1.65	(72.6)	1/2 欠	直方体、紡面3、中紡、線条研磨痕あり
34		火打石		Ⅱ	土123	石英	4.71	2.69	2.04	35.9	完形	2側縁使用か
35		火打石		Ⅱ	土123	石英	2.88	2.32	1.67	14.4	完形	2側縁使用か
36		不明石製品		Ⅱ	土123	粘板岩	(7.54)	(4.15)	(3.77)	(141.4)	3/4 以上欠	整形面1
37		石臼		Ⅱ	土123	安山岩	(33.56)		16.11	(25,211)	1/2 欠	粉挽き臼の上臼、溝5分画、推定径35.00cm、軸孔（φ3.79cm、両面穿孔）
38		石臼		Ⅱ	土123	安山岩	(31.96)	(29.98)	13.68	20200	1/4 以下欠	粉挽き臼の上臼、溝5分画、推定径33.30cm、軸孔（φ2.57cm、深さ3.02cm）、挽き木打込孔上面1・側面1
39	29	紡石		Ⅱ	土123	砂岩	(11.56)	4.07	3.89	309.0	1/4 欠	直方体、紡面4、荒紡
40		凹石		Ⅱ	土123	安山岩	12.67	11.99	8.13	1447.0	完形	平面：円形、断面：楕円形、凹み1面（φ4.86cm・深さ1.83cm）
41		石筆		Ⅱ	土123	滑石か	2.47	0.64	0.54	1.7	完形	棒状、断面：楕円形
42		火打石		Ⅱ	土123	チャート	5.28	3.55	1.64	26.3	完形	3側縁使用
43		硯		Ⅱ	土131	粘板岩	(6.05)	6.25	(1.75)	(91.9)	2/3 欠	平面：長方形か、海部の一部に墨付着、裏面に削り込んだ痕跡あり
44		不明石製品		Ⅱ	土143	砂岩	(25.18)	-	24.60	(17,813)	1/3 欠	円筒形、内面被熱、底面付近に方形の窪孔
45	30	紡石		Ⅱ	土143	頁岩	5.52	5.23	1.39	63.4	完形	平面：方形、断面：長方形、紡面6、仕上紡、線条研磨痕あり、工具で端部を円柱状に切り離そうとした痕跡あり
46		紡石		Ⅱ	土143	頁岩	(8.10)	(2.95)	(1.53)	(29.5)	3/4 以上欠	紡面1（欠かに残存）、紡石の一部か
47		石庇か		Ⅱ	土143	安山岩	14.40	7.14	7.99	1102.0	完形	側面加工、底面摩耗
48		紡石		Ⅱ	土143	安山岩	5.22	3.12	2.02	51.5	完形	棍ね直方体、紡面4、中紡、線条研磨痕あり、工具で切断した痕跡あり
49		硯		Ⅱ	土143	粘板岩	(4.81)	7.61	2.57	(135.6)	3/4 欠	平面：長方形か、工具で切断した痕跡あり、4片に分離
50		硯か		Ⅱ	土143	粘板岩	(4.90)	5.05	(1.25)	(35.9)	3/4 以上欠	側面の縁から硯の一部と推定
51		凹石		Ⅱ	土161	安山岩	12.36	10.71	8.78	1346.0	完形	平面：楕円形、断面：楕円形、凹み2面（φ4.35cm・深さ1.42cm / φ3.03cm・深さ0.39cm）
52		凹石		Ⅱ	土169	安山岩	6.22	4.84	2.57	92.8	完形	平面：楕円形、断面：楕円形、凹み1面（φ2.88cm・深さ0.74cm）、磨面1
53		紡石		Ⅱ	土173・175	頁岩	(5.50)	(3.09)	(0.46)	(7.9)	3/4 以上欠	紡面1、未使用の整形面2、仕上紡、線条研磨痕あり
54		紡石		Ⅱ	土195	頁岩	(3.31)	3.83	(0.88)	(13.7)	3/4 欠	平面：長方形か、紡面2、未使用の整形面3、仕上紡
55		火打石		Ⅱ	土196	チャート	4.35	3.20	1.25	18.2	完形	2側縁使用か
56		紡石		Ⅱ	土201	頁岩	(6.81)	(4.07)	(1.02)	(38.7)	3/4 欠	平面：長方形か、紡面2、仕上紡
57		紡石		Ⅱ	土202	頁岩	3.29	2.46	0.29	4.9	完形	平面：長方形、断面：板状、紡面1、中紡、手持ち紡石
58		碁石		Ⅱ	検出面	粘板岩	2.20	2.18	0.34	2.9	完形	平面：円形、断面：扁平、黒石
59		碁石か		Ⅱ	検出面	砂岩	1.86	1.76	0.59	1.8	完形	平面：円形、断面：樽状形、被熱著しい
60		紡石		Ⅱ	検出面	頁岩	(3.09)	3.14	(1.01)	(18.0)	3/4 以上欠	直方体か、紡面3、仕上紡
61		紡石		Ⅱ	検出面	頁岩	(5.36)	(3.28)	(0.61)	(9.4)	3/4 以上欠	紡面1、仕上紡、穿孔1方所か（推定φ1.02cm）
62		石板		Ⅱ	検出面	粘板岩	(7.01)	(2.75)	0.37	(9.2)	3/4 以上欠	両面研磨、側面に成型時の工具痕
63		碁石		Ⅱ	検出面	粘板岩	2.19	2.17	0.39	3.5	完形	平面：円形、断面：隅丸長方形、黒石
64		凹石		Ⅱ	検出面	安山岩	9.35	8.63	4.48	437.0	完形	平面：円形、断面：楕円形、凹み2面（φ5.04cm・深さ1.71cm / φ3.79cm・深さ0.74cm）
65		石臼		Ⅱ	検出面	安山岩	(11.29)		6.67	(1700.0)	2/3 欠	粉挽き臼の上臼、溝8分画か、穀物投入孔（φ推定2.88cm）
66	24	硯		Ⅱ	北壁	粘板岩	12.14	7.64	2.00	(338.0)	1/4 以下欠	平面：長方形、断面：長方形、海部に墨付着
67		紡石		Ⅲ	土48	凝灰岩か	(3.46)	2.78	1.26	(19.2)	2/3 欠	直方体か、紡面4、中紡
68		火打石か		Ⅲ	土48	チャート	7.13	4.13	3.27	136.6	完形	使用部なし
69		凹石		Ⅲか	土51tr	安山岩	8.42	7.17	5.26	390.0	完形	平面：楕円形、断面：楕円形、凹み1面（φ2.94cm・深さ0.33cm）
70		石臼		Ⅲ	土65	安山岩	(25.88)		11.19	(3638.0)	2/3 欠	粉挽き臼の下臼、溝6分画か、軸孔（φ推定2.78cm、両面穿孔）
71		石臼		Ⅲ	土65	安山岩	(16.54)		(6.43)	(1002.0)	3/4 以上欠	粉挽き臼の下臼
72		石炭塊		Ⅲ	土98	炭酸カルシウム	10.98	7.95	6.89	252.2	完形	多孔質、白骨産
73		紡石		Ⅲ	土180	頁岩	(2.56)	(2.07)	(0.65)	(3.2)	3/4 以上欠	紡面1、仕上紡
74		紡石		Ⅲ	検出面	頁岩	2.35	2.04	0.52	(4.2)	1/4 以下欠	平面：方形、断面：長方形、紡面4、仕上紡、手持ち紡石
75		硯		Ⅲ	検出面	粘板岩	14.07	(3.81)	(1.74)	(92.2)	3/4 欠	平面：長方形か、紡石に転用した可能性
76		石板		Ⅲ	検出面	粘板岩	(9.26)	(5.29)	0.32	23.8	2/3 欠	両面研磨
77		紡石			東側面壁	頁岩	(7.85)	7.45	1.89	(174.7)	1/3 欠	平面：棍ね楕円形か、断面：扁平な楕円形、紡面2、荒紡
78		不明石製品			東側面壁	砂岩	(11.14)	(8.91)	(3.39)	(439.0)	1/3 欠	磨面1か、被熱

※（ ）内数値は、現存値を表す。

土居尻1

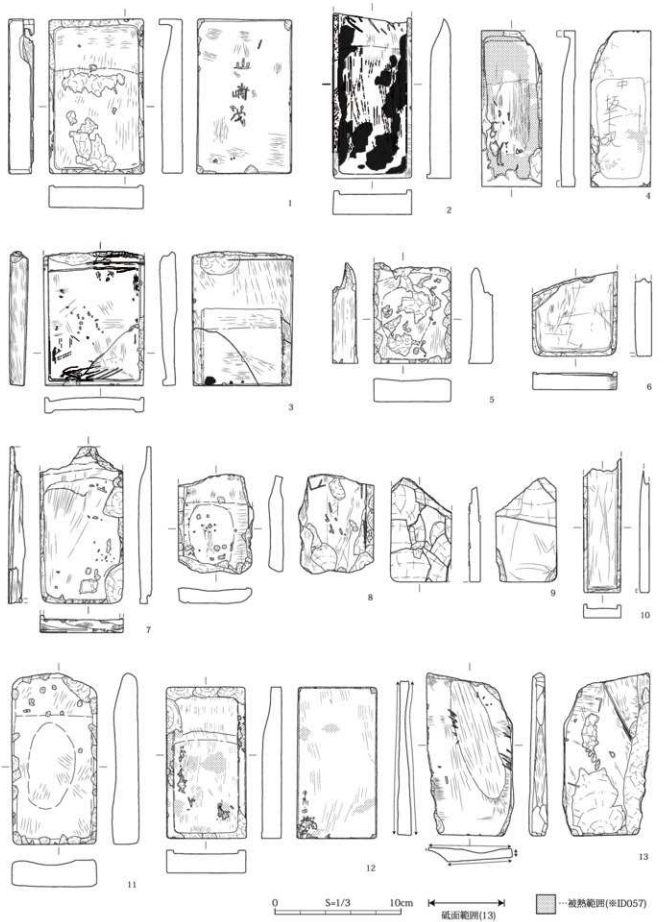


図 116　石製品　(1)

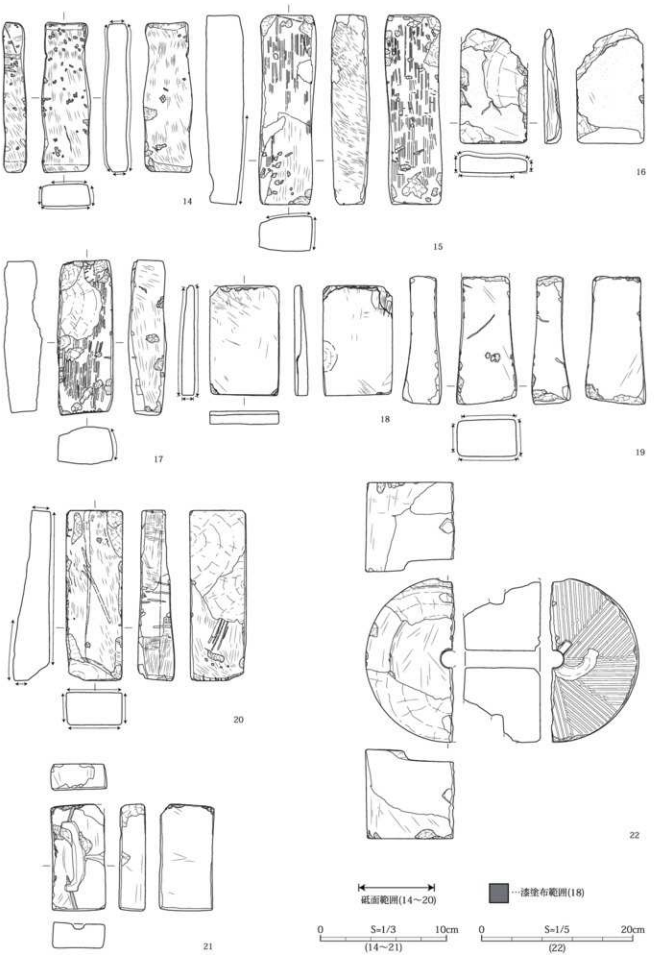

14
15
16
17
18
19
20
21
22
砥面範囲(14～20)
…漆塗布範囲(18)
0
S=1/3
10cm
(14～21)
0
S=1/5
20cm
(22)

図 117　石製品 (2)

大名町3

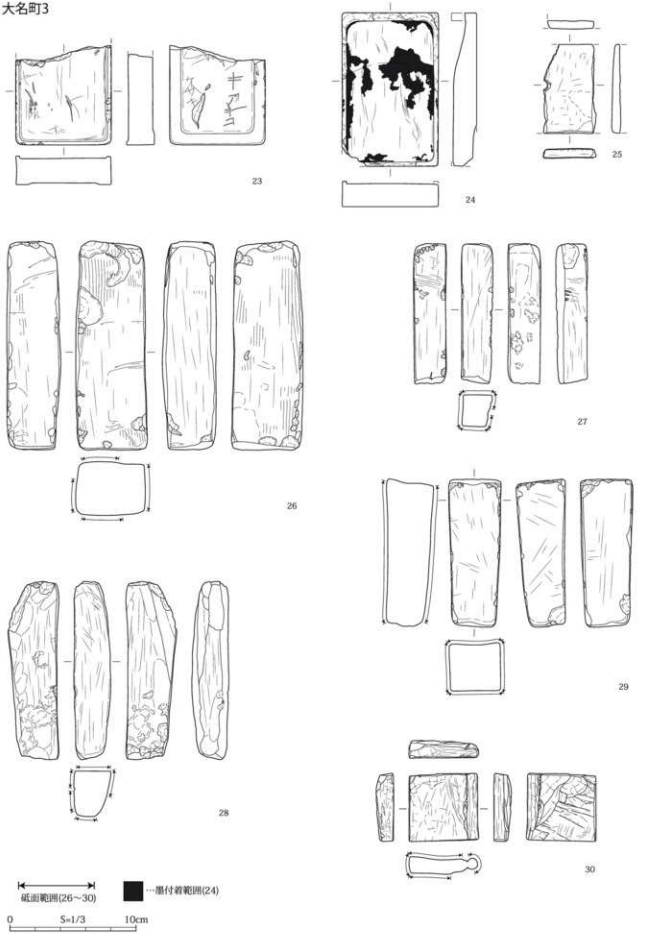


図 118　石製品　(3)

第６節　金属製品（表 12、図 119 ～ 121、写真図版 22・23）

土居尻１・大名町３で出土した遺物の材質別内訳は、鉄製品 445、銅製品 169、鉛製品２である。他に、鉄滓 299.1 g、銅滓 20.7g、不明滓が出土している。分類・器種別にみると、工具（奴床、鋏）4、農耕土木具（鍬、鎌、十能）4、武器・武具・馬具（小柄・鐔・切羽・縁、鉛玉、馬蹄、轡）21、服飾具（簪）13、容器（皿、蓋）9、調理加工具（杓子、包丁、五徳、鍋）8、食事具（匙）3、調度（飾り金具）1、祭祀具（花立）1、日用品（煙管、耳掻き、毛抜き、火箸、裁縫鏝、鈴、指貫、吊金具）106、建築部材（釘・鎹）259、その他・用途不明品 303、銭貨 171 の総数 903 点である。このうち遺存状態の良好な遺物 76 点の実測図・拓本を掲載し、器種別に詳細を述べる。遺物の記載にあたっては図番号を使用している。なお、遺物の形状等については X 線撮影を行っていないため、目視による現状を記載している。

1　工具

奴床（1）　X 字型の挟み（掴み）具である。片方の刃を欠損し、鋲周辺は錆びて動かない。

鋏（2）　腰を U 字型に曲げて、刃先が交差するようにした和鋏である。握り部は長く、断面は長方形だが、刃部に向かって薄くなる。

2　農耕土木具

鍬（3）　直柄の鉄製鍬身で、柄角は 60 度程度である。土を起こすための唐鍬と思われ、刃は肉厚で重量感があり、刃先は使用によりやや潰れる。

鎌（4・5）　いずれも、峰・刃部が緩やかに湾曲する半月状の曲刃鎌である。茎の先端には返しが付く。5 は小型で、木柄を固定するための輪があり、内部に木質部が残存する。

十能（6）　囲炉裏や炬燵などの灰の移動・掻き出しに使う。非常に薄い 1 枚の金属板を加工しており、背面には部分的に金鍍金が残る。

3　武器・武具・馬具

刀装具（7 ～ 16）　7・8 は刀子である。7 は錆化が著しく原形を損なう。9 ～ 12 は小柄の柄である。9 は中央に「丸に二ツ引」の紋が配され、11 は六郷亀甲繋ぎ、12 は麻の葉繋ぎに唐草文様をあしらう。10 は無文だが、刃物痕が複数条同一方向に流れる。13 は鐔、14 は縁金物、15・16 は切羽である。15 は外周が鋸歯状である。

馬具（17・18）　17 は轡の銜である。2 本の針金状の鉄を曲げて対にし、銜環は C 字状を呈する。18 は馬蹄である。3 × 4㎜程の方形の釘孔に角釘が 6 本挿入される。蹄先端側は蹄に巻き込むように立ち上がる。

4　服飾具

簪（19 ～ 22）　いずれも先が 2 本に別れる松葉簪で、かつ 20・21・22 は先端に耳かきの付く耳掻簪である。19・20・22 には金鍍金が施される。20・22 は、耳掻き部との境に二段の切り替えしがみられる。21 の先は銅板を切り裂くように二股にしており、断面は方形である。耳掻き部の柄は他と比べて細い。表面に彫金で梅の意匠が施される。

5　容器

皿（23）　高台見付に「□光□□」の四字がみられるが、文字は錆化によって判然としない。

蓋（24 ～ 26）　24 は鋳物の蓋である。甲頂部は平坦で、甲部・端部に窪みをもつ。口唇部には身を受けるための沈線を巡らす。甲部中央には摘みがあったと思われる。25 は金鍍金が施される蓋で、甲部中央に摘みが取り付けられる。受部は内傾する。受部径 3.7cm、摘み径 0.9cm、摘み付け根径 1.8cm である。26 は球状の摘みの付く蓋で、摘みの付け根には補強帯と花形の座金を咬ます。円筒状の容器の蓋か。

6　調理加工具

杓子（27）　横柄の杓子である。柄の断面は長方形で、腕部と別に製造した後、溶着する。腕部の底は非常に薄く、錆化による劣化が著しい。全体に金鍍金を施す。

五徳（28）　環の内側５か所に爪が付属していたと思われるが、一部を欠損する。脚はない。環の径は15.7cm 程である。

7　食事具

匙（29）　椀部が雫形で浅く、少量を掬うためのものである。柄は直線的で、竹の節の意匠を施す。

8　調度

飾り金具（30）　二つの材を留めるための留め具で、金属板をＬ字状に曲げている。花咲状に縁取り、径3.5 ～ 6.0㎜の鋲孔が３か所穿たれる。

9　日用品

煙管（31 ～ 46）　いずれも雁首と吸口を別に製造する羅宇煙管で、31 ～ 39 は雁首、40 ～ 46 は吸口である。この内、31・33・35 ～ 40・42・45・46 は金鍍金が残存する。31 は脂反しが大きく湾曲する河骨形で、羅宇との接続部分が一段太く巻かれた肩付である。脂返しと肩の境には２条の溝がみられる。火皿と首部の接合部には補強帯が巻かれる。火皿や首部の銅板は厚みがあり、火皿は厚いところで 2㎜程度ある。32 も肩付の河骨形で、脂返しの径が細い。火皿には径 2.0㎜の火皿冠が穿たれる。33 は河骨形で、脂返しの径が細い。火皿には径 1.5 ～ 3.5㎜の火皿冠が穿たれる。火皿と首部の接合部、銅板の合目には蠟付した痕がみられる。34 は河骨形で、首部は長い。火皿は他遺物と比較するとやや平形である。35 は河骨形で、脂返しの湾曲が小さくなる。37・38 は首部が短く、脂返しの湾曲が殆どない。39 も脂返しの湾曲は殆どない。火皿は小さく、逆台形を呈する。35・38・39 は首の上部に凹みがみられる。恐らく、灰を捨てる際に灰落としに打ち付けたためと考えられる。44・45 は肩付の吸口である。44・45 は線刻で同一の文様を施す。46 は銅板が厚く、堅牢である。

裁縫鋏（47）　着物などの皺をのばす道具である。柄断面は方形で、上方に反る。

耳掻き（48・49）　いずれも全体に金鍍金を施し、掻取り部は丸く箆状である。48 は握り部が平坦で、表面に線刻が施される。49 は握り部先端が先細りで、掻取り部は小さい。

毛抜き（50・51）　いずれも腰をＵ字型に曲げたものである。刃は先端に向けて広がるが、錆化により片方の刃先を欠損する。50 は薄く伸ばした鉄板でつくられるが、51 は厚く丈夫である。

火箸（52・53）　52 は持ち手断面が方形、先端部断面が円形である。頭部には頂点がやや潰れた方錐状の飾りがある。53 は円形の断面をもち、頭部・持ち手に４か所のくびれがある。先端を欠損する。頭頂部には三角形の線刻がみられる。

10　文房具

水滴（54）　極少量の水を注ぐための水滴で、アーモンド型を呈する。注ぎ口を僅かに欠損する。

11　建築部材

角釘（55・56）　いずれも断面が方形の和釘で、叩き延ばした頭部を巻いて成形する巻頭釘か。巻き込んだ箇所の大半を失う。

12　用途不明品

不明品（57 ～ 61）　57 は鉄鍋の把手か。鍋との接合部断面は凸状を呈しており、鍋に穿たれた孔に嵌め込まれたと考えられる。全体に編み込んだ縄の意匠を施す。59 は、方形の銅板を円錐状に巻いたものである。液体または粉体を移すための漏斗か。60 は仏具のお鈴に似る。61 は鋤様の道具だが、用途は不明である。

13　銭貨（62 ～ 76）

開元通宝 2、宋通元宝 1、祥符元宝 1、皇宋通宝 3、治平元宝 1、元豊通宝 4、元祐通宝 5、紹聖元宝 1、元符通宝 1、大観通宝 1、政和通宝 3、開禧通宝 1、至大通宝 1、洪武通宝 1、永楽通宝 5、寛永通宝 113、文久永宝 5、近現代銭 17、不明銭 5 点が出土している。この内、15 点の拓本を掲載した。62 ～ 71 は渡来銭で、64 ～ 68 の銭文は篆書である。72 は古寛永銭、72・73 は新寛永銭で、72 は裏元、73 は四文銭裏十一波である。75・76 は文久永宝裏十一波で、76 の銭文は草書である。

表 12　金属製品観察表

	図No.	ID	検出面	遺構	出土地点	器種	縦大径 (mm)	横大幅 (mm)	縦大厚 (mm)	重量 (g)	金属種別	備考
土坑 No.1 次	35	7	I	検出面	№ 69	薬莢	51.0	15.2	7.6	6.1	Cu	金製金
	61	14	I	壁 1	東部	不明品	246.0	41.9	21.8	473.0	Fe	
	18	45	I	壁 2	北	馬銜	110.6	103.9	6.6	144.5	Fe	
	17	46	I	壁 2	北	衝	107.9	88.8	11.4	22.4	Fe	
	9	75	I	土 16	-	小柄	98.6	15.7	7.3	20.3	Fe	
	52	7	II	検出面	№ 93	火著	250.0	4.6	4.6	29.4	不明	
	32	8	II	検出面	№ 94	薬莢	52.2	14.4	30.1	5.1	Cu	
	21	14	II	検出面	№ 106	鞭	178.0	3.5	1.4	4.9	Cu	
	44	20	II	検出面	№ 130	鳴り	78.7	13.6	8.5	4.0	不明	
	10	32	II	検出面	№ 184	小柄	93.8	12.6	4.0	13.7	Cu	
	48	34	II	検出面	№ 193	目抜き	118.0	5.8	1.3	5.0	Cu	金製金
	6	41	II	井戸 8	-	十能	216.0	69.8	6.1	22.2	不明	金製金
	2	96	II	検出面	-	鋲	144.6	21.6	5.1	16.8	Fe	
	47	117	II	検出面	-	鞍鐙	250.0	43.5	24.7	266.0	不明	
	23	1	III	検出面	№ 15	鈴	117.3	100.6	19.8	66.5	Cu	
	60	3	III	検出面	№ 16	お鈴か	44.0	23.3	2.4	17.8	Cu	
	54	4	III	検出面	№ 21	水滴	41.8	24.3	8.9	9.9	不明	
	11	6	III	検出面	№ 47	小柄	96.1	14.7	4.3	8.1	不明	
	55	8	III	検出面	№ 202	角釘	166.0	13.7	8.5	20.9	Fe	
	1	11	III	検出面	№ 214	短剣	150.7	25.0	11.0	56.2	Fe	
	46	16	III	検出面	№ 266	鳴り	73.7	11.7	11.6	10.1	Cu	金製金
	38	24	III	検出面	№ 319	薬莢	34.5	13.3	13.3	5.1	不明	金製金
	27	28	III	検出面	№ 339	粋子	261.0	66.5	1.4	30.9	Cu	金製金
	4	29	III	検出面	№ 341	鐔	180.0	35.7	5.0	92.4	Fe	
	22	31	III	検出面	№ 363	鞭	150.1	7.0	1.4	6.6	Cu	金製金
	12	32	III	検出面	№ 380	小柄	88.2	16.9	3.6	12.0	Cu	
	58	45	III	溝 301	№ 532	不明品	149.0	5.4	2.9	8.6	不明	
	45	48	III	土 368	№ 538	鳴り	68.1	7.7	7.7	3.3	不明	金製金
	5	51	III	土 368	№ 599	鐔	87.0	24.5	24.0	28.3	Fe	
	8	53	III	土 368	№ 616	刀子	157.5	11.2	2.9	9.7	Fe	
	14	67	III	木柵 301	№ 816	縁金物	38.7	21.0	8.3	10.0	Cu	
	53	112	III	検出面	-	火著	216.0	5.2	4.9	22.5	不明	
	51	1	IV	検出面	№ 963	毛抜き	87.4	23.5	8.7	9.3	Fe	
	15	6	IV	井戸 501	№ 1010	切羽	34.9	19.2	0.5	1.5	Cu	
	62	10	I	-	-	開元通宝	24.2	23.9	1.1	2.6	Cu	621 年
	69	30	II	-	№ 153	開祐通宝	24.7	24.6	1.0	3.3	Cu	1201 年、裏元
	63	58	III	検出面	№ 32	天禧元宝	24.5	24.1	1.0	2.7	Cu	960 年
	67	59	III	検出面	№ 34	元符通宝	25.1	25.0	1.1	3.0	Cu	1098 年、篆書
	66	61	III	検出面	№ 40	紹聖元宝	23.5	23.3	1.1	2.7	Cu	1094 年、篆書
	72	83	III	-	№ 292	寛永通宝	24.3	24.3	1.2	3.7	Cu	1626 ～ 166 年、古寛永銭
	70	94	III	-	№ 442	洪武通宝	22.7	22.7	0.8	1.6	Cu	1368 年
	71	95	III	-	№ 443	永楽通宝	24.3	24.2	1.1	2.4	Cu	1408 年
	65	96	III	-	№ 471	元豊通宝	24.0	24.0	1.1	3.0	Cu	1078 年、篆書
	68	101	III	-	№ 574	政和通宝	24.9	25.2	1.1	3.3	Cu	1111 年、篆書
	64	104	III	-	№ 605	治平元宝	24.2	24.2	1.2	2.6	Cu	1064 年、篆書
大名町 3 次	49	17	I	土 90	植内	耳掻き	12.6	3.5	1.6	4.4	不明	金製金
	41	24	I	溝 11	南	薬莢	51.2	10.3	14.1	8.8	Cu	
	29	25	I	溝 11	南	筒	120.0	23.0	2.0	13.4	不明	
	42	34	I	微地形部	-	鳴り	79.5	10.4	10.2	9.3	Cu	金製金
	20	89	II	土 113	№ 2	鞭	173.0	7.9	1.6	9.0	Cu	金製金
	30	91	II	土 119	-	飾り金具	41.4	37.7	8.1	11.2	Cu	
	24	93	II	土 123	№ 9	蓋	113.3	97.3	10.5	109.7	Fe	
	25	95	II	土 123	№ 12	蓋	52.1	52.1	21.2	48.8	Cu	金製金
	19	99	II	土 123	№ 27	鞭	105.2	4.1	0.8	2.7	Cu	金製金
	26	100	II	土 123	№ 40	蓋	124.5	87.6	29.3	51.7	Cu	
	13	101	II	土 123	№ 41	鐔	28.4	24.8	8.3	19.6	Cu	
	50	102	II	土 123	№ 45	毛抜き	74.0	13.2	10.4	6.1	Fe	
	37	105	II	土 123	-	薬莢	36.9	18.5	16.9	3.6	Cu	金製金
	56	107	II	土 123	-	角釘	117.7	12.5	5.7	11.8	Fe	
	43	113	II	土 123	-	鳴り	35.9	9.6	9.3	2.7	Cu	
	39	146	II	土 123	-	薬莢	55.1	9.1	9.0	2.0	Cu	金製金
	28	164	II	土 143	№ 13	五徳	111.5	30.4	6.7	89.6	Fe	
	40	168	II	土 143	南	鳴り	58.9	8.6	9.6	4.2	Cu	金製金
	16	178	II	土 147	№ 1	切羽	38.9	22.2	-	0.9	Cu	
	3	200	II	溝 31	№ 10	鐔	230.0	75.0	61.0	715.0	Fe	鐔身
	33	227	II	検出面	北	薬莢	48.5	15.4	31.2	5.2	Cu	金製金
	36	235	II	検出面	東	薬莢	55.2	15.2	18.8	5.7	Cu	金製金
	7	243	III	土 65	-	刀子	134.0	11.7	2.5	8.5	Fe	
	59	246	III	土 98	-	不明品	74.0	21.1	15.3	9.7	Cu	漏斗か
	31	248	III	土 127	-	薬莢	64.3	15.7	27.6	9.2	Cu	金製金
	34	269	-	道路	-	薬莢	72.0	15.8	20.2	9.9	Cu	
	57	276	I	地土 15	-	不明品	51.3	44.3	6.1	34.3	Cu か	鐔の把手か
	76	39	I	検出面	№ 2	文久永宝	26.6	26.5	0.8	3.7	Cu	1863 年、裏 11 波、草書
	75	228	II	検出面	西	文久永宝	26.6	26.5	0.6	3.3	Cu	1863 年、裏 11 波
	73	229	II	検出面	西	寛永通宝	22.4	22.4	0.7	2.2	Cu	1668 ～ 1869 年、新寛永銭、裏元
	74	230	II	検出面	西	寛永通宝	27.7	27.7	0.8	4.2	Cu	1698 ～ 1869 年、新寛永銭、裏 11 波

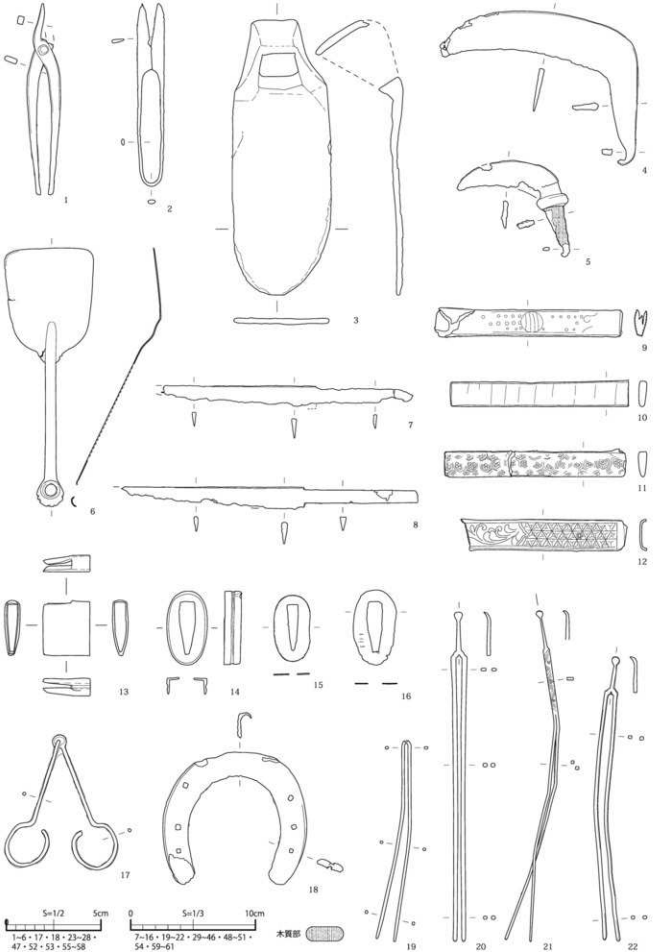

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
S=1/2
5cm
1~6・17・18・23~28・
47・52・53・55~58
0
S=1/3
10cm
7~16・19~22・29~46・48~51・
54・59~61
木質部

図 119　金属製品　(1)

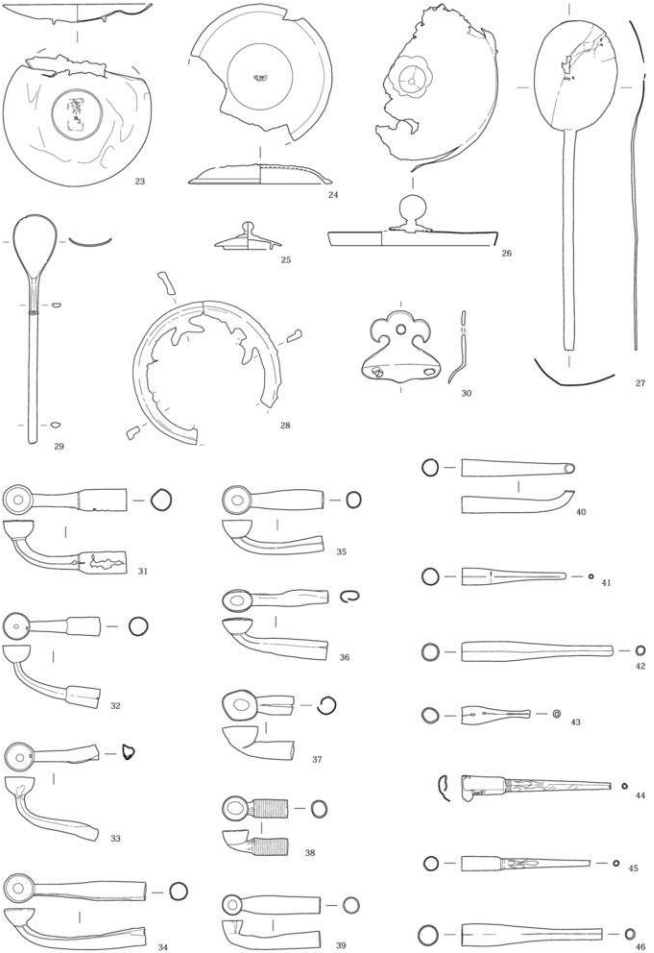


図 120　金属製品　(2)

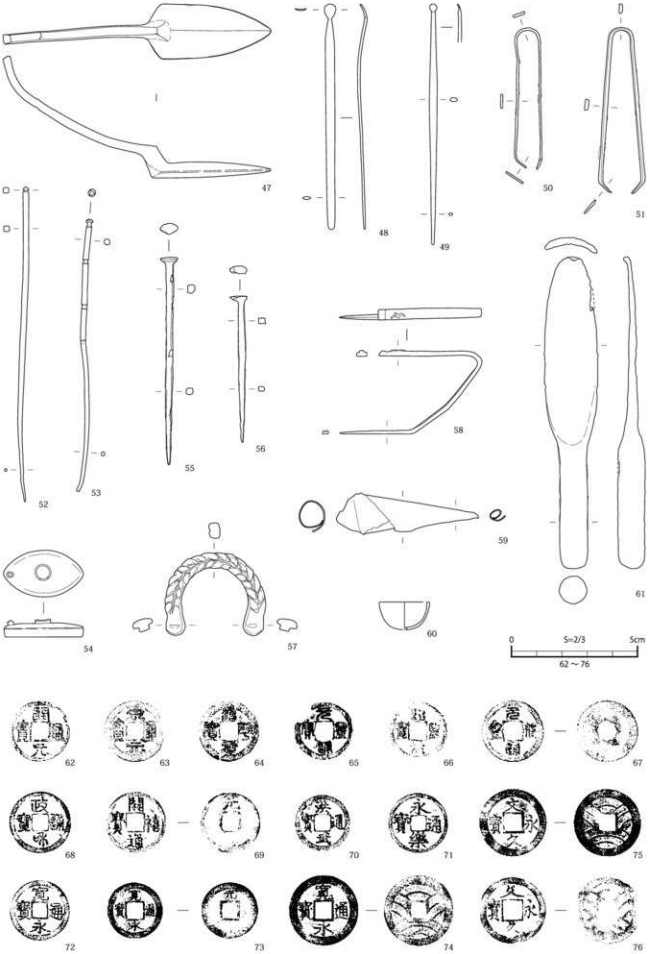

47
48
49
50
51
52
53
55
56
58
59
60
61
54
57
0
S=2/3
5cm
62～76
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
75
72
73
74
76

図 121　金属製品　(3)

第７節　ガラス製品・その他材質製品（表 13・14、図 122、写真図版 24）

今回の調査では、ガラス製品、べっこう製品、骨製品、合成樹脂製品、壁材、布製品、その他不明品が出土した。遺物の生産時期は近世～昭和戦後頃まで下るが、本願寺別院、旧本願寺保育園等、近代以降の調査地の土地利用との関連を鑑みてこれらを本稿で報告する。出土遺物のうち図示可能な 25 点の実測図に加え、4 点のガラス瓶の写真及び拓本を提示した。以下、概要を種別に述べる。

ガラス製品（1 ～ 15）

石蹴りの玉、ビー玉、おはじき、瓶、簪・笄、不明片等 43 点が出土。うち 11 点を図示、瓶 4 点の写真及び拓本を掲載した。1・2 は石蹴りの玉である[文献3]。いずれも裏面に木の葉形の陰刻がある。3 は白地に赤・緑・水色が入るマーブル玉、4 はビー玉で、いずれも近代以降のものと思われる[文献2]。5 ～ 8 はガラス瓶であり、刻印・形状等から、近代から戦後期の生産品と比定できる[文献6]。5 は合成樹脂製の蓋・中蓋が残存する薬瓶で、胴部に「小林タムシチンキ」、蓋には「☆ KOBAYASHI」の陽刻がある。6 は胴部に「柳屋ヘヤートニック」の陽刻がある、1952 年以降の生産品である。7・8 はインク瓶である。7 は底部に「RIGHT INK 2 oz MAID IN JAPAN」の陽刻、8 は底部に「SIMCO」の陽刻が施され、8 の内部にはインクが付着している。9 ～ 15 は簪・笄である。ほとんどが両端欠損しているが、10 の表裏には菊あるいは桜と思われる花の意匠が施される。ガラス製の簪・笄の出現期は明確ではないが、笄が一般化するのが貞享・元禄の頃、現在のイメージに近い簪の原型は正徳・享保の頃に始まると言われる[文献8]。享保末頃にはガラス製の簪も存在していたとされ、今回の出土品は武家屋敷に伴う可能性も考えられる。

べっこう（玳瑁）製品（16・17）

大名町３で２点、Ⅱ検土坑 123 埋土内より出土した。16 は半透明の黄色で断面方形、17 は黒色がかったオリーブ色に一部半透明の黄色で断面双円形を呈し、いずれも両端欠損する。簪または笄と思われる。べっこう製の笄が多く用いられるようになったのは、正徳・享保の頃からとされる[文献5]。

骨・貝製品（18 ～ 27）

14 点出土、うち 10 点を図示した。18 は歯刷子である。骨製歯刷子は明治 15 ～ 16 年頃から使用され、大正 4 年頃にはセルロイド製へ移行する[文献1]。19 は断面隅丸方形で箸状の笄か。20 は断面円形で先端部を尖らせた針である。21 は断面板状で平面形は箆あるいはばち状を呈し、両端欠損する。簪あるいは眉毛を整える化粧道具などか。22 は裁縫用の箆で、使用時の擦痕が残る。23 ～ 25 は貝製の白碁石である。26 は印章で、大小２面の印面を両端に持つが、印の内容は判然としない。27 は２枚貝の右殻を貝杓子として使用したもの[文献4]で、柄を取り付けるための２か所の穿孔が残る。貝種はイタヤガイか[文献4・7]。

合成樹脂製品（28・29）

5 点出土、うち２点を図示した。いずれも簪である。28 は簪頂部の飾り部で、円板部の両面に花模様が描かれる。29 は完形で頂部に円形の飾り部が付く。飾り部の意匠は不明だが、緑青の様な付着物が見られる。

〈参考文献〉

文献１　松田裕子・編　1991『改訂　歯ブラシ事典』　学健書院

文献２・３　多田敏捷・編　1992『おもちゃ博物館　④めんこ・ビー玉・㊙女の子の玩具』　京都書院

文献４　江戸遺跡研究会　2001『図説　江戸考古学研究事典』

文献５　矢野憲一　2005『ものと人間の文化史　126・亀』　財団法人法政大学出版局

文献６　桜井準也　2019『増補　ガラス瓶の考古学』　六一書房

文献７　高重博　2019『ネイチャーウォッチングガイドブック　日本の貝』　誠文堂新光社

文献８　露木宏・宮坂敦子　2020『すぐわかる日本の装身具　―飾りと装いの文化史―』　東京美術

表 13　ガラス製品観察表

	ID	図No.	器種	検出面	遺構	時代	色調 / 透明度	長 / 口径 (cm)	幅 / 底径 (cm)	厚 / 高 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
1	土-1-ガ-1	1	石製の玉	I	建2	大正末～昭和前期	黄～オリーブ / 透明	4.25	4.15	1.00	27.10	完形	表面「科王」→刀2本 裏面丸の星型のロゴ　気泡複数
2	土-1-ガ-2	ビール	I	建2	明治末以降	明治末以降	濃緑 / 不透明	1.60	1.55	1.50	5.40	完形	形状歪み　製造時のキズ残る
3	土-1-ガ-3	ビール	I	建2	明治末以降	明治末以降	緑 / 透明	1.65	1.60	1.65	6.70	完形	気泡複数　製造時のキズ残る
4	土-1-ガ-4	調玉か	I	建2	明治末以降	明治末以降	淡緑～濃緑 / 透明	1.60	1.60	1.60	5.90	完形	気泡複数　製造時のキズ残る
5	土-1-ガ-5	おはじき	I	建2	明治後半以降	明治後半以降	石色・茶色 / 不透明	1.65	1.55	0.30	1.30	完形	
6	土-1-ガ-6	おはじき	I	建3	明治後半以降	明治後半以降	無色 / 透明	1.65	1.50	0.35	1.50	完形	気泡複数
7	土-1-ガ-7	ビール	I	建3	明治末以降	明治末以降	濃青 / 透明	1.60	1.55	1.55	5.40	完形	表面の一部に剥がれ残る痕跡
8	土-1-ガ-8	瓶	I	廃棄土坑	不明	不明	無色 / 不透明	-	-	-	(460)	一端欠損	断面：長方形 胴部しかないため正確な形状不明
9	土-1-ガ-9	瓶	III	木蓋5	近世か	近世か	黄 / 半透明（黒斑無し）	(5.00)	1.00	0.50	(7.40)	一端欠損	断面：長方形
10	土-1-ガ-10	瓶	III	廃棄土坑	大正以降か	淡青緑 / 透明	白：2.55	-	制限：050 高：5.900	(17.50)	破片	胴部片のみ残る　気泡多い	胴部片のみ残る「～TOR～ ～ISKY　～OF　JAPAN」の陽刻
11	土-1-ガ-11	瓶	III	廃棄土坑	昭和4～20年代か	大正以降か	緑 / 半透明	-	制限：080	(26.00)	破片	胴部片のみ残る	胴部片のみ残る「～TOR～ ～ISKY　～OF　JAPAN」の陽刻
12	土-1-ガ-12	瓶	III	廃棄土坑	昭和末～大正初か	淡青緑 / 透明	底：3.72 口：2.35	底：2.99	制限：040 高：8.65	72.10	完形	内部に気泡多数	断面：長方形　胴 or 肩の形状部有
13	土-1-ガ-13	10	瓶	III	廃棄土坑	近世以降	無色 / 透明	6.20	1.55	0.50	(8.00)	両端欠損	断面：長方形　胴 or 肩の形状部有
14	土-1-ガ-14	瓶	III	廃棄土坑	近世以降	無色 / 不透明	9.95	1.60	0.35	2.00	完形か	断面：円形、平面 U 字状	胴部しかないため正確な形状不明
15	土-1-ガ-15	瓶	III	廃棄土坑	近世以降	無色 / 不透明	-	-	0.35	(1.20)	不明	胴部しかないため正確な形状不明	表面凹凸に付着物
16	土-1-ガ-16	ビール	III	廃棄土坑	明治末以降	淡青緑 / 透明	1.55	1.55	1.55	6.30	完形	内部に気泡複数	内部に気泡複数
17	土-1-ガ-17	ビール	III	廃棄土坑	明治末以降	淡青緑 / 透明	1.55	1.55	1.55	6.10	完形	内部に気泡複数	内部に気泡複数
18	土-1-ガ-18	ビール	III	廃棄土坑	明治末以降	淡青緑 / 透明	1.55	1.55	1.55	5.60	完形	内部に気泡複数	内部に気泡複数
19	土-1-ガ-19	2	石製の玉	III	廃棄土坑	大正末～昭和前期	濃青 / 透明	3.50	3.20	0.90	14.70	完形	表面凹凸、裏面木の葉形の陽刻
20	土-1-ガ-20	ビーズか	I	廃棄土坑	不明	不明	濃青 / 不透明	0.35	0.35	0.25	0.05	完形	表面凹凸
21	大-3-ガ-1	3	マーブル玉	I	水路1	大正～昭和か	白地＋黒斑色 / 不透明	1.60	1.59	1.59	5.2	一部欠損	球形、白地に赤・青・緑の模様 表裏凹凸無有
22	大-3-ガ-2	5	薬瓶	I	廃棄土坑	昭和両後か（20年代か）	茶 / 透明	底：4.78 口：1.50	底：3.76	制限：- 高：6.27	49.7	完形	断面外面陽刻「小林製薬 ビチンキ」 胴部側面の外面及び口縁付属
23	大-3-ガ-3	6	整髪料瓶	I	廃棄土坑	昭和27～31年頃	無色 / 透明	底：3.15 口：0.58	幅：1.40	制限：- 高：5.35	21.1	完形	断面外面陽刻 「椿油ヘヤートニック」
24	大-3-ガ-4	7	インク瓶	I	廃棄土坑	昭和4～20年代か	無色 / 透明	底：5.60 口：3.25	底：5.31	制限：- 高：6.71	115.0	完形	底部外面陽刻 「INK or MAID IN JAPAN」
25	大-3-ガ-5	8	インク瓶	I	廃棄土坑	大正～昭和前期か	無色 / 透明	口：28.8	底：4.64	制限：- 高：7.38	97.8	完形	底部外面陽刻「SIMCO」 内部インク付着、表面風化
26	大-3-ガ-6	4	ビール	I	廃棄土坑	明治末以降か	淡青緑 / 半透明	1.76	1.76	1.78	7.5	一部欠損	球形、整形痕、内部に気泡多数
27	大-3-ガ-7	瓶	II	溝31	近世か	青緑 / 半透明	(2.05)	0.40	0.20	0.7	両端欠損	断面：円形	
28	大-3-ガ-8	瓶	II	溝31	近世か	無色 / 透明	(2.90)	0.32	0.31	(0.5)	両端欠損	断面：円形	
29	大-3-ガ-9	11	瓶	II	土114	近世か	白 / 不透明	(4.50)	0.72	0.48	(5.4)	両端欠損	断面：長方形
30	大-3-ガ-10	12	瓶	II	土123	近世か	濃青 / 透明	(4.51)	0.55	0.53	(4.3)	両端欠損	断面：方形
31	大-3-ガ-11	13	瓶	II	土123	近世か	無色 / 透明	(5.10)	0.99	0.53	(7.8)	両端欠損	断面：長方形
32	大-3-ガ-12	14	瓶	II	土123	近世か	黒 / 不透明	(1.51)	(0.42)	(0.28)	(0.5)	両端欠損	断面：楕円形、平面丸の末状
33	大-3-ガ-13	15	瓶	II	土123	近世か	水色 / 透明	(5.48)	0.57	0.58	(6.1)	両端欠損	断面：方形
34	大-3-ガ-14	ビーズか	I	II	土131	不明	無色 / 半透明	0.40	0.35	0.20	0.05	完形	近代以降か
35	大-3-ガ-15	瓶	II	II	土142	近世か	無色 / 透明	(1.81)	0.58	0.41	(1.5)	両端欠損	断面：長方形
36	大-3-ガ-16	棒状製品	II	II	土143	不明	無色 / 透明	(7.56)	0.52	0.52	(5.8)	一端欠損	断面：円形　内部ねじれ 内部に針金状の気泡跡4　上具か
37	大-3-ガ-17	不明	II	II	土143	不明	青緑 / 不透明	2.13	0.89	0.24	0.6	破片	平面：円形
38	大-3-ガ-18	信号	III	廃棄土坑	昭和初期か	昭和初期か	白地＋茶色 / 不透明	2.76	2.51	0.80	8.4	完形	断面：扇平な楕円形
39	大-3-ガ-19	化粧瓶	-	壁	大正末～昭和20年代か	白 / 不透明	底：4.92 口：3.12	幅：4.10 底：2.80	制限：039 高：4.83	73.4	完形	スクリュー栓のねじ条　口ロ無	表面凹凸に付着物
40	大-3-ガ-20	不明	-	壁	不明	白 / 不透明	5.70	3.57	0.67	8.2	破片	側部外面2単位の突出部	側部外面2単位の突出部
41	大-3-ガ-21	不明	-	壁	不明	白 / 不透明	2.02	1.40	0.18	0.7	破片		
42	大-3-ガ-22	ビール	-	排土	廃棄土坑	濃青 / 半透明	2.41	2.40	2.38	18.1	完形	内部に無数の気泡	平面：円形、断面：扇平な楕円形
43	大-3-ガ-23	おはじき	-	排土	明治後半以降か	白 / 不透明	1.77	1.77	0.50	2.2	完形	中央部に孔（φ0.16cm）	中央部に孔（φ0.16cm）

※（ ）内数値は現存値を表す

表 14　その他材質製品観察表

	ID	図No.	器種	検出面	遺構	時代	材質	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
44	土-1-骨-1	18	歯ブラシ	I	建2	明治以降	骨	10.40	1.00	0.75	8.50	一端欠損	
45	土-1-骨-2	23	碁石（白）	I	建3	近世以降	貝	2.10	2.10	0.60	3.40	完形	表裏ミガキ
46	土-1-骨-3		櫛材	I	廃棄土坑	不明	漆塗か	(6.80)	(3.70)	0.50	22.50	破片	2片有
47	土-1-骨-4	19	骨か	I	廃棄土坑	近世以降	骨	(6.00)	0.65	0.65	7.10	ほぼ完形	断面隅丸方形
48	土-1-骨-5	26	簪	I	廃棄土坑	近代以降	合成樹脂	7.70	4.40	0.45	10.40	一端欠損	断面頭部の膨らむ、表裏に花の彫
49	土-1-骨-6		不明	I	廃棄土坑	不明	骨か	2.55	2.55	0.10	1.40	完形	平面輪形
50	土-1-骨-7	27	印行子	II	廃棄土坑	近世か	イタヤガイか	5.65	5.95	0.10	(13.10)	ほぼ完形	穿孔2か所あり（杓子成り付け部分か）
51	土-1-骨-8		骨か	II	建物跡	近世以降	骨か	7.80	0.60	0.60	3.43	一端欠損	断面隅丸方形
52	土-1-骨-9		角	III	土424	不明	不明			0.10	14.90		
53	土-1-骨-10	20	釘状製品	III	廃棄土坑	不明	骨か	8.50	0.60	0.50	1.50	完形	穿孔無し
54	土-1-骨-11	21	箆状製品	III	廃棄土坑	不明	骨	(11.05)	(2.55)	0.20	(7.40)	両端欠損	
55	土-1-骨-12		笄	III	廃棄土坑	近世以降か	骨	(12.60)	2.10	0.60	16.70	一端欠損	断面隅部欠損
56	土-1-骨-13		不明	III	廃棄土坑	近代以降	コハク	9.00		0.35	0.20	破損	
57	土-1-骨-14		櫛材	III	-	近世以降か	漆塗	(5.20)	(4.15)	0.60	(10.10)	破片	
58	土-1-骨-15		不明	III	-	近代以降	合成樹脂	(7.05)	(4.70)	0.20	(4.20)	破片	
59	土-1-骨-16		不明	III	-	近代以降	不明	(6.10)	(0.25)	0.30	(5.00)	破片	同一側面か　板状製品
60	土-1-骨-17		不明	III	-	近代以降	不明	(7.15)	(3.40)	0.30	(5.00)	破片	同一側面か　板状製品
61	土-1-骨-18		不明	III	排土	不明	不明	1.95	1.85	0.65	2.70	完形	
62	土-1-骨-19	26	印章	IV	溝504	不明	角か	1.40	1.20	1.20	1.40	完形	頭部穿孔、両端面に印章（ネズミ跡押圧）
63	土-1-骨-20	22	笄	IV	廃棄土坑	近世か	骨	(3.00)	(2.40)	0.35	(2.10)	一部欠損	断面ほぼ楕円形
64	土-1-骨-21	29	簪		廃棄土坑	近代以降	合成樹脂	8.85	1.55	1.00	2.21	完形か	頭部表面一部剥離、内部に朱色の付着物
65	大-3-骨-1		不明	I	土35	不明	不明	7.20	0.45	0.45	6.20	折れ	2片に割れ　U 字状
66	大-3-骨-2		ボタン	I	土59	近代以降	合成樹脂	1.00	1.00	0.20	0.30	ほぼ完形	二つ穴
67	大-3-骨-3		ボタン	I	土88	近代以降	合成樹脂	1.55	1.55	0.30	1.20	完形	二つ穴
68	大-3-骨-4	24	碁石（白）	I	廃棄土坑	近世か	貝	2.05	2.05	0.55	3.20	完形	
69	大-3-骨-5	25	碁石（白）	I	廃棄土坑	近世か	貝	2.15	2.15	0.40	3.50	完形	
70	大-3-骨-6		印行子	II	溝31	近世か	貝			0.15	(14.20)	破損	穿孔あり（杓子成り付け部分か）
71	大-3-骨-7	16	簪	II	土123	近世か	べっこうか	(4.67)	0.45	0.45	(3.0)	両端欠損	断面：方形
72	大-3-骨-8	17	簪	II	土123	近世か	べっこうか	(4.1)	0.56	0.25	0.8	両端欠損	断面：楕円形
73	大-3-骨-9		櫛材	III	掘及	不明	スレ・トカ	(8.20)	(5.60)	0.40	34.60	破片	板状
74	大-3-骨-10		櫛材	III	掘及	不明	漆塗	(3.95)	(2.80)	0.70	7.20	破片	

※（ ）内数値は、現存値を表す

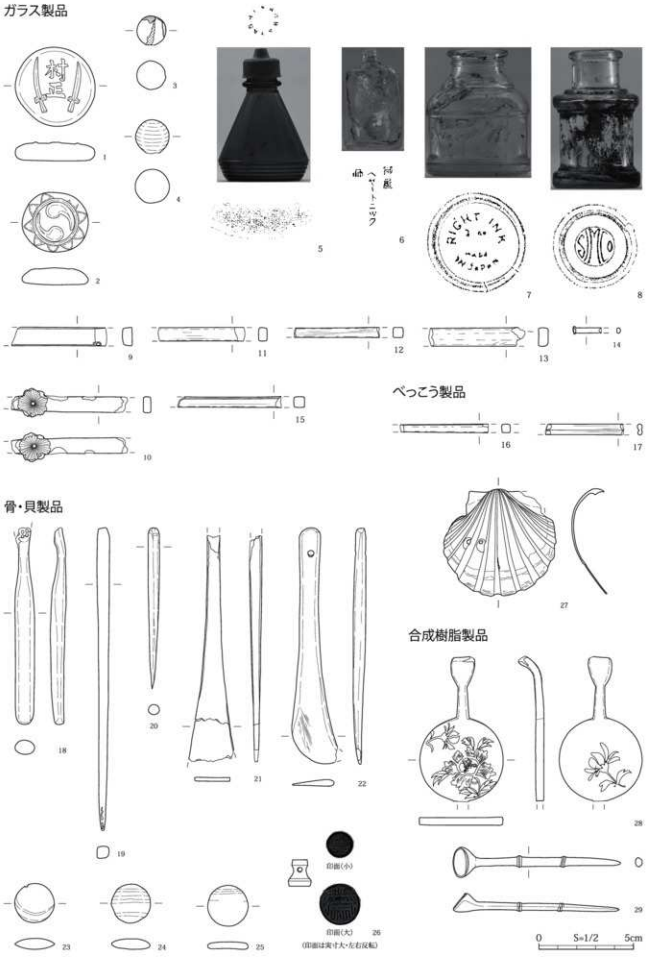


図 122　ガラス製品・その他材質製品

第 8 節　自然遺物（表 15 ～ 17）

出土した自然遺物のうち、動物遺存体 389 点と植物遺存体 2,331 点、計 2,720 点について肉眼観察で同定を実施した。なお、大名町 3 では 31 点の動物遺存体を（一社）文化財科学研究センターへ委託し、肉眼及び双眼実体顕微鏡での観察、形態的特徴および現生標本との対比によって同定をおこなっている。

1　動物遺存体

哺乳類　土居尻 1 の哺乳類出土骨 50 点のうちニホンジカが 32 点と大半を占め、次にウマ 8 点と続く。ほぼ全ての骨がⅢ・Ⅳ検で出土しており、出土遺構は溝 301（屋敷境）・土 430（ゴミ穴）・溝 504（水道遺構）で多く、廃棄されたものと考えられる。大名町 3 では、Ⅰ検で 18 点、Ⅱ検で 131 点の出土骨を確認し、ニホンジカとウマの骨では解体痕が観察された。特筆すべきは、Ⅱ検の土 161 と土 183 でのイヌとネコの出土骨で、ほぼ全身分が揃い解体痕も散見されないため愛玩動物として飼育されていたと考えられる。

鳥類　土居尻 1 では 11 点、大名町 3 では 13 点の出土骨を確認した。役畜のニワトリや野生動物のキジ

表 15　骨出土遺構一覧表

調査名	検出面	出土遺構	同定種／部位										
			ニホンジカ	カモシカ	イノシシ	イヌ	ネコ	タヌキ	ウマ	鳥類	魚類	他
土居尻 1 次	Ⅰ	石列 F										不明
	Ⅱ	検出面				歯				鳥類 / 中足中足骨		不明
	Ⅲ	溝 301	橈骨・大腿骨・中手骨・蹄骨・上腕骨・橈骨・距骨							ニワトリ / 上腕骨		
		木柵 303										不明
		土 313	中手骨・中節骨・趾骨									
		土 342								キジ ♂ / 上腕骨		
		土 345										は乳類
		土 352										不明
		土 368							大腿骨			
		土 397	橈骨									
		土 416								カワウ / 手根中手骨		
		土 430	尺骨・橈骨・距骨・中足骨							ニワトリ / 烏口・尺骨・脛足根骨、キジ / 橈骨		
		P418							指骨			
		検出面	脛骨・橈骨・橈骨・中手骨・角・冠甲骨	中手骨・脛骨	蹄骨			大腿骨	上腕骨・指骨・歯	猛禽類 / 爪・不明		不明
	Ⅳ	溝 503	蹄骨									
		溝 504	距骨（破片）・上腕骨・中足骨・蹄骨							鳥類 / 中足中足骨		
		溝 505										は乳類
		土 519	中手骨									
		土 522										は乳類
		土 543							不明			
		土 560	上腕骨									
		検出面	角									
大名町 3 次	Ⅰ	溝 9	橈骨									
		溝 15								不明		
		溝 16										は乳類 / 指骨
		土 23					下顎骨・上腕骨・尺骨・脛骨・他					
		検出面					大腿骨			ホシ科 / 大腿骨・尺骨、鳥類 / 指骨		
	Ⅱ	溝 7	橈骨（環椎）						蹄骨			
		土 7	脛骨（中節骨）									
		土 85								カモ科 / 上腕骨		
		土 110	橈骨（環椎）									
		土 114								小型鳥類 / 距腿骨・下顎骨・手根中手骨・他	マダイ / 上下顎骨・前上顎骨・角骨・橈骨・他	
		土 119					脛骨・大腿骨					
		土 123	大腿骨			下顎骨	大腿骨胴骨			鳥類 / 四肢骨	タイ科 / 橈骨、硬骨魚類 / 指骨	サンゴ類
		土 124									魚類 / 橈骨・他	は乳類
		土 125									魚類	
		土 129								カラス科 / 尺骨		
		土 131										
		土 143								カモ科 / 尺骨、ハト科 / 烏口骨		は乳類 / 四肢骨
		土 161				距腿骨・下顎骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・脛骨・橈骨						
		土 183					距腿骨（破片）・下顎骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・脛骨・指骨・胴骨・脛骨・橈骨・蹄骨・中手／足骨・指骨）					
		検出面		中手骨								

など大半が食用とされていた種類であり、やはり残骸を廃棄したものと考えられる。

魚類　同定できたものはマダイとタイ科で８点あり、遠く信州まで運ばれてきた海産物である。被熱による白色変化が見られるものもあった。

貝類　今回の調査では８種が同定できた。シジミ以外は、海水域・汽水域の食用貝であり、魚類の出土骨と合わせて流通の様子がわかる資料である。大名町３の土 114 でのシジミ（多くがマシジミか）の出土数は群を抜いており、アワビやサザエなどの高級食材と比べ多く食膳に並べられたと思われる。

2　植物遺存体

土居尻１では９種を同定し、Ⅰ検を除く検出面で多くの種子が確認できた。Ⅲ検の井戸 309 や桶 303 の水道遺構ではカボチャ、ウリ類が多く出土している。Ⅱ検の検出面で確認されたオニクルミは、食用部が内包されていた完形の状態で多数出土している。大名町３ではⅡ検からのみの出土であるが、同定可能なもので 10 種、同定不可能なものを含め多種多様な種子が水道遺構を中心に大量に出土した。

〈参考文献〉
文献１　松井　章　2006『動物考古学の手引き』奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター
文献２　金原裕美子　『松本城三の丸跡出土遺物化学分析業務委託報告書』（一社）文化財科学研究センター（松本市教育委員会所蔵）
文献３　鈴木康夫・高橋冬・安延尚文　2018『増補改訂草木の種子と果実』　誠文堂新光社

表 16　貝類出土遺構一覧表

			シジミ	ハマグリ	サルボウ	アワビ	不明二枚貝	サザエ	マイマイ	タニシ科	不明巻貝
土居尻１	Ⅰ	建１	2								
		検出面							1		
	Ⅱ	検出面	1					3			
	Ⅲ	土３２７		1	4						
		土３４２						1			
		土４０７						1			
		土４３０									1
		検出面		1			1				
	Ⅳ	溝 502				1					
大名町３	Ⅱ	土 114	48（他小破片多数）						8		1
		土 125	5								
		壁面								1	

表 17　種子類出土遺構一覧表

	検出面	遺構	オニクルミ			モモ		ウメ			サクラ		アンズ		カボチャ		ウリ	ヒョウタン	ブドウ?	マツ		その他		合計
			完	半	破片	完	半	完	半	破片	完	半	完	半	完	半	完	完	完	完	半	種類	完	数
土居尻１	Ⅰ	建					1	1																1
	Ⅱ	検出面	53	4		2	5																	64
		不明																				シイタケ	1	1
	Ⅲ	検出面		2		1																		3
		井戸 309		1		5	2								25			1						34
		桶 301															1							1
		桶 303															57							57
		溝 302				1																		1
		池状遺構																		2		モミガラ	1	3
		土 301		2			1																	3
		土 330	1	2																				3
		土 336																1						1
		土 341		4		1																		5
		土 342		5			2																	7
		土 362		6		3	3																	12
		土 385		1																				1
		土 395		1																				1
		土 397		3																				3
		不明	1	4	2								1											8
	Ⅳ	検出面																		1				1
		溝 504				1																		1
		土 545															6							6
		土 597													50									50
		集石列				1																		1
大名町３次	Ⅱ	土 114			1	11	2	27		1			2		590	105	2		357			不明	137	1235
		土 123																				モミガラ	多量	多量
		土 124				3		9	1		5	4		2	3	1	6		4	6	1	不明	37	82
		土 125		2	3			9			2	3	1			2	16		7	2	1	不明	28	76
		土 131									2					1	309		2			不明	326	640
		土 203															30							30

第Ⅵ章　松本城三の丸跡出土漆器の考察

はじめに

松本城跡および松本城下町は女鳥羽川由来の扇状地扇端部にあたり、湧水に富んだ地形であるため、本調査でも残存状態の良好な大量の木製品を得ることができた。本章では、かつて松本城三の丸に居を構えた武士の生活を理解するための材料として、飲食にまつわる木製の生活什器、とりわけ出土点数の多い漆器椀類を中心に、考古学的視点からどのようなアプローチが可能であるかを試みたい。また、漆器の材質・製作技法についても若干の推察を交えながらみていきたい。

1　松本城三の丸跡出土漆器椀類の器形別時期区分

⑴　漆器椀類の器形分類〈図 123〉

本報告では漆器椀類を器形分類するにあたり、[注1］の分類を再考し、器形の特徴によって6類に大別した。以下、各分類の特徴を挙げる。

腰丸形　腰から口縁にむかって丸みをもって立ち上がるもの。腰の張ったものや、球体を半截したような深型のもの、扁平・浅型のものなどがあるが、ここでは細分せず一括する。

腰高腰丸形　深型の丸腰で、高台が高く器高が高いもの。高台内の挽き込みが浅いものから深いものまである。器厚は厚いものが多い。

腰形　腰に一本の稜をもつ。いわゆる「一文字腰椀」である。腰が張っており、胴は内湾しながら立ち上がるものと直線的なものがある。

腰高腰形　腰形に高い高台をもつもの。

壺形　腰に二本の稜をもつ面取り椀で、器高が高い。なお、［注2］の分類では腰に稜をもたない腰丸を含むが、当遺跡での出土はない。胴はおよそ垂直に立ち上がり、「かつら」と呼ばれる凸帯をもつものもある。平形に対して口径が小さい。

平形　壺形に対して扁平な形態を有し、器高は低く口径が大きい。面取り椀と腰丸のものがある。壺形と同様の系譜上にあると考えられる。平形の椀蓋は全体に扁平だが、口縁が開く「落とし蓋」と、口縁がわずかに立ち上がる「被せ蓋」の2種類がある。

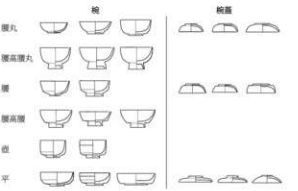


図 123　松本城三の丸跡出土漆器椀・椀蓋の器形分類

器形不明・他　遺物の残存状況により器形分類できないものを「器形不明」としている。また、皿・高杯・その他変形椀などについては器形によらず「他」としている。

⑵　漆器椀類の編年〈図 126・127〉

土居尻1出土の119点と大名町3出土125点の漆器椀類（椀・椀蓋・皿・高杯）計244点のうち、実測可能な213点（土居尻88点、大名町125点）を器形別に編年表として図126にまとめた。この編年表は、遺構の共伴関係にある土器・陶磁器によって推定された年代と、遺構の相対的層位関係に基づいて配列したものである。16世紀～江戸時代幕末までの期間を9時期に分割して配列している。なお、配列するにあたって、漆器椀類の型式細分（半球形・腰張形・深型など）、機能（飯椀・汁椀・飯椀蓋・汁椀蓋など）は考慮していない。遺構・共伴遺物より年代を推定することができないものについては、器形によらず「時期不明」にまとめている。実測図は10分の1スケールで掲載している。なお、土居尻1出土の椀類については［注1］に掲載している実測図を一部修正し、デジタルトレースしている。また、漆器椀・椀蓋の出土量を時期・器形別に表したものが図127である。

⑶　漆器椀類の変遷〈図 124〉

まず、図124をもとに松本城三の丸跡出土漆器椀類の器種を概観すると、最も多いのは179点出土の椀が73％、次いで椀蓋が60点で25％である。皿は4点、高杯は1点のみと僅少で、出土量に大き

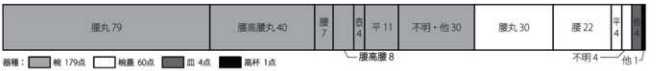


図 124　松本城三の丸跡出土漆器椀類器種器形内訳

な偏りがみられる。器形をみると、腰丸形は椀・椀蓋ともにおよそ半数を占めていることがわかる。

図 127 をみると、椀の腰丸・腰高腰丸形は 16 ～ 18 世紀前葉に出土量が多く、表の左半にまとまりがみられる。特に、腰高腰丸形は 17 世紀までを主体とし、18 世紀中葉以降にはほとんど姿を消している。また、図 126 の腰高腰丸形をみると、高台内あるいは見込みの挽き込みが浅く体部の器厚が厚いものと、高台内あるいは見込みの挽き込みが深く器厚が薄いものがある。前者は中世には一般的にみられる形状で、折敷や畳の上に置いて食事をしたものと考えられる。後者は腰丸形の椀・椀蓋を合わせた三重椀・四重椀といった重椀として、あるいは若干数出現する壺・平形の椀を加えた椀揃として、丈の高い脚付膳に並べて使われた可能性がある。中世によく使われた折敷が、江戸時代になると膳に代わることで、前者は早い段階で廃れたのだろう。後者は重椀・椀揃としてわずかに残るものの、江戸時代中期以降は腰高腰形の椀に代わるようにみえる。16 世紀にはみられなかった腰・腰高腰・平形は 17 世紀以降出現し、幕末になると存在感を増す一方、腰丸形は減少する。平形は一般に煮物などのおかずを供する器として認識されるが、当遺跡の江戸時代以後の遺構からは、シジミ、ハマグリ、サザエなどの食用と思われる二枚貝が散見されるほか、鯛の骨、焼塩壺、薬味入れなどが出土している。食の多様化が進むことで食漆器の器種も必然的に増加し、大型でないものが幕末まで残ったと考えられる。

また、腰丸形が減少する原因として、前述の事由に加えて陶磁器製のご飯茶碗の普及が挙げられる。江戸時代前期では大半が漆器で構成されていた食膳具であるが、江戸時代後期になると陶磁器碗の大衆化が起こり、幕末・近代以降になると「飯ワン＝陶磁器」という認識におおよそ置き換わる。松本城下においても、18 世紀に陶磁器製の飯碗が少量ながら出現し、18 世紀後葉～幕末には数を増す。この時期の漆器椀をみると、腰丸形は扁平なものが多く、飯椀として使用されたと思われる椀はほとんど姿を消している。このことから、18 世紀後葉～ 19 世紀初頭は「飯椀」から「飯碗」への転換期であったといえるだろう。

他に、腰高腰丸形を除く椀・椀蓋に共通する特徴として、高台の形状の変化が挙げられる。17 世紀頃までは高台が外に開く「ハの字高台」がほとんどであるが、18 世紀以降は高台が垂直になる[注3]。

2　松本城三の丸跡出土漆器椀類の製作技法

(1)　木地の取得〈図 125〉

土居尻 1 出土漆器椀類については、北野信彦氏が調査・分析しているため、そちらを参照されたい[注4]。大名町 3 出土椀類の木地をみると、横木地板目取りが 52 点、横木地柾目取りが 69 点、木地・木取りが不明なものが 4 点である。竪木地の椀類は土居尻 1・大名町 3 ともに確認できなかった。木地の特徴として、竪木地は歪みが生じにくく丈夫であるため、轆轤による薄挽きにも十分に耐えうる強度をもつ。しかし、製材・加工時の木材の廃棄部分

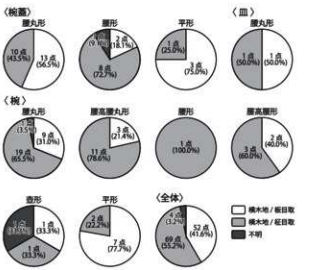


図 125　大名町第 3 次調査出土漆器椀類の木地

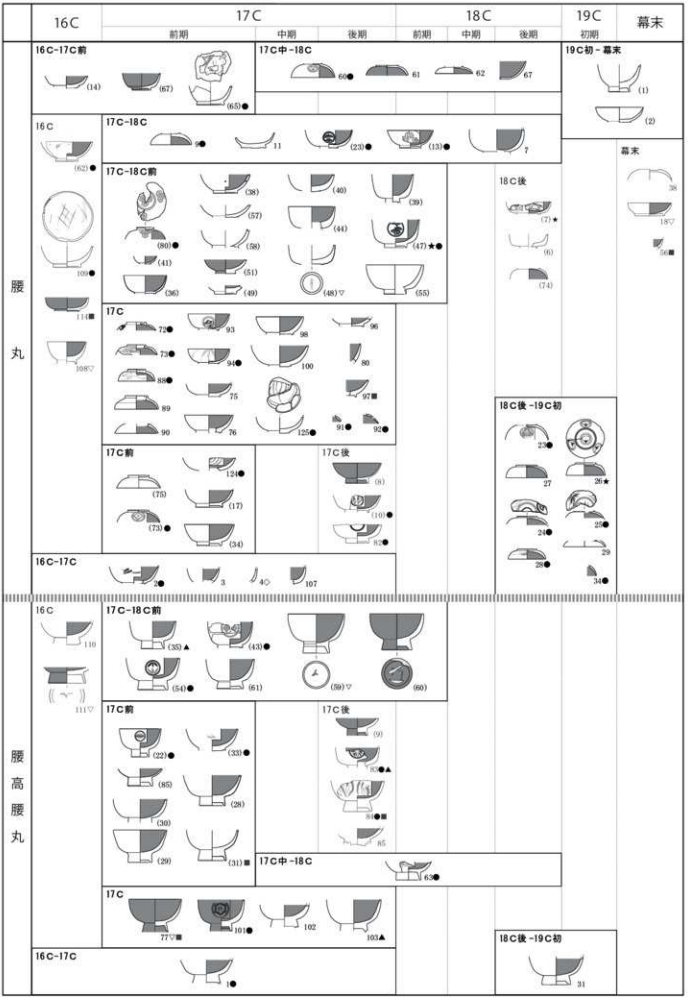
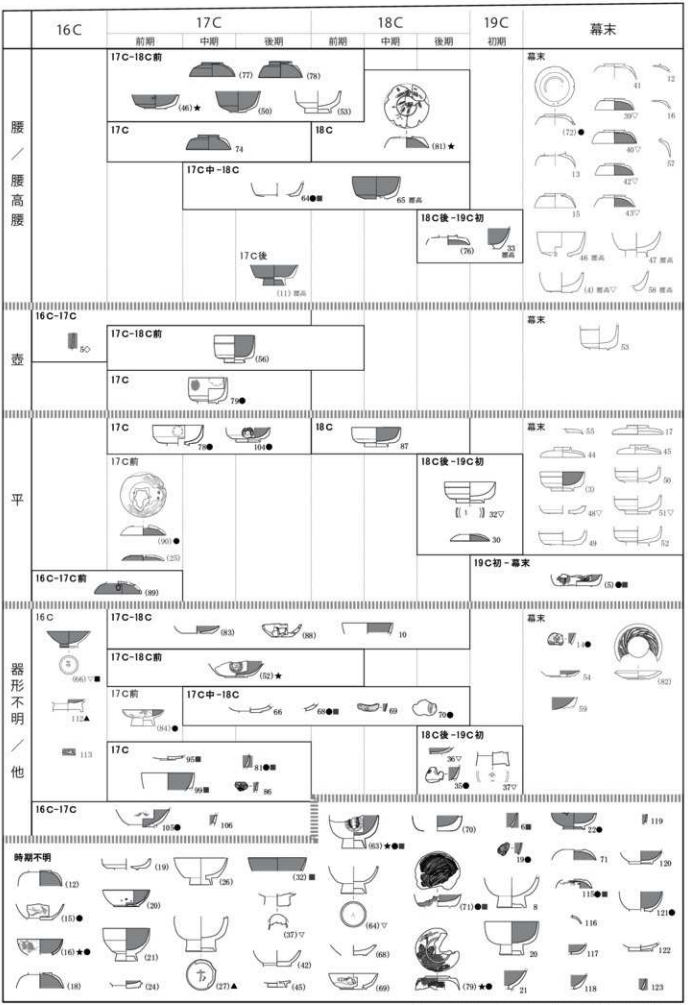


図 126　松本城三の丸跡出土漆器椀類編年表（左）



（右）

黒漆 ● ／ 赤色漆・朱漆 ● ／ 蒔絵 ○ ／ 色漆（黄・青・不明）●
漆絵：● 銘：▽ 蒔絵：★ 漆液容器：■ 漆下地：◇ 被熱：▲
土居民第１次調査：（国№） ／ 大名町第３次調査：国№

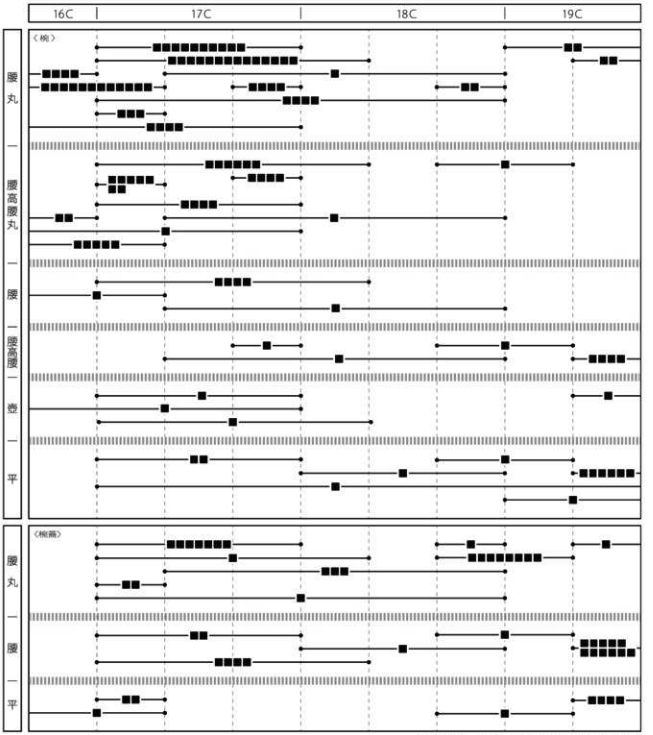


図 127　松本城三の丸跡出土漆器椀・椀蓋の器形別出土状況

が多いために一本の木から生産できる量は限られる。対して、横木地は収縮や欠けが生じ易いものの、製材・加工効率が良く、より多くの製品を得ることが可能であることから、横木地が採用された可能性がある。

器形別にみると、横木地柾目取りは腰丸・腰高腰丸・腰・腰高腰形の椀、腰形の椀蓋が優勢であるが、横木地板目取りは腰丸形の椀蓋と平形の椀・椀蓋が優勢であった。一般にトチノキ材は心材が広く、木地として使用できる辺材が少ないため板目取りが適する一方、ブナ材は芯に近いところまで利用が可能であり、木の狂いが少なく木地が多く取れる柾目取りが適する[注4]。腰高の椀は口径が大きく器高が高いため、横木地柾目取りの材が優先して用いられたのであろう。一方、腰丸形の椀蓋と平形の椀・椀蓋は他の器形と比べると口径に対して器高が低く、横

木地板目取りが木地の取得に適していたのだろう。

⑵　下地処理と塗漆の時期変化〈図 128・表 11〉

木地の下地処理法については、生漆に鉱物性粘土や珪藻土などを混ぜた下地漆を刷毛や箆で塗布する「漆下地[注5]」と、炭粉に柿渋や膠を混ぜた「炭粉下地[注6]」の２種類が主である。下地は複数回重ねたり、炭粉下地に漆下地を重ねる場合もある。

土居尻１出土の漆器椀類は［注４］より、２割程度が漆下地を施していることが分かっている。大名町３出土の漆器椀類で漆下地を施すものは、わずか３点（図 126- №４・５・123）のみである。№４・５の時期は共伴遺物より 16 ～ 17 世紀に比定され、№ 123 は第Ⅲ検出面より出土している。今回出土の漆器椀類の中では古い時期に属する。

塗漆については、土居尻１・大名町３ともに江戸時代前期までは、内外面黒漆塗りの「総黒」は数が少なく、外面黒漆塗り・内面赤色漆塗りの「黒内朱」と、内外面赤色漆塗りの「総朱」の漆器椀類が大半を占める[注7]。江戸時代後期になると、総朱はほとんどみられず、幕末には総黒が主となる。特に、平形の椀・椀蓋はいずれも炭粉下地の層が厚く、黒漆を複数回重ねた後に呂色仕上げを施しており、漆下地に劣らず非常に堅牢な仕上がりとなっている。

⑶　加飾技法〈図 129、写真図版 25〉

松本城三の丸跡出土漆器椀類のうち、およそ２割に加飾が認められる。16 世紀および 16 ～ 17 世紀前葉に比定される椀類（図 126- №（62）・（65）・（66）・109・111）をみると、総黒は内面に漆絵、黒内朱は外面に漆絵、総朱は高台見付に銘が記される。いずれも線描きで、赤色漆のみの単色で描かれる。江戸時代になると、およそ 17 世紀（図 126- №（22）・2・82・83・101・104）と、18 世紀後葉～ 19 世紀初頭（図 126- №24・28・34・35）の２時期に黄色漆（写真１）で加飾した漆器椀類が認められる。また、蒔絵[注8]を外面に施した華やかな漆器椀類（図 4 - №（7）・（46）・（52）・（79）・（81）・26）が出現する。江戸時代の加飾は 16 世紀までとは一変し、複数色の色漆や蒔絵粉・金箔を用いたり、針描[注9]・付描[注10]・描割[注11]など複数の技法を組み合わせることで多種多彩な意匠が施されている（写真２～５）。なお、土居尻１では金粉・金箔による加飾のある資料が７点あるが、大名町３では１点内面黒漆塗・外面総金箔貼りの漆器が出土している。

土居尻１Ⅲ検からは、漆絵と消蒔絵[注12]の技法を併用した漆器椀蓋（図 126- №（79）、写真４～８）が出土している。椀蓋の外面・高台見付に菊花文様が漆絵によって描かれるが、赤色漆の花弁先端部に金消粉[注13]を蒔量し[注14]ている。写真７をみると、消粉が筋状に蒔かれ、花弁の縁には消粉が溜まっていることから、花弁周辺に蒔いた消粉を花弁に向けて毛房で払い蒔きしたことがわかる。菊の葉と蕚は青漆による漆絵で描かれる。青漆は透漆に石黄と藍

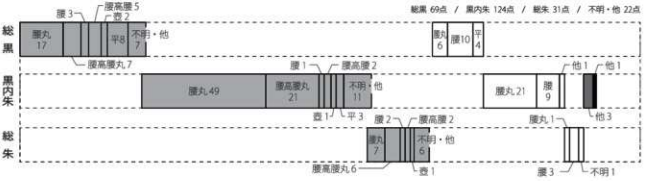


図 128　松本城三の丸跡出土漆器椀類の表層面（上塗）塗漆

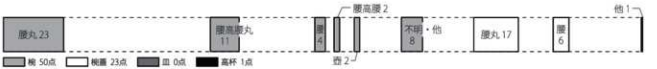


図 129　加飾（蒔絵・漆絵）のある松本城三の丸跡出土漆器椀類

を混ぜて緑色に発色させた色漆の一種であるが、経年劣化により藍が退色している（写真 8）。この資料は遺構・共伴遺物による年代の推定ができないが、青漆は江戸時代に開発された[注15]。

3　三葉葵紋のある希少資料〈図 130、写真図版 25〉

土居尻 1 では金蒔絵で三葉葵紋が加飾された漆器（図 130、写真 9 ～ 15）が出土している。陣中道具である刀掛あるいは手拭掛と思われるが、火災に遭ったのか、脚部の一部のみが残存する。側面（写真 9）と匙面（写真 10）に三葉葵紋が加飾されるが、3 つの葵の葉が異なる蒔絵技法を用いて描かれる。

写真 11 の葉と丸紋は平蒔絵で描かれ、葉脈は描割で表現される。写真 12・13 の葉は平蒔絵で描いた後、葉脈と縁を付描で表現している。匙面は後年の擦傷による影響が少なく、金粉の状態が良好であるが、側面の付描部分は他より盛り上がるため金粉が剥落しており、地描の絵漆[注16]が露呈している。写真 14 の葉は、高度な蒔絵技法である絵梨地[注17]で描かれ、葉脈と縁は付描きされる。通常、絵梨地には梨地粉という極薄く捩れた粉を使用するが、この資料では平蒔絵に使用している比較的均一でやや粒子の大きな丸粉が用いられており、金粉の使い分けはされていない。なお、絵梨地箇所には大小の銀の平目粉が混ざる（写真 15）が、他の平蒔絵や付描箇所には混入が認められないことから、意図して蒔いた可能性がある。

このように、平蒔絵・描割・付描・絵梨地といった複数の高度な蒔絵技法を駆使して描かれた三葉葵紋の漆器が、考古資料として出土する例は全国的にも非常に稀である。本来であれば廃棄されずに伝世品として残されたであろう優品であるが、大部分の焼失によってやむなく廃棄されたと考えられる。

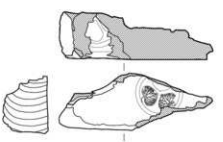


図 130　土居尻第 1 次調査出土漆器（S=1/3）

まとめと今後の課題・展開

松本城三の丸跡ではほかに、東北系椀にみられる菱文様の箔絵と赤色漆・潤朱漆で描かれた雲文様が描かれた櫃の蓋（写真 16・17）、紀州の根来塗の椀、滋賀県朽木地方で寛永年間（1624 ～ 1644）頃に生産[注18]された朽木盆の意匠が施された皿（写真 18）など、広域流通があった可能性を示唆する資料が出土している。三の丸に居住していた武士の生活水準を理解するための一助として、遺構や廃棄状況・共伴遺物といった出土状況のほか、材質・製作技法などにも注目し、複合的な視点をもって研究を重ねていく必要があるだろう。また、これらの比較材料として、三の丸形成前あるいは城下町出土の資料についてもデータを収集していきたい。

〈脚注 / 参考文献〉

注 1　松本市教育委員会 2003『長野県松本城三の丸跡 上居尻第 1 次 緊急発掘調査報告書 ～遺物編 2（木器編）～』

注 2　中井さやか 2000「都立文京盲学校地点出土漆器椀の考古学的分析」『小石川牛天神下－都立文京盲学校地点における発掘調査報告書－第三分冊（遺跡の分析編）』pp.937

注 3　本工轆轤技術の向上によって、垂直な高台であっても器を安定して据えることができるようになったためか。

注 4　北野信彦 2000「松本城下（松本城三の丸跡・伊勢町遺跡）出土の漆器について－生産技術面（材質と製作技法）からみた出土漆器資料を中心として－」『信濃』52（10）

注 5　本型地・錆下地・本下地など、材料・工程・産地によって様々な呼称があるが、ここでは漆が共通の材料であるため漆下地と呼称する。

注 6　前者は渋下地、後者は膠下地。柿渋と膠の判別が不能であるため、ここでは炭粉下地と呼称する。

注 7　四柳嘉章氏によると、平安時代では朱漆器の使用は貴族の中でも最高位の身分の者に限定された。15 世紀以降は朱漆器を所有する武士が増加し始め、蒔付への普及は 16 世紀以降である[注18]。

注 8　地描漆で文様を描いた後、蒔絵粉を蒔く技法。地描漆が固化した後、蒔絵粉に生漆を染み込ませる粉固めを行い、磨き上げる。

注 9　引っ掻き技法。漆で描いた文様が固化しないうちに針状の道具で漆を掻き取り、細い線を表現する。

注 10　蒔絵や螺鈿などの上に、葉脈や流水線などの線を描く技法。平蒔絵の一種。漆絵で描く場合もある。

注 11　葉脈や境界などの線を残して描く技法。

注 12　消粉[注13]を用いた蒔絵のこと。粉の粒子が細微であるため、蒔き放しで仕上げる場合が多い。

注 13　金箔を水箔と練り潰して粉状にした、最も細かな金粉。

注 14　地塗りした漆の上に、濃淡を変えながら蒔絵粉を蒔く技法。

注 15　北野信彦 2005「近世出土漆器の研究」

注 16　蒔絵粉を蒔く際に用いる弁柄漆。地描漆の一種。

注 17　地描漆で描いた文様に梨地粉を粗く蒔き、地描漆が固化した後、透漆（梨地漆など）を塗り込む蒔絵の技法。透漆を透かして梨地粉が見え、梨の果実の肌に似ることに由来する。器物の地に施す場合は梨地（梨子地）と呼ぶ。

注 18　国立歴史民俗博物館 2017『企画展示　URUSHI ふしぎ物語－人と漆の 12000 年史』

注 19　四柳嘉章 2018「中世漆器の技術転換と社会の動向」『国立歴史民俗博物館研究報告』210

第Ⅶ章　調査のまとめ

平成３年に実施された松本城三の丸跡土居尻１次は、松本城三の丸内で行われた初の本格的な発掘調査である。わずか３か月余りの調査期間で、大方の予想に反して松本城跡の遺構と遺物が非常に良好な状態で残存していることが確かめられた。残存状態が良い最も大きな理由として、遺構検出面が最大で地表170㎝まであることが挙げられる。この調査が遺跡の範囲を見直すきっかけとなり、平成５年に城下町全域まで広げて周知の埋蔵文化財包蔵地に指定するに至った。以降、本書の執筆時点で三の丸跡内で29か所の本調査を行っており（武家屋敷地のみ）、松本城の様相の理解が深まってきている。

松本城の立地が低湿地帯で、湧水が豊富であるということもあり、これまでの三の丸跡や城下町跡での調査は大方困難を極めるものであった。一方で、そのような環境下にあったことが功を奏し、木製品や漆器製品などが、非常に良好な状態で発見されることが多くみられた。このことは、当時の暮らしを理解する上で、重要な意味合いをもつ。本調査においても大量の出土品に恵まれたことから、特に漆器製品について考察を行うことができた。

今回報告した２調査は、三の丸跡内で行われた調査の中で最大面積を測る。そのため、武家屋敷地内の一部を確かめる調査ではなく、複数の武家屋敷跡を横断的に調査することにより、屋敷境の変遷や屋敷内での建物や施設の配置を理解するための成果が得られた。

土地の造成では、調査地の西側と東側で造成方法が異なっているということがわかった。地形的に北東から南西に向かって標高が低いため、西側では造成土が厚く（45 ～ 60㎝）、東側では薄い（10 ～ 20㎝）堆積であった。また、東側では近世初期に造成して以降、盛土は行われておらず、近世をとおして同一レベルの生活面である。地山面において西側と東側で80㎝前後あったレベル差が、幕末までには50㎝前後にまで縮小しており、造成によって調査地一帯を平坦にしようとした意識がみられる。

調査地全体の遺構密度や遺物量を俯瞰してみると、石高が低い土居尻側の方が優位であるようにみえる。また、土居尻１からは希少性の高い遺物としてⅢ検で金箔かわらけ、Ⅳ検で三葉葵紋の漆器も出土している。

遺物整理の成果として、特に漆器品が遺存状態の良いものが大量に出土したこともあり、初の編年を組むことができた。２調査分を集成した成果であるため、今後、この編年を基に資料の充実を図り、より精度を上げていくことが期待される。

土居尻１の調査から30年近く過ぎた頃、市立博物館の移転新築事業が計画され、その事業地に土居尻１を含めさらに拡大された範囲で計画され、令和元年に大名町３を実施することになった。合わせて膨大な量の出土遺物や記録物が残り、整理作業は困難を極めたが、土居尻１は平成４年度に概要報告書、平成13年度に木器編を刊行した。その後、年号が令和になり実施された大名町３と合わせて整理作業を継続させ、今回報告書が刊行できる運びとなった。なお、新博物館の開館年（令和５年）に刊行するに至った。

最後になりましたが、本調査の実施と本書の刊行にあたり、ご協力いただいた地元をはじめとする関係者、関係機関各位、作業に携わった皆様、例言に記した皆様に深甚なる謝意を表し結びとします。

写真図版１

土居尻１　Ⅰ検全景（東から）

土居尻１　Ⅰ検建１（南東から）

土居尻１　Ⅰ検建２（北西から）

土居尻１　Ⅰ検建３・４（南から）

土居尻１　Ⅰ検建６（南東から）

土居尻 1　Ⅰ検褹 9（南から）

土居尻 1　Ⅰ検褹 13（西から）

土居尻 1　Ⅰ検 P3（南から）

土居尻 1　Ⅰ検 P16（南から）

土居尻 1　Ⅱ検全景（東から）

写真図版 3

土居尻 1　Ⅱ検井戸 8（東から）

土居尻 1　Ⅱ検集石列 1（南から）

土居尻 1　Ⅱ検木樋 7（南から）

土居尻 1　Ⅱ検木樋 7 ジョイント（南から）

土居尻 1　Ⅲ検（西から）

土居尻 1　Ⅲ検建 302（南から）

土居尻 1　Ⅲ検溝 301（北から）

土居尻 1　Ⅲ検集石遺構（東から）

土居尻 1　Ⅲ検井戸 304（北から）

土居尻 1　Ⅲ検井戸 308（東から）

土居尻 1　Ⅲ検竹管 302（西から）

土居尻 1　Ⅲ検池状遺構（西から）

土居尻 1　Ⅲ検土 415（西から）

土居尻 1　Ⅳ検全景（西から）

土居尻 1　Ⅳ検集石 501（南から）

土居尻 1　Ⅳ検溝 503（西から）

土居尻 1　Ⅳ検井戸 501（北から）

土居尻 1　Ⅳ検方形石列（西から）

土居尻 1　Ⅳ検溝 502（南から）

土居尻 1　南区全景（東から）

土居尻 1　南区総堀跡の北側斜面 1（西から）

市営松本城大手門駐車場南棟 1 階店舗前に設置された総堀位置の平面表示

大名町 3　1 検全景（南から）

写真図版 7

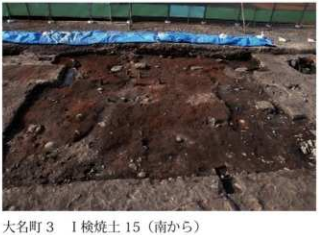
大名町３　Ⅰ検溝 4・10（南東から）

大名町３　Ⅰ検溝 4 礫検出（南から）

大名町３　Ⅰ検溝 15（南から）

大名町３　Ⅰ検溝 16（西から）

大名町３　Ⅰ検溝 16 銅線検出（南から）



大名町３　Ⅰ検焼土 15（南から）

大名町３　Ⅰ検瓦集範囲（西から）

大名町３　Ⅰ検水路 1（北から）

大名町３　Ⅱ検（合成写真、上が北）

大名町３　Ⅱ検土 123（南から）

大名町３　Ⅱ検土 143（南から）

大名町３　Ⅱ検土 161 犬骨検出（北から）

大名町３　Ⅱ検土 169（南から）

写真図版 9

大名町 3　Ⅱ検土 182（南から）

大名町 3　Ⅱ検土 191（東から）

大名町 3　Ⅱ検 194（北西から）

大名町 3　Ⅱ検土 196（東から）

大名町 3　Ⅱ検 197（南西から）

大名町 3　Ⅱ検土 198（南から）

大名町 3　Ⅱ検 201（東から）

大名町 3　Ⅱ検土 203（南から）

大名町３　Ⅲ検全景（合成写真、上が北）

大名町３　Ⅲ検建１（上が北）

大名町３　Ⅲ検溝７（東から）

大名町３　Ⅲ検溝９（東から）

大名町３　Ⅲ検溝 13（南東から）

土居尻１　Ⅰ検出土　磁器

土居尻１　Ⅰ検出土　陶器・土器

土居尻１　Ⅱ検出土　土器

土居尻１　Ⅱ検出土　陶器

土居尻 1　Ⅱ検出土　磁器

土居尻 1　Ⅲ検　溝 301 出土

土居尻 1　Ⅲ検　土 430 出土

土居尻 1　Ⅲ検出土　磁器

土居尻 1　Ⅲ検出土　陶器

土居尻 1　Ⅲ検出土　土器

土居尻 1　Ⅳ検出土

土居尻 1　Ⅲ検　土 424 出土　中国産青花

土居尻 1　Ⅲ検出土　金箔かわらけ

【参考】松本城三の丸跡土居尻第 15 次出土　金箔かわらけ

土居尻 1　中国産青磁

大名町３　Ⅰ検　瓦集中出土

大名町３　Ⅰ検出土　土器

大名町３　Ⅰ検出土　磁器

大名町３　Ⅰ検出土　陶器

大名町３　Ⅱ検　溝７出土

大名町３　Ⅱ検　土 123 出土

大名町３　Ⅱ検　土 143 出土

大名町３　Ⅱ検出土　磁器

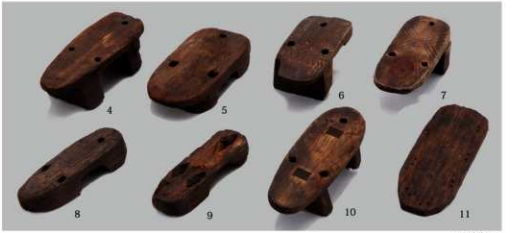
大名町３　Ⅱ検出土　陶器

大名町３　Ⅱ検出土　土器

大名町３　Ⅲ検出土

大名町３　土製品

工具・紡織具



服飾具

調理加工具・食事具

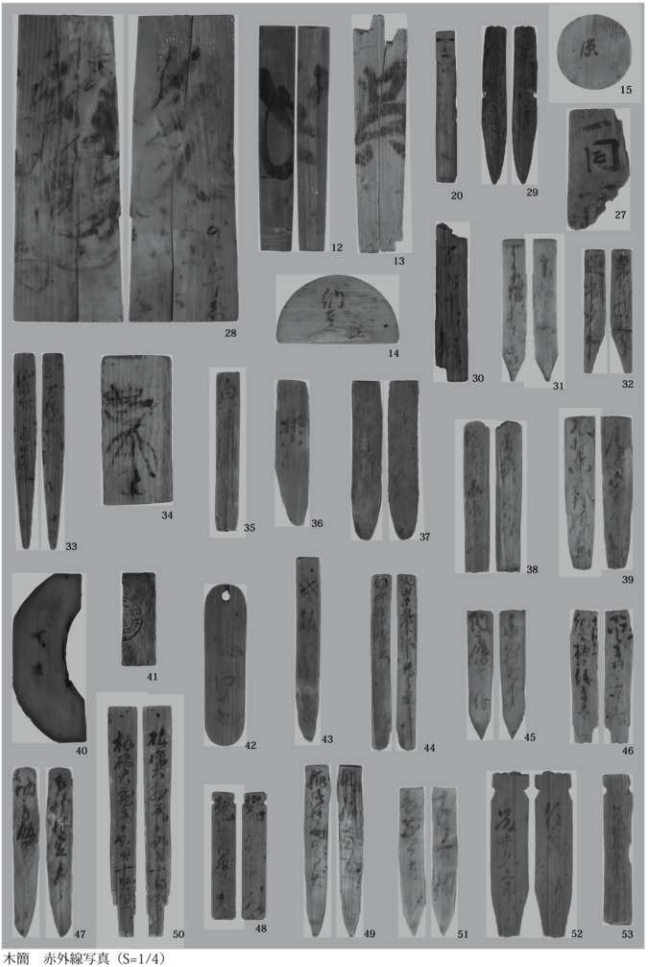
祭祀具

日用品

用途不明品

漆工用具

漆器


28
12
13
20
29
15
27
14
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
50
48
49
51
52
53

木簡　赤外線写真（S=1/4）

石製品（1 ～ 21・23 ～ 30：S=1/4、22：S=1/5）

金属製品 1（縮尺は実測図と同じ）

金属製品 2（縮尺は実測図と同じ）

軒丸瓦

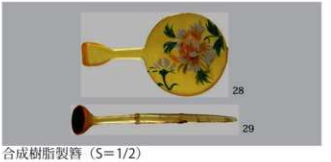
軒平瓦

鬼瓦

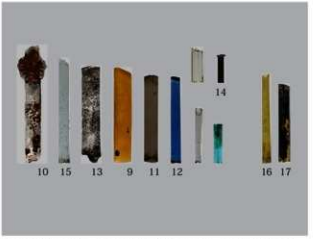
刻印瓦

刻印部（拡大）

ガラス製品



合成樹脂製簪（S＝1/2）



ガラス製・べっこう製簪（S＝1/2）　※未実測品含む

骨・貝製品（S＝1/2）

写真 1　黄色漆による漆絵 (針描)

写真 2　銀蒔絵 (針描)

写真 3　漆絵 (針描)

写真 4　漆絵 (付描)

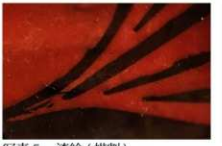


写真 5　漆絵 (描割)

写真 6　漆絵 + 消蒔絵

写真 7　消蒔絵 (蒔暈)

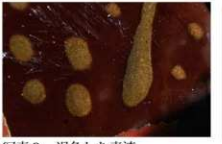


写真 8　退色した青漆

写真 9　丸に三葉葵紋 (側面)

写真 10　丸に三葉葵紋 (匙面)

写真 11　描割

写真 12　付描 (側面)

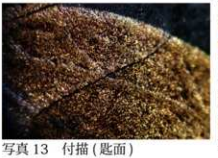


写真 13　付描 (匙面)

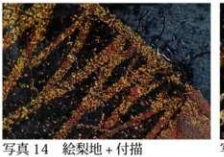


写真 14　絵梨地 + 付描

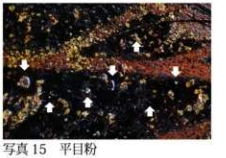


写真 15　平目粉

写真 16　東北系箔絵

写真 17　東北系箔絵 (拡大)

写真 18　溜塗の皿

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし　まつもとじょうさんのまるあと　どいじりだい１じ・だいみょうちょうだい３じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	長野県松本市　松本城三の丸跡　土居尻第１次・大名町第３次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	№ 249
編著者名	伊藤蔵之介、大西理美、高山いず美、西村奈美、原田健司、壬生量子
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-8620　松本市丸の内３番７号　TEL 0263-34-3000（代） （記録・資料保管：松本市立考古博物館　松本市中山 3738 番地１　TEL 0263-86-4710）
発行年月日	令和５年（2023）12 月 28 日（令和５年度）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
松本城（まつもとじょう） 三の丸跡（さんのまるあと） 土居尻（どいじり）	長野県（ながのけん）松本市（まつもとし） 大手３丁目（おおてさんちょうめ）2-27、 ２丁目（にちょうめ）3-10	20202	494	36° 14′ 6″	137° 58′ 6″	1991.04.09 ～ 1991.07.19	1,365.5㎡ （のべ 5,442㎡）	市営松本城大手門駐車場建設
松本城（まつもとじょう） 三の丸跡（さんのまるあと） 大名町（だいみょうちょう）	長野県（ながのけん）松本市（まつもとし） 大手３丁目（おおてさんちょうめ）61-3 ほか	20202	494	36° 14′ 7″	137° 58′ 9″	2019.04.15 ～ 2020.02.14	1,100㎡ （のべ 3,300㎡）	松本市基幹博物館整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松本城 三の丸跡 土居尻	城館跡 （武家屋敷）	戦国 ～ 近代	建物跡、土坑、ピット、水道遺構、井戸跡、溝状遺構、集石遺構	土器（金箔かわらけ、灯明皿、内耳鍋ほか） 陶磁器（肥前産、瀬戸・美濃産、京・信楽産ほか） 木製品（下駄、荷札、木櫛ほか） 漆器・漆工用具（椀、椀蓋ほか） 金属製品（煙管、銭貨ほか） 石製品（砥、砥石、茶臼、鋳型ほか） ガラス製品（簪、瓶ほか） その他材質製品（碁石、簪ほか） 自然遺物（獣骨、魚骨、貝、種子ほか）	希少遺物として、Ⅲ検で金箔かわらけ、Ⅳ検で蒔絵で描いた三葉葵紋の漆器がそれぞれ出土した。
松本城 三の丸跡 大名町	城館跡 （武家屋敷）	戦国 ～ 近代	溝状遺構 49 条、土坑 389 基、畝状遺構１基、水路跡１条、瓦集中部１カ所、焼土範囲 12 カ所		Ⅱ検で規模の大きい池状遺構（土 123）が検出され、18 世紀後～ 19 世紀初の一括資料が得られた。

要約

土居尻は、三の丸の南西部に位置する。100 ～ 250 石クラスの中級武士の屋敷地で、第１次調査地は土居尻の南端に位置する。４つの生活面を調査し、帰属時期はⅠ検が近代、Ⅱ検が 18 世紀後～幕末、Ⅲ検が 16 世紀後～ 18 世紀、Ⅳ検が 16 世紀と 17 世紀前の２時期と考えられる。Ⅰ検では、建物跡５軒を検出し、石列や胴木を用いた布基礎と礎石建ちの２種類あることが確認できた。Ⅱ検は、水道遺構である竹管や木樋、井戸跡が多く検出された。Ⅲ検は、最も遺構密度が濃く、遺物も大量に出土した。特筆される遺物に金箔かわらけがある。Ⅳ検でも建物跡等の多くの遺構が出土しており、特筆される遺物として全国的にも希少な三葉葵紋の漆器が挙げられる。

大名町は、大手門を通過した先に位置する。250 ～ 500 石クラスの上級武士の屋敷地で、第３次調査地は大名町の南端に位置する。３つの生活面を調査し、帰属時期はⅠ検が近代、Ⅱ検が近世、Ⅲ検が戦国時代末頃と考えられる。近世の生活面は１面のみしか認められず、隣地で実施された土居尻１次調査とは異なる土層堆積（造成経過）が確認された。Ⅰ検では、明治の大火の痕跡や、明治 13 年～昭和 30 年頃に存在した本願寺松本別院の本堂跡などを確認した。Ⅱ検は、武家屋敷に関わる建物や庭園、敷地境の遺構を確認した。Ⅲ検では、三の丸形成以前の区画溝や掘立柱建物の遺構を確認した。

松本市文化財調査報告　№249
長野県松本市
松本城三の丸跡　土居尻
－第１次発掘調査報告書－（遺構編・遺物編２）
松本城三の丸跡　大名町
－第３次発掘調査報告書－

発行日　令和５年12月28日
発行者　松本市教育委員会
〒390-8620
長野県松本市丸の内３番７号
印　刷　電算印刷株式会社